# 平成29年度公益財団法人JKA補助事業 **教育現場のICT安全安心対策事業**

# O歳児からの IT 機器利用と保護者の 情報モラル報告書

# 平成30年3月

# 一般社団法人日本教育情報化振興会





この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

# 0歳児からの IT 機器利用と保護者の情報モラル

# 目次

| 0.  | 調査の目的と概要                                    | 1    |
|-----|---|------|
| 0.  | .1 調査の目的                                    | 1    |
| 0.  | .2 調査の方法・概要                                 | 2    |
| 1.  | 乳幼児(末子)に利用させている情報機器(SQ4)                    | 3    |
| 1.  | .1 機器別の利用率と年齢別推移                            | 3    |
| 1.  | .2 乳幼児タブレット、パソコンの利用率と年収・母親学歴・母親職業           | 4    |
| 2.  | スマートフォンの専用・共用使用(Q1)                         | 6    |
| 3.  | スマートフォンを使わせている理由( <b>Q2</b> :子供専用の場合)       | 7    |
| 4.  | スマートフォンを使わせている理由( <b>Q</b> 3:親と共用の場合)       | 8    |
| 5.  | 子供が使っているサイトやアプリ(Q4)                         | 9    |
| 6.  | 子供のスマートフォン利用について心配していること( <b>Q5</b> )       | . 11 |
| 7.  | ネット活用で期待されるメリット (Q6)                        | . 13 |
| 8.  | スマートフォンを使い始めてからの変化( <b>Q7)</b>              | . 15 |
| 9.  | 親の機器の使用(Q8)                                 | . 18 |
| 10. | 保護者のスマートフォン利用 (Q9)                          | . 20 |
| 11. | 子どもがスマートフォンを安全かつ有効に活用する力をつけるために(Q10)        | . 22 |
| 12. | フィルタリングとペアレンタルコントロールの利用実態( $Q11,12,13,14$ ) | . 25 |
| 13. | 子どものスマートフォン利用における保護者の関わり( $Q16\sim19$ )     | . 29 |
| 14. | 子どもがスマートフォン利用していて経験したこと(Q22)                | . 35 |
| 15. | 子供からのスマートフォン利用に関する相談に一人で対処できない時の            |      |
|     | 対応(Q23)                                     | . 36 |
| 16. | 家庭での指導・教育(Q24)                              | . 38 |
| 17. | 子どもに期待していること( $Q25$ )                       | . 42 |
| 18. | 将来、子どもに身につけてほしいスキル( <b>Q26</b> )            | . 44 |
| 19. | 保護者のスマートフォン利用 (Q27・28)                      | . 47 |
| 20. | 親子関係と情報モラル教育のあり方                            | . 49 |
| 20  | 0.1 問題関心                                    | . 49 |
| 20  | 0.2 Q21 に基づく親子関係のあり方と情報モラル教育の関連             | . 50 |

| 20.2.1 本節での検証内容50  |
|--|
| 20.2.2 フィルタリングなど機械的コントロールの利用( $Q11、Q12、Q14$ ) $51$           |
| 20.2.3 子どものスマートフォン利用についてのルール作りや指導( $Q16$ 、 $Q18$ ) $53$      |
| 20.2.4 子どものスマートフォン利用についてしていること( $Q19$ )58                    |
| 20.2.5 本節からの知見   |
| $20.3$ 保護者や子どもの属性による $\mathrm{Q}20\cdot\mathrm{Q}21$ の回答状況59 |
| 20.3.1 本節での検証内容59  |
| 20.3.2 子どもとのコミュニケーション(Q20、Q21 の(1)~(3))60                    |
| 20.3.3 子どもとの関係( $Q21$ の $(4)$ ~ $(7)$ )                      |
| 20.3.4 本節からの知見   |
| 21. 情報モラルの社会的格差 — 格差化する家庭養育の陥穽66                             |
| 21.1 拡大する教育格差  |
| 21.2 情報モラルの格差  |
| 21.3 モラル意識の陥穽70  |
| <補足資料>   |

#### <補足資料>

質問票と単純集計結果

執筆の分担は以下の通り。

橋元良明東京大学大学院情報学環教授0、1、7、8、9遠藤美季エンジェルズアイズ代表10、11、14、19小寺信良一般社団法人インターネットユーザー協会代表理事12土井隆義筑波大学人文社会系社会学研究室教授21

堀川裕介 東京大学大学院学際情報学府博士課程 20

三宅健次 千葉大学教育学部特命教授・附属中学校副校長 13

 三輪清隆
 帝京中学高等学校教諭
 2、3、4、5、6、15

(以上、委員)

藤田由美子 株式会社ユーミックス代表取締役 16、17、18 (オブザーバー)

### O. 調査の目的と概要

#### 0.1 調査の目的

総務省情報通信政策研究所と東京大学橋元研究室が共同研究として毎年実施している「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」(全国 13 歳~69 歳が対象。無作為抽出、訪問留置調査。N=1500)によれば、2016 年でスマートフォンの利用率は 20 代で 96.8%、30 代で 92.1%に達する。同じ調査でテレビ受像機の利用率が 20 代 91.2%、30 代 93.6%であるから、もはやスマートフォンはテレビと同等に国民のほぼ全員が使っている機器であり、既に飽和状態にあると言える。

この数値からすれば、今の母親のほとんどがスマートフォンを利用していると考えてよい。実際、この調査でも母親のスマートフォン利用率は97.9%であった。

橋元らは2017年9月から10月にかけ、6件の共働き子育て家庭の訪問調査を実施したが、すべての家庭で両親ともスマートフォンを利用していたのはもちろんのこと、多くの家庭では乳児にスマートフォンの動画画面を見せていた。母親が子育ての不安を親や友人に尋ねたり、ネットで調べたりする機器として利用しているだけではなく、今やスマートフォンは乳児にとっても不可欠な子守道具となっている。と同時に、多くの親からは、そうしたデジタル機器を乳児に触れさせることの心身への悪影響を心配する声があがっていた。

こういった状況で我々は以下のことを明らかにすることを目的として子育て中の親に対して調査を実施した。

- (1)乳幼児-児童(0歳~12歳)におけるスマートフォンおよびデジタル機器利用の状況の把握
- (2)子のスマートフォン機器に対する心配と期待
- (3)親のデジタル機器利用状況
- (4)子どものスマートフォンの適切活用に要求される条件としてどのようなものを考えているか
- (5)子どものスマートフォンのフィルタリング利用状況
- (6) スマートフォン利用に関する子どもとの約束
- (7) 家庭でのデジタル機器利用をめぐる指導・教育
- (8)子どもの未来に対する期待と身につけて欲しいスキル

#### 0.2 調査の方法・概要

## (1)スクリーニング調査(オンライン調査)

調査日:2017年10月6日~11日

子どもを持つ約3万の標本モニター(マクロミル会員)から次の条件を抽出

- ①末子が 12 歳以下
- ②末子にスマートフォンを使わせている(触れさせている)
- ※本調査は、とくに乳幼児がスマートフォンを使っている(触れている)場合の情報環境、親の意識の分析に焦点を充てた。

## (2)本調査(オンライン調査)

調査日:2017年10月11日~16日

有効回答数:母親回答 1,671 人 父親回答 1,112 人

※基本的な分析標本は母親回答分(子どもと身近に接しているため)

ただし、必要に応じて父親回答結果と比較する

(母親、父親の標本数が6対4になっているのは、父親標本を参考標本として想定したため意図的に割り付け数を減らしている。)

#### 1. 乳幼児(末子)に利用させている情報機器 (SQ4)

#### 1.1 機器別の利用率と年齢別推移

表 1.1 ニューメディア乳幼児に利用させている情報機器(母親回答、単位:%)

|                        | 全体利用率 | 6歳未満  | 6~12歳 | 男子    | 女子    | 男女差 |
|------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 1 スマートフォン              | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | _   |
| 2 電話やネットのつながらないスマートフォン | 7.4   | 8.4   | 5.8   | 8.1   | 6.8   | ns  |
| 3 携帯電話(キッズ携帯含む)        | 7.5   | 2.1   | 16.0  | 7.6   | 7.4   | ns  |
| 4 タブレット端末              | 29.6  | 26.5  | 34.6  | 30.8  | 28.7  | ns  |
| 5 ネットのつながらないタブレット端末    | 2.0   | 2.1   | 1.9   | 1.9   | 2.2   | ns  |
| 6 パソコン                 | 17.7  | 10.4  | 29.3  | 19.6  | 16.1  | ns  |
| 7 携帯ゲーム機               | 26.4  | 9.6   | 53.3  | 31.4  | 22.4  | *** |
| 8 据置き型ゲーム機             | 19.8  | 8.3   | 38.6  | 24.2  | 16.3  | *** |
| 9 音楽プレイヤー              | 4.2   | 3.0   | 6.1   | 4.5   | 4.0   | ns  |
| 10 その他( )              | 0.1   | 0.1   | 0.0   | 0.0   | 0.1   | ns  |
| 11 情報機器は使っていない         | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   |     |
| N                      | 1671  | 1029  | 642   | 741   | 930   |     |

男女差は $\chi$ 2検定の結果。\*\*\*: p<.001、ns: no significant なお、とくに言及しないかぎり、分析標本は母親回答。

乳幼児に利用させている情報機器の比率を示したのが表 1.1 である。スクリーニング条件に「スマートフォンを利用している(スマートフォンに触れている)こと」を入れているのでスマートフォンの利用率は 100%になる。

なお、橋元らが KDDI 総研と共同でほぼ同時期に実施した別の調査では、 $0\sim6$  歳児のスマートフォン利用率は 59.6% (0 歳児では 23.5%) であったので、今回、対象が 0 歳 $\sim12$  歳で「スマートフォンを利用している」というスクリーニング条件は、さほど対象を限定する条件ではない。

表 1.1 に示されるとおり、スマートフォン以外で乳幼児がよく利用しているのはタブレット端末の29.6%、ついで携帯ゲーム機の26.4%であり、パソコンは17.7%であった。ゲーム機は利用率に有意な男女差があるが、その他の機器には利用率の男女差は見られなかった。

表 1.2 年齢ごとの乳幼児の情報機器利用率(単位:%)

| Г                      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                        | 0歳   | 1歳   | 2歳   | 3歳   | 4歳   | 5歳   | 6歳   | 7歳   | 8歳   | 9歳   | 10歳  | 11歳  | 12歳  |
| 2 電話やネットのつながらないスマートフォン | 11.9 | 10.4 | 6.2  | 6.3  | 7.1  | 9.6  | 8.3  | 7.9  | 9.3  | 3.6  | 3.5  | 1.5  | 4.1  |
| 3 携帯電話(キッズ携帯含む)        | 4.5  | 3.3  | 1.7  | 2.1  | 0.0  | 0.8  | 13.2 | 13.9 | 19.8 | 15.7 | 18.8 | 20.3 | 13.4 |
| 4 タブレット端末              | 14.9 | 16.5 | 27.4 | 34.0 | 29.4 | 40.0 | 30.6 | 38.6 | 36.1 | 32.5 | 37.7 | 31.9 | 35.1 |
| 5 ネットのつながらないタブレット端末    | 2.2  | 2.4  | 0.4  | 3.7  | 2.4  | 2.4  | 1.7  | 3.0  | 1.2  | 3.6  | 2.4  | 0.0  | 1.0  |
| 6 パソコン                 | 6.0  | 9.0  | 7.1  | 14.1 | 13.5 | 15.2 | 18.2 | 26.7 | 31.4 | 32.5 | 34.1 | 36.2 | 32.0 |
| 7 携帯ゲーム機               | 4.5  | 1.4  | 5.0  | 11.5 | 16.7 | 28.0 | 42.2 | 48.5 | 53.5 | 48.2 | 61.2 | 63.8 | 61.9 |
| 8 据置き型ゲーム機             | 8.2  | 1.4  | 5.4  | 8.9  | 8.7  | 24.0 | 30.6 | 37.6 | 34.9 | 44.6 | 42.4 | 44.9 | 38.1 |
| 9 音楽プレイヤー              | 5.2  | 3.8  | 2.1  | 2.6  | 0.8  | 4.0  | 1.7  | 4.0  | 7.0  | 7.2  | 5.9  | 5.8  | 12.4 |
| 10 その他( )              | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.5  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
| N                      | 134  | 212  | 241  | 191  | 126  | 125  | 121  | 101  | 86   | 83   | 85   | 69   | 97   |

表 1.2 には年齢ごとの各情報機器の利用率を示した。また、図 1.1 には、そのうち、タブレッ端末、パソコン、携帯ゲーム機を取り出して、年齢ごとの利用率を折れ線グラフで示した。

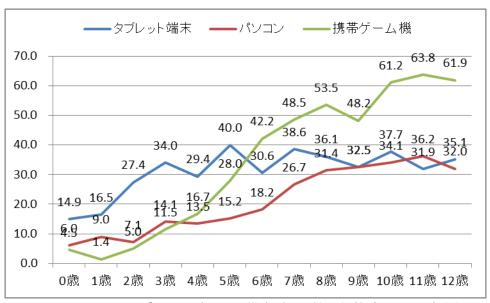


図 1.1 タブレット、パソコン、携帯ゲーム機の年齢ごとの利用率(単位:%)

図 1.1 に示されるとおり、携帯ゲーム機は歳が上がるにつれ利用率が上昇し、11 歳時では 63.8%である。タブレット端末は5歳児の利用率が最も高く40%であった。パソコンも歳が上がるにつれ利用率が増す傾向が見られ、11歳-12歳では32%になる。

#### 1.2 乳幼児タブレット、パソコンの利用率と年収・母親学歴・母親職業

情報機器のうち、タブレット端末とパソコンを取り上げ、世帯年収、母親学歴、母親職業との関連を分析した。

表 1.3 世帯年収別にみた乳幼児のタブレット端末、パソコンの利用率(単位:%)

|            | タブレット端末 | パソコン | N   |
|------------|---------|------|-----|
| 400万円未満    | 21.2    | 10.0 | 419 |
| 400~600万未満 | 30.3    | 17.7 | 486 |
| 600~800万未満 | 34.5    | 17.2 | 296 |
| 800万円以上    | 44.6    | 33.7 | 211 |
| 有意差        | ***     | ***  |     |

有意差は χ²検定の結果。\*\*\*: p<.001

まず、世帯年収別に見たのが表 1.3 である。表に示されるとおり、タブレット端末もパソコンも世帯年収が上がるにしたがって、乳幼児の利用率は上昇する。

表 1.4 母親の学歴別にみた乳幼児のタブレット端末、パソコンの利用率(単位:%)

|          | タブレット端末 | パソコン | N   |
|----------|---------|------|-----|
| 中高卒      | 24.5    | 11.8 | 560 |
| 短大•専門学校卒 | 28.8    | 16.9 | 656 |
| 大学·大学院卒  | 34.1    | 25.9 | 455 |
| 有意差      | ***     | ***  |     |

有意差は χ <sup>2</sup>検定の結果。\*\*\*: p<.001

表 1.5 母親の職業別にみた乳幼児のタブレット端末、パソコンの利用率(単位:%)

|              | タブレット端末 パソコン | N   |
|--------------|--------------|-----|
| フルタイム        | 34.3 18.1    | 277 |
| パート・アルバイト    | 29.6         | 506 |
| 専業主婦         | 27.4 17.7    | 833 |
| 自営・学生・無職・その他 | 40.0 21.8    | 55  |
| 有意差          | † ns         |     |

有意差はχ²検定の結果。†:p<0.10、ns : no significant

表 1.4 は母親の学歴別、表 1.5 は母親の職業別にそれぞれタブレット端末、パソコンの利用率を見たものである。表 1.4 に示されるとおり、タブレット端末もパソコンも、母親の学歴が高くなるに従い子の機器の利用率は上昇する。

母親の職業別に見た場合、タブレット端末は「自営・学生・無職・その他」ではやや利用率が高く、「専業主婦」ではやや低い傾向があるが差の有意水準は 10%にとどまる。パソコンについては、有意差は示されなかった。

#### 2. スマートフォンの専用・共用使用(Q1)

| 未就学児  |      |      | 就学児    |      |      |
|-------|------|------|--------|------|------|
| 子ども専用 | 8.4  |      | 子ども専用  | 35.1 |      |
| 親との共用 | 91.6 | とどもに | 親との共用さ | 65   | いる形態 |

就学前の子どもの場合、自身でスマートフォンを管理することには限界もあり、保護者が持っているスマートフォンを必要に応じて子どもに利用させていることが多いと考えられる。小学校入学後は、徐々に学童クラブ・習い事・塾に通う際に、一人で行動する機会が多くなり、子どもへの連絡手段として子ども専用スマートフォンを持たせるようになるのだろう。

就学前の子どもに対しての利用方法としては、親が家事等に集中したい場合に、おもちゃとして与えることが多いのではないだろうか。幼児向けのアプリを検索して見ると、子どもが親の手を借りずに利用することができるものが多いことがわかる。

#### (参考) Appliv のサイト

https://app-liv.jp/lifestyle/housekeeping/0474/

続いて、年収によってスマートフォンを持たせることに差はあるのかを考えてみる。さしあたって、未就学児の場合は親との共有が一般的だと思われるので、就学児について親の収入と子ども専用機を持っている割合を見てみると、図 2.2 のようになる。

| 就学児             |       |       |
|-----------------|-------|-------|
|                 | 子ども専用 | 親との共有 |
| 400万円未満         | 34.8  | 65.2  |
| 400万円以上~600万円未満 | 26.3  | 73.7  |
| 600万円以上~800万円未満 | 42.4  | 57.6  |
| 800万円以上         | 40.7  | 59.3  |
| わからない/答えたくない    | 35.0  | 65.1  |

p=0.0286 < 0.05

図 2.2 就学時の場合の親の年収と子ども専用機との関係

子ども専用機を持たせる親全体の平均が 35.1%なのに対して、年収が 600 万円以上の場合には 40%を超えており、子ども専用機を必要と判断して持たせる家庭に関しては、年収格差がある程度あるようだ。さて、子ども専用スマートフォン持たせる理由の 1 つとして考えられるのが子どもとの連絡であるが、そうなると仕事を持っている親の場合ほど、子ども専用のスマートフォンを持たせることになると思われる。

| 就学児               |       |       |
|-------------------|-------|-------|
|                   | 子ども専用 | 親との共有 |
| 雇用者(フルタイム)        | 40.9  | 59.1  |
| 雇用者(パートタイム・アルバイト) | 38.3  | 61.7  |
| 専業主婦·主夫           | 27.0  | 73.0  |
| その他職業             | 48.0  | 52.0  |

図 2.3 就学時の場合の母親の職業形態と子ども専用機との関係

このことは、図 2.3 を見ると、仕事についている親ほど子ども専用スマートフォンを所持している割合が高いことがわかり、明らかなようだ。

# 3. スマートフォンを使わせている理由(Q2:子供専用の場合)

| 未就学児                              |      |
|-----------------------------------|------|
| 時代に乗り遅れないようにするため                  | 4.7  |
| 子どもに情報機器を使いこなせるようになってほしいから        | 10.5 |
| 将来情報関連の仕事についてほしいから                | 3.5  |
| 子どもがスマートフォンに熱中してくれた方が子育てが楽だから     | 17.4 |
| 便利なアプリがあったから                      | 16.3 |
| 教育用アプリを使わせたいから                    | 18.6 |
| 持っている子どもが多く、自分の子どもが肩身の狭い思いをしないように | 11.6 |
| 子どもとの連絡に便利だから                     | 32.6 |
| 子どもが使いたがったから                      | 44.2 |
| その他                               | 4.7  |
| 特に理由はない                           | 7    |
| Th W ID                           |      |
| 就学児                               |      |
| 時代に乗り遅れないようにするため                  | 8.9  |
| 子どもに情報機器を使いこなせるようになってほしいから        | 12   |
| 将来情報関連の仕事についてほしいから                | 0.9  |
| 子どもがスマートフォンに熱中してくれた方が子育てが楽だから     | 0.9  |
| <u>便利なアプリがあったから</u>               | 6.7  |
| 教育用アプリを使わせたいから                    | 6.2  |
| 持っている子どもが多く、自分の子どもが肩身の狭い思いをしないように | 16.9 |
| 子どもとの連絡に便利だから                     | 73.3 |
| 子どもが使いたがったから                      | 35.6 |
| その他                               | 8    |
| 特に理由はない                           | 4    |

図 3.1 子どもにスマートフォンを使わせている理由(子供専用スマートフォンを利用している場合のみ)

就学前の「使いたがったから」は、子どもがスマートフォンに興味をもち、おもちゃとして活用させているものと思われる。就学後の「使いたがったから」は、子ども同士の情報共有を通じてゲームなどのアプリに関心を持ち使用していると思われる。また、教育面での活用、子どもとの連絡用という面も、親の関心としては強く出てくるようになる。

教育用アプリを使わせたいと回答してくれた場合の子どもの年齢との関係を見てみる。

|                         | 非該当  | 該当  |       |               |
|-------------------------|------|-----|-------|---------------|
| 0~2歳                    | 87.5 |     | 12.6  |               |
| 3~5歳                    | 80.1 |     | 20.0  | 0.0050 40.01  |
| 6~8歳。。」                 | 81.3 |     | 1,8.8 | p=0.0059<0.01 |
| 9~12 <sup>微3. 2 李</sup> | 87.6 | 更わせ | 72.4  | と回答した場合の子ども年齢 |

教育用ということもあり、年齢と共に割合が多くなってくるものかと思われたが、3~5歳がピークとなっている。スマートフォンを利用して勉強していくということに関してはまだ浸透しているとは言い難い状況のようだ。

## 4. スマートフォンを使わせている理由(Q3:親と共用の場合)

| 未就学児                              |      |
|-----------------------------------|------|
| 時代に乗り遅れないようにするため                  | 2.9  |
| 子どもに情報機器を使いこなせるようになってほしいから        | 5    |
| 将来情報関連の仕事についてほしいから                | 0.1  |
| 子どもがスマートフォンに熱中してくれた方が子育てが楽だから     | 21.1 |
| 便利なアプリがあったから                      | 25.5 |
| 教育用アプリを使わせたいから                    | 15.7 |
| 持っている子どもが多く、自分の子どもが肩身の狭い思いをしないように | 2.8  |
| 子どもが使いたがったから                      | 63.6 |
| その他                               | 7.1  |
| 特に理由はない                           | 9.8  |
|                                   |      |
| 就学児                               | _    |
| 時代に乗り遅れないようにするため                  | 7.4  |
| 子どもに情報機器を使いこなせるようになってほしいから        | 12.2 |
| 将来情報関連の仕事についてほしいから                | 1.4  |
| 子どもがスマートフォンに熱中してくれた方が子育てが楽だから     | 5.8  |
| 便利なアプリがあったから                      | 21.8 |
| 教育用アプリを使わせたいから                    | 16.3 |
| 持っている子どもが多く、自分の子どもが肩身の狭い思いをしないように | 7    |
| 子どもが使いたがったから                      | 75.5 |
| その他                               | 8.2  |
| 特に理由はない                           | 6.7  |

図 4.1 子どもにスマートフォンを使わせている理由 (親との共用スマートフォンを利用している方のみ)

Q2 と異なり、親との共用では、就学前、後に関わらず、半数近くが「子どもが使いたがったから」を理由に挙げているが、就学児でも一時的な利用にとどまることから、積極的に目的をもった使わせ方はしていないように思われる。

## 5. 子供が使っているサイトやアプリ(Q4)

| 未就学児                            |      |
|---------------------------------|------|
| LINEでのコミュニケーション                 | 8.1  |
| Twitter、Facebook、Instagramを見る   | 2.5  |
| Twitter、Facebook、Instagramに書き込む | 1.2  |
| Youtube、ニコニコ動画などで動画を見る          | 67.6 |
| Youtube、ニコニコ動画などで動画を投稿する        | 1.6  |
| ニコニコ生放送、ツィキャスなどライブ動画を見る         | 0.9  |
| ニコニコ生放送、ツィキャスなどライブ配信する          | 0.3  |
| ゲームをする                          | 29.5 |
| ニュースを読む                         | 1    |
| 電子書籍、電子コミックを読む                  | 0.9  |
| SNOW、Camera360などで写真を撮影・加工する     | 7.1  |
| 学習アプリを利用する                      | 13.8 |
| モッピー、げん玉などのお小遣いアプリを利用する         | 1    |
| 各種クーポンを入手する                     | 0.9  |
| その他                             | 10.4 |
| 子どもがどんなサイトやアプリを使っているか分からない      | 4.4  |
| 就学児                             |      |
| <u> </u>                        | 29.9 |
| Twitter、Facebook、Instagramを見る   | 6.5  |
| Twitter、Facebook、Instagramに書き込む | 2.5  |
| Youtube、ニコニコ動画などで動画を見る          | 58.4 |
| Youtube、ニコニコ動画などで動画を投稿する        | 1.7  |
| ニコニコ生放送、ツィキャスなどライブ動画を見る         | 1.1  |
| ニコニコ生放送、ツィキャスなどライブ配信する          | 0.2  |
| ゲームをする                          | 64.3 |
| ニュースを読む                         | 5.9  |
| 電子書籍、電子コミックを読む                  | 4.2  |
| SNOW、Camera360などで写真を撮影・加工する     | 11.7 |
| 学習アプリを利用する                      | 15.1 |
| モッピー、げん玉などのお小遣いアプリを利用する         | 0.8  |
| 各種クーポンを入手する                     | 1.7  |
| その他                             | 8.7  |
| 子どもがどんなサイトやアプリを使っているか分からない      | 1.6  |

図 5.1 子どもが毎日利用しているサイトやアプリ

就学後はLINEによるコミュニケーションが多くなっており、LINEによるトラブルが起こる可能性がある。就学前のSNS利用はほとんどないが、LINE以外のSNSの利用は就学後もそれほど多くない。興味深いところでは、わずかではあるが、動画投稿・ライブ配信をはじめる子どももいるようだ。ゲームに関して、年齢別の回答を見てみると次のとおりである。

|       | 非該当  | 該当   |          |
|-------|------|------|----------|
| 0~2歳  | 81.1 | 18.9 |          |
| 3~5歳  | 56.3 | 43.7 |          |
| 6~8歳  | 32.1 | 67.9 |          |
| 9~12歳 | 38.9 | 61.1 | p<0.0001 |

図 5.2 年層別に見たゲームをする子供の割合

高学年となると、スマートフォンを利用してゲームをする子どもは減少している。この時期にゲーム専用機を買ってもらうことで、減少しているのではないかと思われる。ただし、極端な減り方をしていないということは、スマートフォンでもゲーム専用機に負けない魅力があるようだ。

学習アプリの利用に関して、年齢別の回答を見てみると次の通りである。

|       | 非該当  | 該当 |      |
|-------|------|----|------|
| 0~2歳  | 89.1 |    | 10.9 |
| 3~5歳  | 82.4 |    | 17.7 |
| 6~8歳  | 81.5 |    | 18.5 |
| 9~12歳 | 88.0 |    | 12.0 |

p=0.0014<0.01

図 5.3 年齢別学習アプリの利用状況

**Q2** でも見られたとおり、6~8 歳がピークとなっており、実際の利用状況からもスマートフォンを利用して勉強していくということに関してはまだ浸透しているとは言い難い状況のようだ。 動画の視聴に関して、親が視聴している場合とそうでない場合とで比較してみた。

|            | 子ども側 | YouTube、二コ二コ動 | 画などで動画を見る |       |
|------------|------|---------------|-----------|-------|
| 親側         |      | 非該当           | 該当        |       |
| YouTube、二⊐ | 非該当  | 43.2          | 56.8      |       |
| ニコ動画などで    | 該当   | 18.3          | 81.8      | p=<0. |

図 5.4 親の動画視聴状況と子どもの動画視聴との比較

親がスマートフォンで動画を視聴している場合、子どもが動画を視聴する傾向が強いことがわかる。TV と異なりインターネット動画は時間・場所に制限なく視聴することが可能であり、自制して視聴することができないと依存症となる可能性がある。親が動画を視聴する家庭では、この点気をつけなければいけない。

ゲームに関して、親がやっている場合とそうでない場合とで比較してみた。

|        | 子ども側 | ゲームをす | る    |            |
|--------|------|-------|------|------------|
| 親側     |      | 非該当   | 該当   |            |
| ゲームをする | 非該当  | 67.5  | 32.5 |            |
|        | 該当   | 41.4  | 58.7 | p < 0.0001 |

図 5.5 親がゲームをしている場合とそうでない場合の子どものゲームへの取り組み

動画の視聴ほどではないが、親がゲームをしている場合、子どももゲームをする傾向はあるようだ。

## 6. 子供のスマートフォン利用について心配していること(Q5)

| 土計学旧                     |      |
|--------------------------|------|
| 未就学児                     | 00.5 |
| 有害サイト・アプリの利用・閲覧          | 30.5 |
| 架空請求・不当請求の被害にあう          | 27.1 |
| ネットで知り合った人と実際に会って被害にあう   | 17.7 |
| ネット上で誹謗中傷などの被害にあう        | 13.6 |
| 「ながらスマホ」で事故にあう           | 15.7 |
| いたずらや悪ふざけの画像・動画を投稿してしまう  | 12.9 |
| 自分から不用意にプライバシー情報を公開してしまう | 19.1 |
| 他人にプライバシー情報をさらされる        | 12.1 |
| 著作権・肖像権侵害などの違法行為         | 8.3  |
| 使いすぎによる成績の低下             | 17.8 |
| 使いすぎによる心身への悪影響           | 56.6 |
| 使いすぎによる家族間のコミュニケーションの減少  | 28.1 |
| 使いすぎによる高額請求              | 14.4 |
| ネット上の情報をなんでも信じてしまう       | 11.7 |
| その他                      | 3.8  |
| 今のところ心配していることはない         | 18.2 |
|                          |      |
| 就学児                      |      |
| 有害サイト・アプリの利用・閲覧          | 53   |
| 架空請求・不当請求の被害にあう          | 40.5 |
| ネットで知り合った人と実際に会って被害にあう   | 28.4 |
| ネット上で誹謗中傷などの被害にあう        | 28   |
| 「ながらスマホ」で事故にあう           | 23.8 |
| いたずらや悪ふざけの画像・動画を投稿してしまう  | 21.2 |
| 自分から不用意にプライバシー情報を公開してしまう | 31.3 |
| 他人にプライバシー情報をさらされる        | 23.4 |
| 著作権・肖像権侵害などの違法行為         | 13.1 |
| 使いすぎによる成績の低下             | 39.4 |
| 使いすぎによる心身への悪影響           | 54.5 |
| 使いすぎによる家族間のコミュニケーションの減少  | 27.4 |
| 使いすぎによる高額請求              | 22.9 |
| ネット上の情報をなんでも信じてしまう       | 24.1 |
| その他                      | 1.4  |
| 今のところ心配していることはない         | 11.4 |
| フットについましているトトライン         | 11.4 |

図 6.1 子どもがスマートフォンを利用するうえでの保護者の心配

子どもの利用に際して、心配している内容はすべての分野に及んでいる。就学前後とでは若干の差異は あるが、すべての分野に及んでいることは同様である。

この中で注目をしたいのが、「ネットで知り合った人と実際に会って被害にあう」という心配をされている保護者の方は、Q2 において「子どもとの連絡に便利だから」という矛盾に悩まれていないのかという点である。図 6.2 を見ると予想通り悩まれている様子が見られる。

|               |     | Q6-6 | 家族との | 連絡が  | 便利に | こなる  |
|---------------|-----|------|------|------|-----|------|
| Q5-3          |     |      | 非該当  |      | 該当  |      |
| ネットで知りあった人と実際 | 非該当 |      |      | 71.7 |     | 28.3 |
| に会って被害にあう     | 該当  |      |      | 36.5 |     | 63.5 |

図 6.2 「ネットで知り合った人と実際に会って被害にあう」という心配と、「家族との連絡が便利になる」という利便性との関係

次に、成績面についても「使いすぎによる成績の低下」とQ6の「学習効果が上がる」の関係を見てみる。

|                  | Q6-10 | 学習効果 | が上がる |               |
|------------------|-------|------|------|---------------|
| Q5-10            |       | 非該当  | 該当   |               |
| 使いすぎによる<br>成績の低下 | 非該当   | 88.6 | 11.4 |               |
| 成績の低下            | 該当    | 83.5 | 16.5 | p=0.0061<0.01 |

図 6.3 「使いすぎによる成績の低下」を心配すると答えた時の「学習効果が上がる」と回答した関係

使いすぎによる成績低下を心配している保護者の場合、若干ではあるがそうでない保護者と比べると、 学習効果への期待もみられる。

こうしたことから、多くの保護者がスマートフォンを子どもに使用させる場合、迷われている様子がわかる。

# 7. ネット活用で期待されるメリット(Q6)

Q6では「子どものネット活用でどのようなメリットが期待されるか」を複数回答可で質問している。

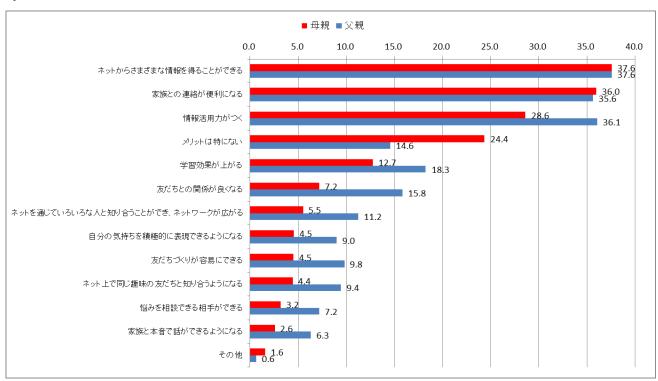


図 7.1 ネット活用で子どもに期待するメリット(母親回答、父親回答、単位:%)

N は母親 1671、父親 1112。図は母親の回答比率にしたがって降順に整序した。

母親回答と父親回答の結果を示したのが図 7.1 である。図に示されるとおり、母親、父親とも最も回答 比率が高かったのが「ネットからさまざまな情報を得ることである」であった。次いで母親では「家族との 連絡が便利になる」、父親では「情報活用力がつく」の比率が高かった。「家族との連絡が便利になる」は父 親でも回答比率は高い。

「メリットは特にない」と答えた母親が24.4%いたが、父親は14.6%であった。 その他の項目を見れば、いずれも父親の回答比率が母親より高くなっている。

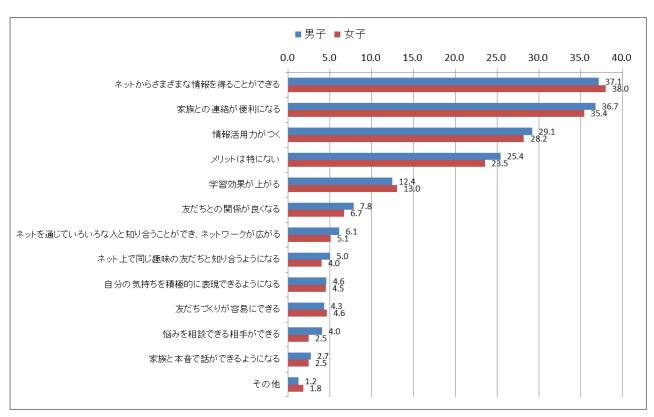


図 7.2 子どもの性別によるネット活用で期待されるメリット(母親回答、単位:%)

Nは男子741、女子930。回答比率にしたがって降順に整序した。

図 7.2 は、母親回答について、メリットの認識に子の性別で違いがあるかどうかを見たものであるが、図に示されるとおり、子の性別ではほとんど違いは見られなかった(いずれも有意差はない)。

# 8. スマートフォンを使い始めてからの変化(Q7)

Q7 では子どもがスマートフォンを使い始めてからの変化を質問している(複数回答可)。その回答結果について、母親回答と父親回答とを並べて示したのが図 8.1 である。

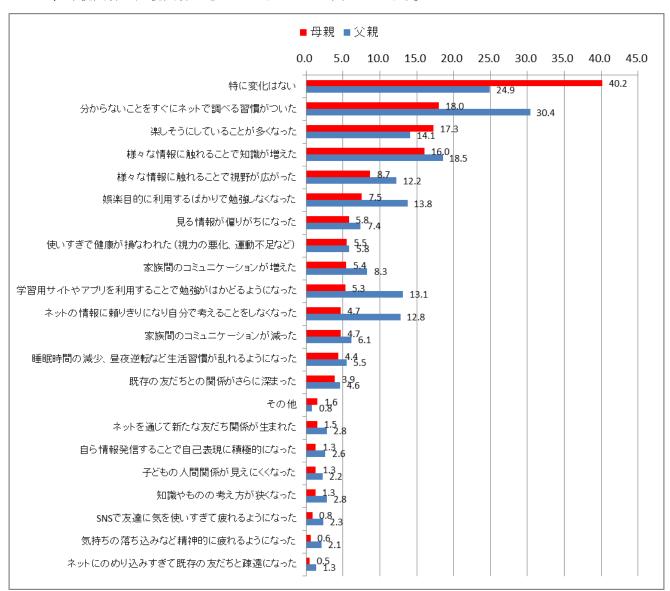


図 8.1 スマートフォン利用後の事もの変化(母親回答、父親回答、単位:%)

N は母親 1671、父親 1112。図は母親の回答比率にしたがって降順に整序した。

図に示されるとおり、この質問に対する回答比率の上位では、母親回答と父親回答ではかなり相違がある。母親回答で最も回答比率が高かったのが「とくに変化はない(40.2%)」であったのに対し、父親で最も回答比率が高かったのは「わからないことをすぐにネットで調べる習慣がついた(30.4%)」であった。その他の項目でも、父親は「様々な情報に触れることで知識が増えた」「「学習用サイトやアプリを利用することで勉強がはかどるようになった」など、肯定的な項目において母親より回答比率が高い傾向が見られた。

選択項目として、肯定的変化と否定的変化を混ぜているが、概して、肯定的変化の回答比率が高く、「勉強しなくなった」「コミュニケーションが減った」等の項目に対する回答比率は低い傾向が見られた。

図 8.2 は子どもの性別によって、スマートフォン利用開始後の変化の回答比率を見たものである(母親回答)。

全般的に子の性別によって大きな相違はないが、女子について「分からないことをすぐにネットで調べる習慣がついた」という項目の回答比率が高かった。

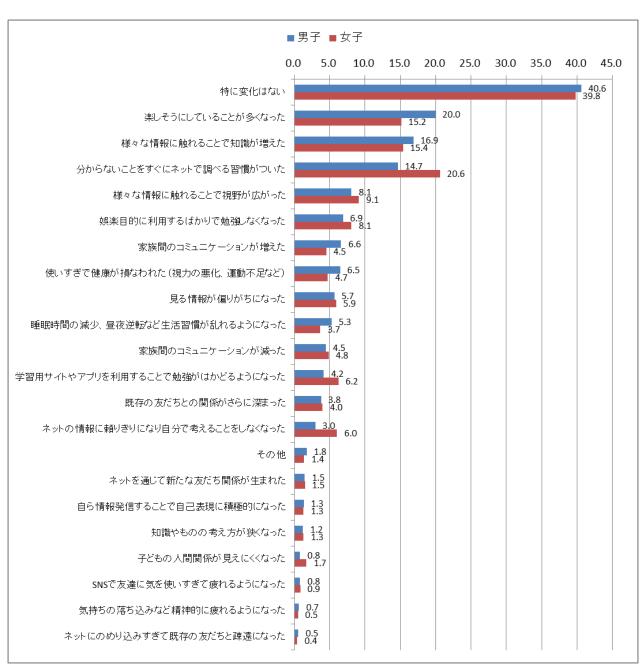


図 8.2 子どもの性別によるスマートフォンを使い始めてからの変化(母親回答、単位:%) N は男子 741、女子 930。男子の回答比率にしたがって降順に整序した。

# 9. 親の機器の使用 (Q8)

Q8 では親の情報機器の使用状況について質問している。

表 9.1 は母親と父親の利用率を示したものであるが、スマートフォンは母親 97.9%、父親 94.5%でともに非常に高い。次いで高いのがパソコンであるが、父親(57.5%)の方が母親(41.8%)よりやや高くなっている。タブレット端末も同様に父親の方が母親より高い。

表 9.1 主な情報機器の利用率(母親、父親、単位:%)

|   |          | 母親   | 父親           |
|---|----------|------|--------------|
| 1 | スマートフォン  | 97.9 | 94.5         |
| 2 | 携帯電話     | 4.8  | 12.4         |
| 3 | タブレット端末  | 25.7 | 38.1         |
| 4 | パソコン     | 41.8 | <b>5</b> 7.5 |
| 5 | 携帯ゲーム機   | 12.3 | 21.9         |
| 6 | 据置き型ゲーム機 | 11.3 | 23.1         |
| 7 | 音楽プレイヤー  | 8.4  | 16.6         |
| 8 | その他(     | 0.0  | 0.0          |
|   | N        | 1671 | 1112         |

表 9.2 世帯年収別にみた母親のスマートフォン、タブレット、パソコンの利用率(母親回答、単位:%)

|            | スマートフォン | タブレット | パソコン |
|------------|---------|-------|------|
| 400万円未満    | 98.6    | 21.0  | 27.0 |
| 400~600万未満 | 98.4    | 25.1  | 46.3 |
| 600~800万未満 | 97.3    | 28.0  | 50.3 |
| 800万円以上    | 97.2    | 38.9  | 61.6 |
| 有意差        | ns      | ***   | ***  |

有意差は $\chi^2$ 検定の結果。\*\*\*:p<.001、、ns: no significant

表 9.3 母親学歴別にみた母親のスマートフォン、タブレット、パソコンの利用率(母親回答、単位:%)

|          | スマートフォン | タブレット | パソコン |
|----------|---------|-------|------|
| 中高卒      | 98.6    | 21.3  | 30.9 |
| 短大•専門学校卒 | 97.7    | 23.5  | 39.8 |
| 大学・大学院卒  | 97.4    | 34.3  | 58.2 |
| 有意差      | ns      | ***   | ***  |

有意差は χ <sup>2</sup>検定の結果。\*\*\*:p<.001、、ns: no significant

表 9.4 母親職業別にみた母親のスマートフォン、タブレット、パソコンの利用率(母親回答、単位:%)

|              | スマートフォン | タブレット | パソコン |
|--------------|---------|-------|------|
| フルタイム        | 97.1    | 27.4  | 44.8 |
| パート・アルバイト    | 98.6    | 25.7  | 37.8 |
| 専業主婦         | 98.2    | 24.1  | 42.7 |
| 自営・学生・無職・その他 | 90.9    | 40.0  | 50.9 |
| 有意差          | **      | †     | ns   |

有意差はχ²検定の結果。†:p<0.10、ns: no significant

次に母親について、スマートフォン、タブレット端末、パソコンの利用率を、世帯年収別、母親学歴別、母親職業別に見たが表 9.2—表 9.4 である。

表 9.2 に示されるとおり、タブレット、パソコンについては世帯年収が高いほど、母親の利用率が高くなっている。

母親学歴別では、表 9.3 に示されるとおり、タブレット、パソコンについて母親の学歴が高いほど、母親の利用率が高くなっている。

また、母親の職業別では、スマートフォンについて「自営・学生・無職・その他」ではスマートフォンの利用率がやや低く、タブレットについては、逆に高い傾向が見られる。パソコンについては職業別に見て、有意な差は見られない。

#### 10. 保護者のスマートフォン利用(Q9)

近年スマートフォンは家族間の連絡ツールなどにも使われ、年齢に関係なくその普及は一般家庭に浸透している。しかしスマートフォンは PC に比べると新しいツールであり、きちんと使うためには基本となる知識が必要である。しかしインターネットに関するモラルやリテラシー教育が始まったのはここ十余年ほどで、子ども達の親世代、(現在 20 代後半以上の保護者) は学校の授業で学ぶ機会がなかった。では保護者はどのようなことに留意しながらスマホをつかっているのだろうか。その利用実態と経験などを調査結果から考察する。

まずスマートフォンで毎日利用しているサイトやアプリについて、未就学児の保護者と小学生の保護者 を比較しながら見てみる。

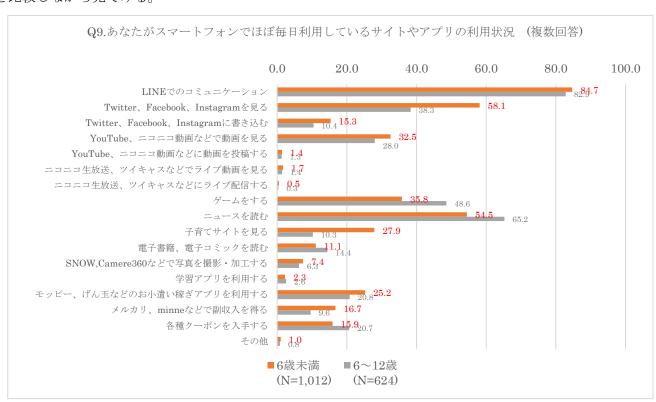


図 10.1 保護者がスマートフォンで毎日利用するサイト・アプリ

LINE の利用は未就学児、小学生いずれの保護者も8割を超え子どもの年齢に関係なく親が日常的に使うコミュニケーションツールとして欠かせないということが分かる。

Twitter などの SNS の利用は自分で書くより見るほうが多く、未就学児の保護者の方が小学生の保護者より 20 ポイントほど多い。未就学児の保護者は子育てサイトの利用も多いことから、育児や子育てに役立つ情報や不安、悩みの相談などを SNS から得られる情報に頼っているとも考えられる。一方でゲームの利用は小学生の保護者が 48,6%で、ほぼ半数の親が日常的にスマートフォンでゲームをしている様子がうかがえる。

家事などの合間にできる手軽さや無料で遊べることなどもその理由のひとつと思われるが、ゲームに限ったことではないが親子で同じアプリをプレイするということはその利用のルールについて子どもと一緒に考えやすいともいえるのではないだろうか。

親子でスマートフォンのゲームについて楽しさの共有だけでなく、プレイ時間や他者との関わり、課金、依存など、本来なら親子で対立しがちな会話のハードルを下げる効果は望めないだろうか。おこづかい稼ぎやアプリで副収入を得ている親は未就学児の親で25%以上いるが、所得や納税についての知識がどれくらいあるのかは今回の調査にはないので分からないが知識は必要である。手軽に収入につながることから

主婦でも始めるのは容易だが、納税の義務を意識していない親もいることが懸念される。動画の視聴は約3分の1の親が日常的に見ているが、動画の投稿、LIVE 配信、LIVE の視聴はほとんどない。

今回の調査では 0 歳児でも 56%が動画の視聴をしていることが分かったが、親はほとんど動画の視聴をしていないことから、動画を観る際に親子で必ずしも一緒ではないことが考えられる。動画も楽しい内容ばかりではなく子どもにとって不快、悪影響を与えるものも含まれている為、子どもが小さいときは必ず親子で一緒に見ることを習慣づける必要がある。

#### 11. 子どもがスマートフォンを安全かつ有効に活用する力をつけるために(Q10)

図 11.1 から、子どもがスマートフォンを安全かつ適切に活用するために有効だと考えられることは、「親子間で約束事を作ること」に始まり、上位5位までが保護者の関わりや保護者の知識向上という内容になっている。スマートフォンを安全に利用する事、適切な活用能力は家庭でつけることを肯定的に考えていると考察される。

5位(同位)に学校による情報モラル・情報活用教育があげられ、家庭の次に期待されるのが学校となっている。一方地域の有志、ボランティアによる情報モラル授業・情報教育や行政・企業による相談窓口の拡充などは6割を切っている。

保護者の多くが家族とのルール作りや、互いの情報交換、学びの機会が有効と感じていることから学校などでは、そのきっかけになる場を提供するなどの方法も考えるとともに、企業、行政も現在行っている出前授業などを保護者が活用しやすいよう、宣伝したりフォローしたりする体制作りも必要であると考える。

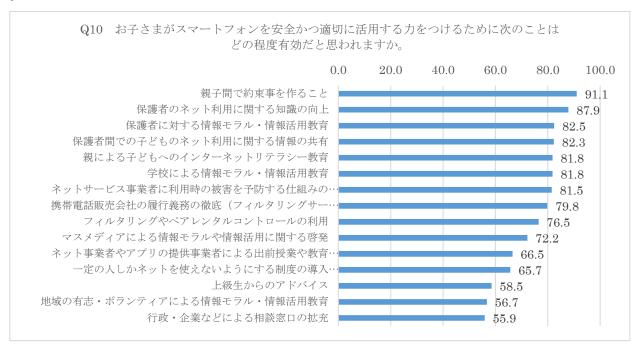
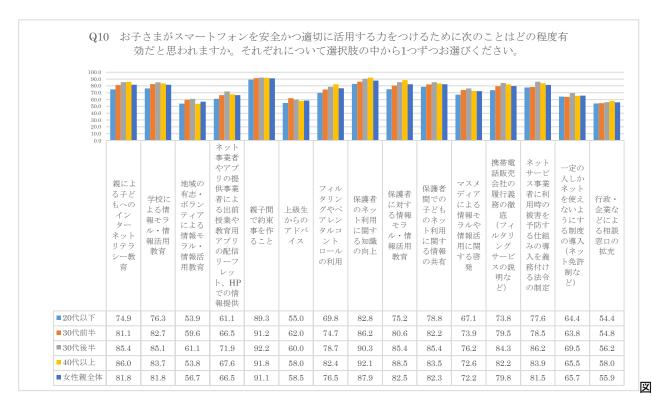


図 11.1 子どもの安全かつ適切なスマートフォン利用にどのような対策が有効か

※大変/ある程度有効だ/あまり有効ではない/全く有効ではないのうち大変/ある程度有効をグラフ化

図 11.2 ではさらに母親の世代別にみてみる。「フィルタリング・ペアレンタルコントロールの利用」や「親による子どもへのインターネットリテラシー教育」では 20 代以下の保護者が、一番高い 30 代後半の保護者に比べ 10 ポイントほど低いが、全体的に大きく目立つ差はない。むしろ「親子間で約束事を作ること」などは世代に関係なく、どの世代も一番有効として考えている。



11.2 子どもの安全かつ適切なスマートフォン利用にどのような対策が有効か(母親の年代別)

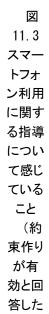
では有効だと感じている「親子間で約束事を作ること」に対して、親が子どもの指導で感じていることと、どのような関係があるだろうか。

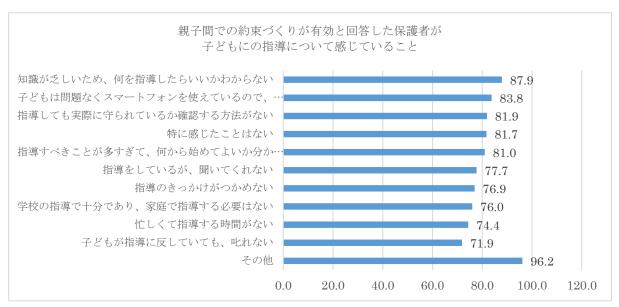
親子間で約束事を作ることに対して有効と回答した人が子どもの指導について感じていることをまとめたグラフが図 11.3 である。有効とは思っているが、家庭で実施するには以下のような課題があることが分かる。

「指導に反していても叱れない」という躾の難しさや、親の知識が乏しい、指導することが多すぎるなどの理由で具体的に子どもへの指導方法が分からず悩んでいる様子がうかがえる。

また子どもは問題なくスマートフォンを使えているので、改めて指導の必要性を感じないと考える親もいる。もっとも高かった「その他」の回答の自由記載には「子どもが小さく高度な指導ができない」「まだ幼いので指導が難しい」など子どもの年齢が低いために今はまだその必要がないという回答も目立った。

情報リテラシーは道具の操作だけではなく、家庭環境やその他の躾や幼いころからの経験なども影響することから、道具を使える年齢から情報モラル指導を始めるのではなく、0歳からしっかりと準備し、意識した子育てをすることが必要と考える。スマートフォンを利用していない親や小さいお子さんをお持ちの親にリテラシー教育を関連付けることはなかなか難しく、今後の重要課題と考えられる。





保護者限定)

#### 12. フィルタリングとペアレンタルコントロールの利用実態(Q11.12.13.14)

本項では、子どもに利用させているスマートフォンの所有形態と、フィルタリングやペアレンタルコントロールとの関係について述べる。

子どもにインターネットを利用させるにあたって、フィルタリングを設定することに一定の効果があることは、すでに多くが認めるところである。

平成30年2月1日より施行された改正青少年インターネット環境整備法では、店頭でスマートフォンを購入する場合、使用者が18歳未満であるかの確認、フィルタリングの必要性の説明、フィルタリングを有効化して渡すことの3点が義務付けられることとなった。

これ以前は、契約者と実際の使用者が同じなのかどうかの確認は厳格には行われておらず、保護者が使用者として契約したものをそのまま子どもに渡すケースも考えられた。またフィルタリングも提供義務があるだけで、有効化するのは保護者自身で設定する必要があった。

今回の調査は改正法施行前に行われているため、保護者名義のスマートフォンを子ども専用として与えている例、子ども専用ながら最初からフィルタリングを設定していない例が存在するが、今後はこのような例は減少するものと思われる。

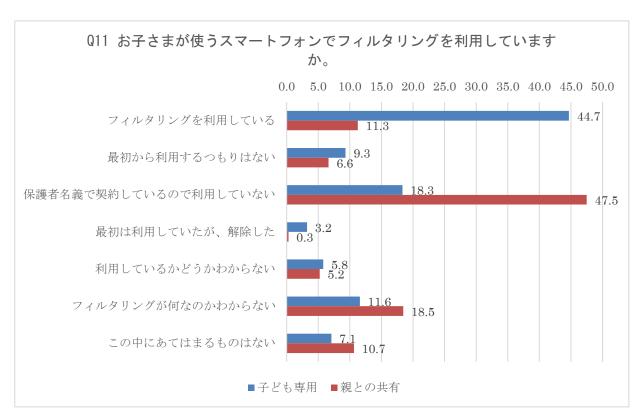


図 12.1 フィルタリングの利用

※ここでいうフィルタリングとは、キャリア通信網利用時に特定の情報を遮断するものである。 下記の家庭用 Wi-Fi 向けフィルタリングとは異なることに留意されたい。

子どもにスマートフォンを利用させる場合、子ども専用のものを用意する場合と、保護者が利用中のものを一時的に与える場合とに大別される。子ども専用の場合はフィルタリングの利用率は 44.7%と比較的高いが、保護者と共有で使う場合は、フィルタリングなしの状態で使わせている利用者が 47.5%となっている。一方で保護者名義ながら、フィルタリングを利用している保護者も 18.3%あった。

一般に子ども専用機においてフィルタリングの設定率が高く、親との共有では設定率が下がるのは当然である。大人が使用する場合には、フィルタリングを設定すると不便な事も多いからである。しかしながら、フィルタリングなしのスマートフォンは、有害情報に対して無防備となっている。これは、子どもが

有害情報を目にしてしまう可能性があるのみならず、広告バナーなどによって不適切なサイトへ誘導されてしまい、保護者が身に覚えのない架空請求に遭うなど、予想外の結果となりやすい。

加えてフィルタリングの利用に際して抜け穴となりやすいのが、スマートフォンが家庭の Wi-Fi に接続されている場合である。キャリアが提供するフィルタリングは、Wi-Fi を使って通信する際には効果がない。

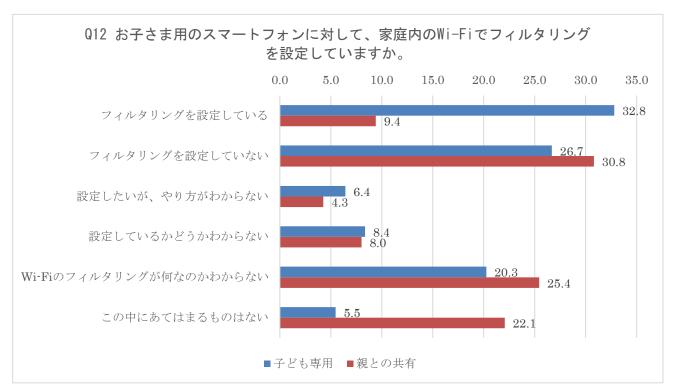


図 12.2 家庭内の Wi-Fi でのフィルタリング

家庭内のWi-Fi を利用する際のフィルタリング利用に関しては、子ども専用機を持たせている保護者のほうが、極めて意識的に行なっている事がわかった。しかしながら、キャリアのフィルタリングに比較すると、家庭内Wi-Fi フィルタリングの認知度は低い。

フィルタリングなしのスマートフォンを子どもに利用させる際に有効なのは、ペアレンタルコントロールである。これはアプリの機能制限など、スマートフォンの機能だけを指すものではない。子どもの利用状況を後ろから覗いて確認するといった人的な手法も、十分にペアレンタルコントロールと言える。しかしながら今回のアンケートでは、設問に「お子さまが使うスマートフォンでペアレンタルコントロールの "機能を"利用していますか。」と記載されていたため、人的な手法が存在する事を連想することは難しかっただろう。

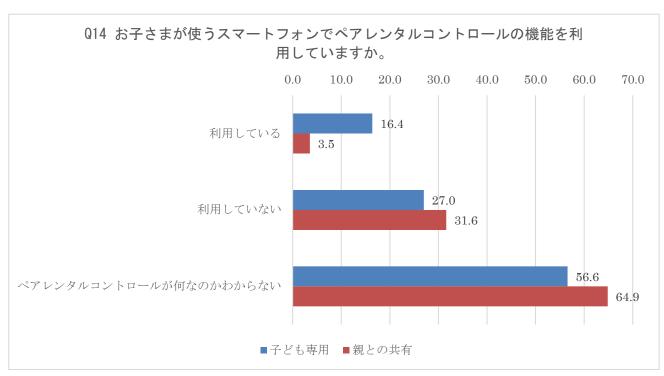


図 12.3 ペアレンタルコントロールの利用(子供専用・親との共用での比較)

低年齢の子どもには、子ども専用のスマートフォンを購入するまでもなく、保護者のスマートフォンを使わせるケースは多い。特にこの場合には、ペアレンタルコントロールが有用である。しかしながらペアレンタルコントロールという言葉自体が浸透していない状況があきらかになった。今後ますますの啓蒙が必要である。

他方でペアレンタルコントロールの利用度や意味の理解について、母親の学歴ごとに分類してみたが、 それほど大きな差は見られなかった。

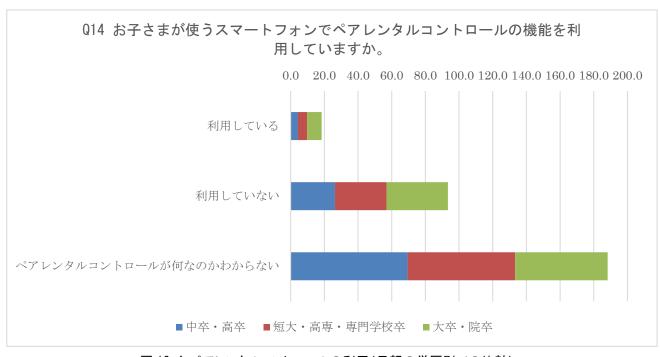


図 12.4 ペアレンタルコントロールの利用(母親の学歴別での比較)

フィルタリングに関する考えの調査においては、子ども専用と親との共有の保護者の間で、それほど大きな違いは見られなかった。

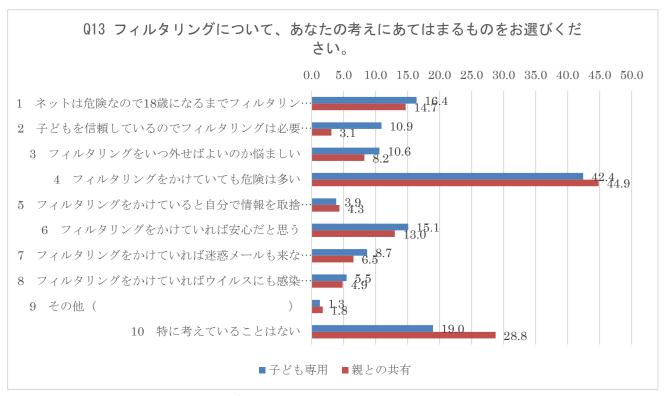


図 12.5 フィルタリングについての考え方(子供専用・親との共用での比較)

フィルタリングですべての問題を解決できないことを理解している保護者が多い一方で、「子どもを信頼しているのでフィルタリングは必要ない」と考える保護者が、子ども専用のほうに多い点には、留意が必要だろう。

子どものスマートフォン利用に関する不安要素を見ると、親との共有のほうが、ネット利用そのものについての懸念点を具体的にイメージできておらず、楽観的に構えている傾向が見られる。一方で使いすぎによる影響といった、体感的・身体的なことは、子ども専用よりも把握しやすい。子どもがネットで何を見ているのか、ペアレンタルコントロールによってしっかり把握できていれば心配もないのだが、今回の調査ではそこまでは読み取れなかった。

#### 13. 子どものスマートフォン利用における保護者の関わり(Q16~19)

子どものスマートフォンの利用に関して保護者はどのように関わり、どのような課題があるのか、実態調査から考察してみたい。特に、「親との共有」で利用している子どもはいずれ「子ども専用」で利用することになるので、その際の留意点にも着目し、教育現場の視点から保護者向けの提言としてまとめていきたい。

まず、子どものスマートフォンの利用に関して、どのようなルール作りや指導をしているかをたずねたところ、図13.1のような結果であった。

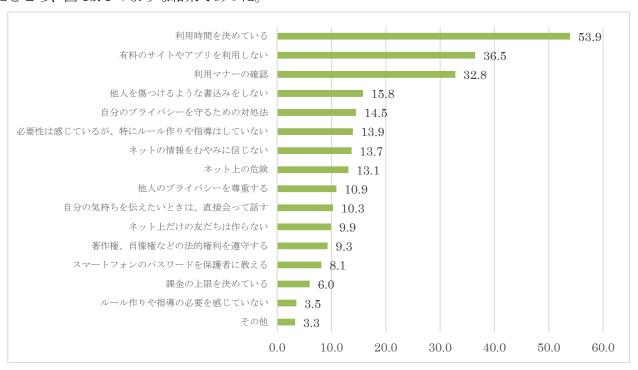


図 13.1 スマートフォンの利用において、保護者が行っているルールや指導(複数回答)

「ルール作りや指導はしていない」「ルール作りや指導の必要を感じていない」と合わせて 2 割弱の家庭ではルールがなく、指導もせずに自由に使わせている。

一方、8割以上の家庭では何らかのルールや指導をしている。その中で、利用時間や利用マナー、有料サイトやアプリの利用など、使い方に関するものが圧倒的に多くを占めている。このように、スマートフォンの使い始めの時点では、ネットを介して被害者になったり、加害者になったりしないような意識は保護者にまだ芽生えていないといえる。

また、ここでは複数回答にしているものの、各家庭でいくつルールを決めているか、また、そのルール を守らせるために紙面に書き留めたりして確認させているか等の実態はわからない。ここでは「親との共 有」と「子ども専用」の場合、どのような違いが出てくるかを見てみることにする。

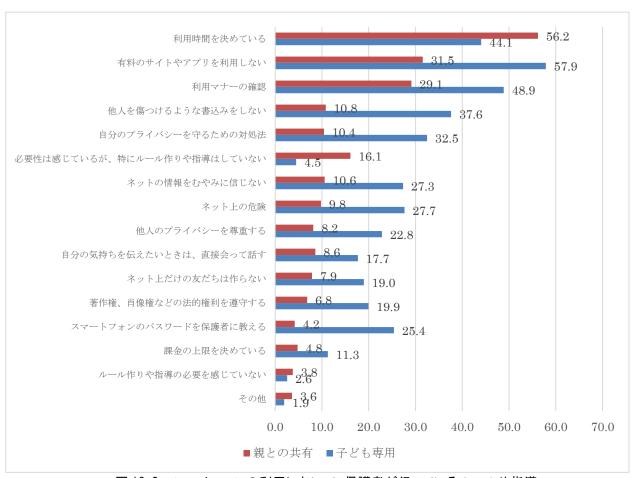


図 13.2 スマートフォンの利用において、保護者が行っているルールや指導 (「親との共有」と「子ども専用」に分類)

図 13.2 の結果から、ほとんどの項目で「親との共有」よりも「子ども専用」の方が高い数値を示している。その差が 20 ポイント以上開いたのは、大きいものから順に「他人を傷つけるような書込みをしない」「有料のサイトやアプリを利用しない」「自分のプライバシーを守るための対処法」「スマートフォンのパスワードを保護者に教える」の4項目になる。

「親との共有」のうちは親の管理下にあるので、さほど心配はしていなくても、「子ども専用」になると親の管理下から離れるので、一気にルールや指導が多くなることがわかる。このことは「ルール作りや指導はしていない」という項目の割合が「子ども専用」で激減していることや、「スマートフォンのパスワードを保護者に教える」という項目の割合が増加していることからも確認することができる。

「親との共有」はいずれ「子ども専用」に切り替わる時期が来るので、それに向けた保護者への啓発及び子どもへの指導が大変重要となってくる。具体的には、「子ども専用」に切り替わる際には、子どもとしっかりとルールに関して話し合う場を設け、そこで確認したルールは口答ではなく紙面に記録しておくことが大切である。また、ルールが守れなかったときの対応も確認しておくことも必要である。

ただ、ルールを設けても、なかなか守れないことがある。たとえば、利用時間に関するルールは多くの家庭で設けているが、時間が守れなかったり、保護者の目の届かないところで利用したりとなかなか徹底することは難しい。

そこで、「子ども専用」のスマートフォンンを手渡す際、保護者が利用を制限するためのペアレンタルコントロールアプリをインストールし、設定しておくことも一つの方法としてあげられる。ペアレンタルコントロールの機能を使うことにより、利用時間の制限だけではなく、Web サイトを制限したり、アプリを制限したりすることができる。

このように、「親との共有」から「子ども専用」に切り替える際は、ルール作りだけではなく、技術的な対策を講じておくことも重要といえる。

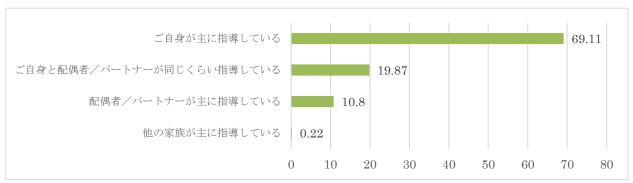


図 13.3 スマートフォンの使い方の指導者

スマートフォンの使い方に関して指導しているのは、図 13.3 で示すとおり母親が圧倒的に多い。幼児期など、家庭の中では母親と接する時間が長いことからも予想される結果といえる。



図 13.4 スマートフォンの使い方に関する指導について感じていること(複数回答)

スマートフォンの使い方に関する指導について、「特に感じたことはない」「子どもは問題なくスマートフォンを使えているので、指導の必要はない」を合わせると過半数を超えている。幼児期は保護者の管理下にあり、使い方の様子から指導の必要性を感じていないことがうかがえる。

一方、「指導しても実際に守られているか確認する方法がない」「指導をしているが、聞いてくれない」「知識が乏しいため、何を指導したらいいかわからない」「指導すべきことが多すぎて、何から始めてよいかわからない」「指導のきっかけがつかめない」と指導に関する悩みの声も少なからずあげられている。今後、学生時代に情報モラル教育を受けた世代が保護者になってくると、「知識が乏しいため、何を指導したらいいかわからない」等の数値が下がってくることは予想される。ただ、新たな問題も発生してくる可能性もあるため、「指導すべきことが多すぎて、何から始めてよいか分からない」の数値が下がることは期待できない。

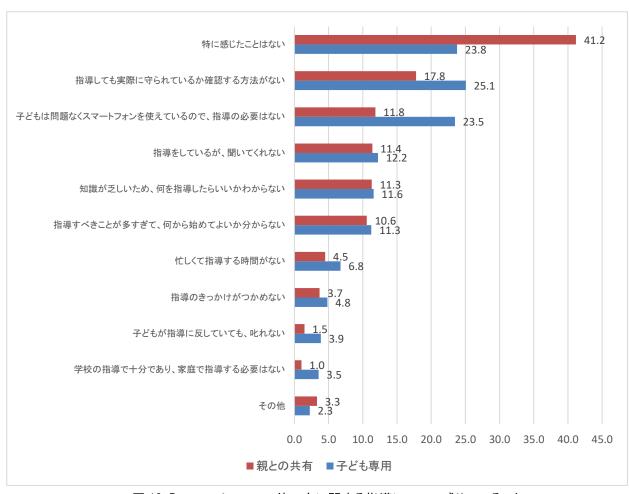


図 13.5 スマートフォンの使い方に関する指導について感じていること (「親との共有」と「子ども専用」に分類)

「子ども専用」になると、やはり何か指導をしなければいけないと感じる保護者が多くなり、「特に感じたことはない」が激減している。

ただ、一方で、予想に反して「子どもは問題なくスマートフォンを使えているので、指導の必要はない」と回答している保護者が激増している。「子ども専用」になって、保護者の感じ方が二極化している。指導の必要はないと感じている保護者は、まだ、「子ども専用」になって間がないため、「親との共有」の時とさほど変化が見られないためにそのように感じていることが予想される。

また、「指導をしているが聞いてくれない」「知識が乏しいため、何をしどうしたらいいかわからない」「指導すべきことが多くて、何から始めてよいか分からない」は有位な差はみられず、「親との共有」「子ども専用」による違いはなく、感じていることといえる。

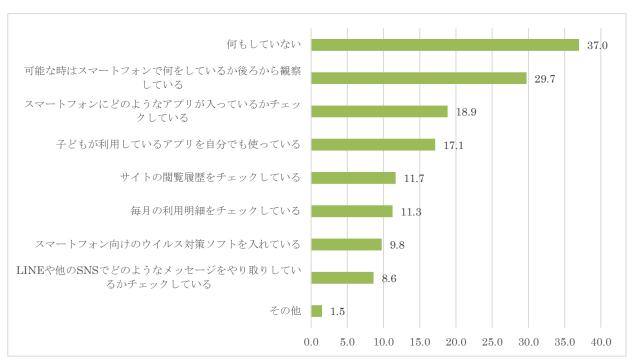


図 13.6 子どものスマートフォンの利用に関して保護者がしていること(複数回答)

保護者が子どものスマートフォンの利用に関して行っていることをたずねたところ、図 13.6 にあるように「何もしていない」が最も多かった。

この数値は図 13.4 の子どものスマートフォンの使い方に関する指導について感じていることをたずねたところの、「特に感じたことはない」の数値とほぼ同じであった。このことから、指導の必要性を感じていない保護者は、子どもの利用に関しても何もしていないと読み取ることもできる。

一方、図 13.4 と関連して捉えると、実際に指導しているかは別として、指導に関して少しでも意識している保護者は、どのようなアプリが入っているか、どのようなメッセージをやり取りしているか等、何らかのアクションを起こしていると読み取ることもできる。

図 13.4 と関連して捉えなくとも、過半数を超える保護者が子どものスマートフォンの利用に関して何らかのアクションを起こしている。それは保護者の心配の現れといえる。

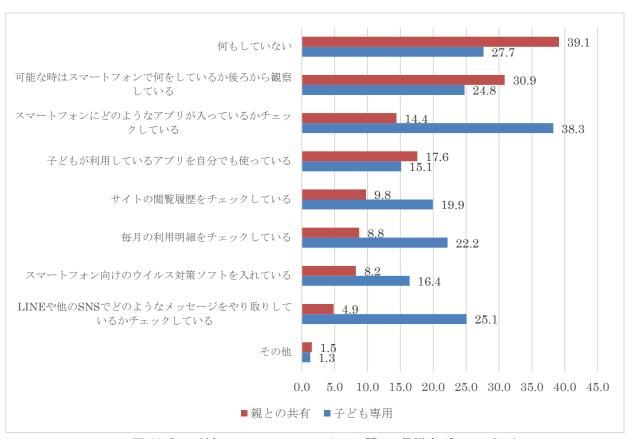


図 13.7 子どものスマートフォンの利用に関して保護者がしていること (「親との共有」と「子ども専用」に分類)

「子ども専用」となると、子どもの利用状況を確認することが難しくなるので、さらに保護者の心配は大きくなることが予想される。そのため、図 13.7 より「親の共有」から「子ども専用」になると、「何もしていない」の数値が下がっている。また、「子ども専用」になると保護者の目から離れた場所で利用することができるので、後ろから観察することも難しくなるため、数値が下がっている。

一方、利用状況を確認することが難しくなるにもかかわらず、「親との共有」から「子ども専用」になると、多くの項目で数値が上がっている。中でも、どのようなアプリが入っているか、どのようなメッセージをやり取りしているかをチェックしている項目が20ポイント以上増加している。このように、「子ども専用」になると、保護者の心配は一気に上昇する。そのための対応として、ペアレンタルコントロールの利用が求められる。

# 14. 子どもがスマートフォン利用していて経験したこと(Q22)

子どもがスマートフォンを利用していて経験したことについてはどのトラブルも 1 割未満であった (図 14.1)。対象年齢が 0 歳から~12 歳であったため、利用時間、利用コンテンツの少なさ、利用するネットの階層が浅いことや、保護者と一緒に利用したりフィルタリングなどを利用していることなどがトラブルを回避できている要因のひとつかと思われる。

だが数字は低いとはいえ、高額請求を受ける3,2%、有害サイト閲覧6.0%など注意すべき点はある。また保護者の8,4%が「把握していない」と回答したことについては、深刻な問題と考える必要がある。

今回の調査ではトラブルや犯罪被害を取り上げ結果を示しているが、デジタルアーツが 2018 年 1 月に 0 歳~9 歳の保護者を対象に行った調査\*1の中では、「子どもが想定外の端末の使い方をしていて驚いた」と回答したのは全体の 56.0%と前年の調査を上回ったとしており、事件やトラブルとは直接関係なくとも、半数の親が子どもの想定外の行動に驚いた経験をしている。このことからも子どもは想定外の行動をすることも考え、合わせて子どものネットの利用は保護者の責任ということを改めて自覚し、親の管理のもとに利用することが危険回避には欠かせないことであると考える。

子どもが幼稚園、小学校に通っていれば先生から保護者へ、ネットに関する注意喚起が期待できるが乳幼児の保護者の場合、特に専業主婦の場合は社会から孤立しがちなため、別途注意喚起をする広報が必要である。携帯販売会社や乳幼児健診などの場を活用し、さらに積極的に乳幼児の親への啓発をすることが求められている。

※1 引用元デジタルアーツ未成年の携帯電話・スマートフォン利用実態調査より http://www.daj.jp/company/release/common/data/2018/030701\_reference.pdf

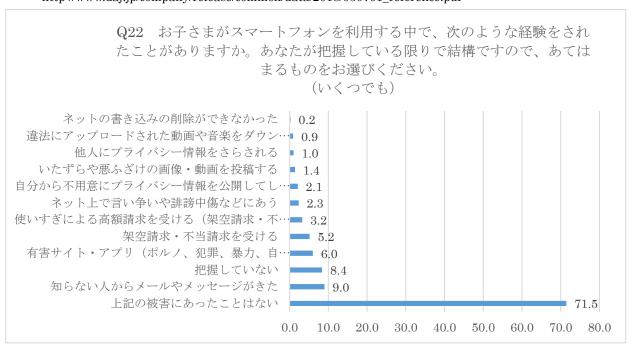


図 14.1 子どもがスマートフォンを利用していて経験したこと

# 15. 子供からのスマートフォン利用に関する相談に一人で対処できない時の 対応(Q23)

| 未就学児                    |      |
|-------------------------|------|
| 配偶者/パートナーに相談する          | 52.1 |
| 友人・知人に尋ねる               | 25   |
| ネット上の記事を見る              | 15.2 |
| ネット掲示板やQ&Aサイトで尋ねる       | 6.7  |
| 機器メーカーやネット事業者の相談窓口で相談する | 3.1  |
| ネットのトラブルに詳しい専門家に相談する    | 3.7  |
| 自治体の相談窓口で相談する           | 4.3  |
| 学校で相談する                 | 4    |
| 警察で相談する                 | 6.6  |
| その他                     | 2.1  |
| わからなくても情報を得ようとしない       | 3.2  |
| 独力で対処できているため、情報を得る必要はない | 24.3 |

| 就学児                     |      |
|-------------------------|------|
| 配偶者/パートナーに相談する          | 57.9 |
| 友人・知人に尋ねる               | 29.4 |
| ネット上の記事を見る              | 19.2 |
| ネット掲示板やQ&Aサイトで尋ねる       | 7.2  |
| 機器メーカーやネット事業者の相談窓口で相談する | 5    |
| ネットのトラブルに詳しい専門家に相談する    | 4.7  |
| 自治体の相談窓口で相談する           | 3.3  |
| 学校で相談する                 | 6.5  |
| 警察で相談する                 | 4.1  |
| その他                     | 2    |
| わからなくても情報を得ようとしない       | 1.3  |
| 独力で対処できているため、情報を得る必要はない | 15.6 |

図 15.1 スマートフォンに関する子どもの相談に一人で対処できない時の対応

配偶者・パートナーなど身近な人に相談する方が多いようだ。外部の相談機関(学校も含めて)は意外にあてにされていないようだ。

一方、独力で対処できていると回答した方の場合、どのような問題を、どのように解決しているのか気になる。

未就学児・就学児に関わらず、保護者の年齢別対応状況の中から、有意であるものを抜き出すと次のようになる。

|          | 1 配偶者/<br>パートナー<br>に相談する | 2 友人·知<br>人に尋ねる | 8 学校で相<br>談する |             | なくしも情報     | 12 独力で<br>対処できて<br>いるため、情<br>報を得る必<br>要はない |
|----------|--------------------------|-----------------|---------------|-------------|------------|--|
| 20代以下    | 49.7                     | 22.4            | 4.3           | 8.3         | 4.5        | 26.6                                       |
| 30代前半    | 47.9                     | 23.4            | 2.7           | 5.3         | 2.4        | 24.7                                       |
| 30代後半    | 60.0                     | 31.1            | 7.3           | 4.1         | 1.6        | 17.3                                       |
| 40代以上    | 59.4                     | 29.9            | 5.7           | 4.6         | 1.3        | 15.5                                       |
| χ二乗検定 p値 | 0.0002<0.05              | 0.0058<0.05     | 0.0238<0.05   | 0.0343<0.05 | 0.009<0.05 | <.0001                                     |

図 15.2 母親の年代別、保護者の対応

特徴としては子どもからの相談に対して、保護者の年齢層が高いほど真剣に対応しようとする様子がうかがえることである。若い年代の保護者の場合、「独力で対処できている」という割合が高い。理由としては若い人ほど情報機器に慣れているということだろう。

# 16. 家庭での指導・教育 (Q24)

家庭におけるスマートフォンの使用についての指導・教育について保護者(母親)がどのように考えているかをアンケート調査した。

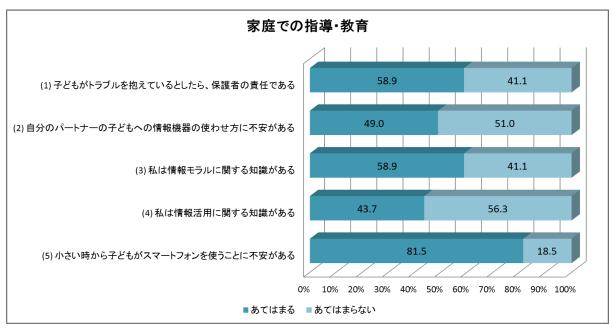


図 16.1 スマートフォン利用に関する家庭での指導・教育についての考え

母親の回答をもとに集計した結果は下記の通りである。

- ①「子どもがトラブルを抱えているとしたら、保護者の責任である」と 59%の母親が認識し、家庭でスマートフォンの活用について教育する必要があることととらえている。
- ②「自分のパートナーの、子どもへの情報機器の使わせ方に不安がある」と 49%の母親が不安に思っている。
- ③「私は情報モラルに関する知識がある」母親は、59%にのぼっている。
- ④しかし、「私は情報活用に関する知識がある」母親は、44%に減少している。
- ⑤「小さい時から子どもがスマートフォンを使うことに不安がある」母親は82%にのぼる。

上記から、有害サイトにアクセスしない、相手を誹謗中傷しない、使用する場所についてのマナーを守るなどの情報モラルについての知識はあるが、インターネットから収集した情報を自分なりに整理・分析し、情報をどのように発信していくかという情報活用能力は、母親自身のスキルが十分でないことがわかる。学校では、情報活用についての授業は行われているが、家庭でも平行して子どもを指導する必要がある。母親向自身が情報活用能力、情報リテラシーを身につける必要があり、講習会の実施や教材や学習コンテンツを提供することが求められている。

次に各質問について学歴とのクロス集計を行ったところ、下記のような結果になった。

- ①学歴が高いほど「子どもがスマートフォンを利用する中でトラブルを抱えているとしたら、それは保護者の責任である」と認識している。
- ②学歴が高いほど「自分の配偶者/パートナーの、子どもへの情報機器の使わせ方に不安がある」と感じている。
- ③学歴が高いほど「私は情報モラルに関する知識がある」と思っている。
- ④学歴が高いほど「私は情報活用に関する知識がある」と思っている。
- ④学歴が高いほど「ごく小さい時から子供がスマートフォンを使うことに不安がある」と感じている。

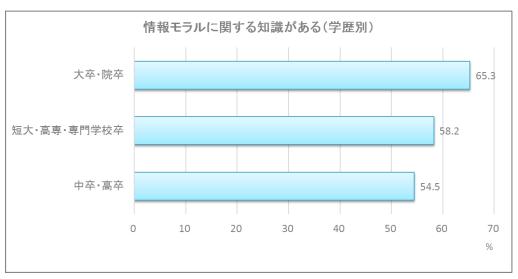


図 16.2 情報モラルに関する知識がある(母親の学歴別)

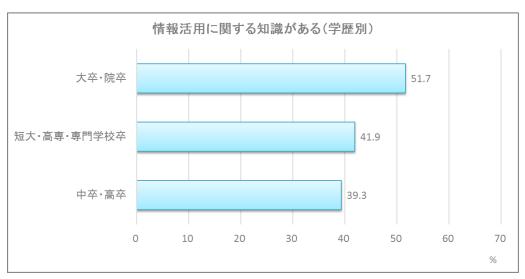


図 16.3 情報活用に関する知識がある(母親の学歴別)

家庭内の指導・教育は、学歴の差により差があることが明らかになった。

ただし、母親の学歴が大卒・大学院卒であっても、「情報活用に関する知識がある」と回答した人は、 52%にとどまっている。

また、質問ごとに年収別にクロス集計を行ったところ、下記のような結果になった。

- ①年収が高いほど「子どもがスマートフォンを利用する中でトラブルを抱えているとしたら、それは保護者の責任である」と認識している。
- ②年収が高いほど「自分の配偶者/パートナーの、子どもへの情報機器の使わせ方に不安がある」と感じている。
- ③年収が高いほど「私は情報モラルに関する知識がある」と思っている。
- ④年収が高いほど「私は情報活用に関する知識がある」と思っている。
- ④年収が高いほど「ごく小さい時から子供がスマートフォンを使うことに不安がある」と感じている。

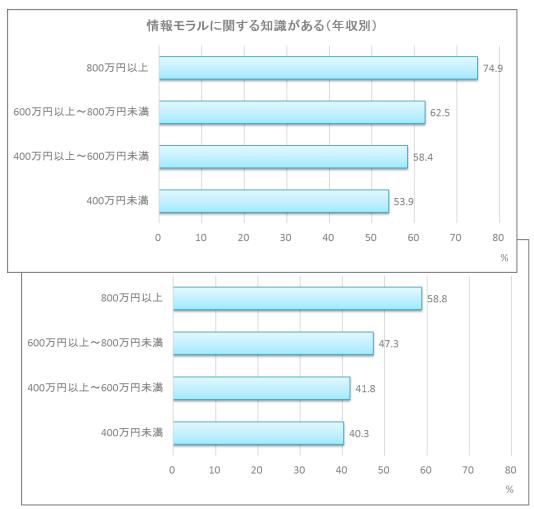


図 16.5 情報活用に関する知識がある(母親の年収別)

年収による家庭内での指導・教育に格差が見られる。年収が低い家庭では、情報モラル、情報活用についての指導・教育が行き届いていない現実がある。

# 17. 子どもに期待していること(Q25)

Q25 において母親が子どもに何を期待しているかを調べた。

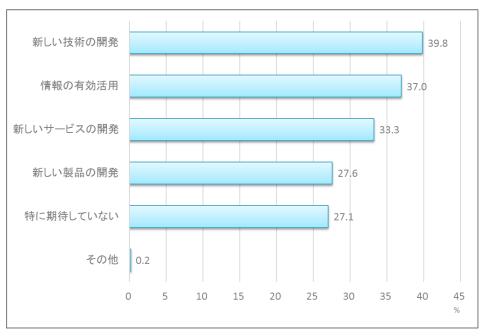


図 17.1 母親が子供に期待していること

将来の情報社会を担う子どもたちに、新しい技術の開発、情報の有効活用、新しいサービスの開発、新しい製品の開発を期待している。将来の情報社会の基盤となる新しい技術の開発は必須である。また、情報を有効に活用する力を備えて、将来の情報社会を生き抜いてほしいと期待している。

一方、「特に何も期待していない」という回答も 27%あり、未来社会の担い手として期待感が薄い母親 も多くいる。

質問ごとに学歴別にクロス集計を行ったところ、情報の有効活用および「特に何も期待していない」という設問について有意差が認められた。

- ①母親の学歴が高いほど、子どもが情報を有効活用することに期待している。
- ②母親の学歴が低いほど、子どもに期待していない。

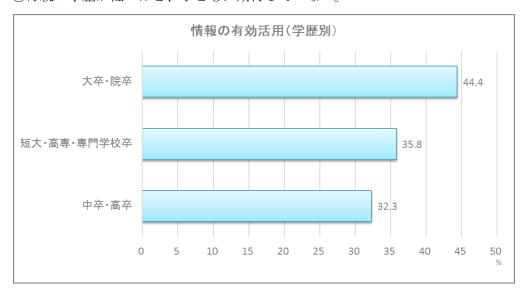
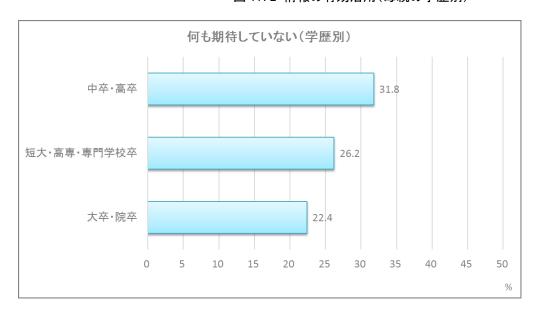


図 17.2 情報の有効活用(母親の学歴別)



# 18. 将来、子どもに身につけてほしいスキル(Q26)

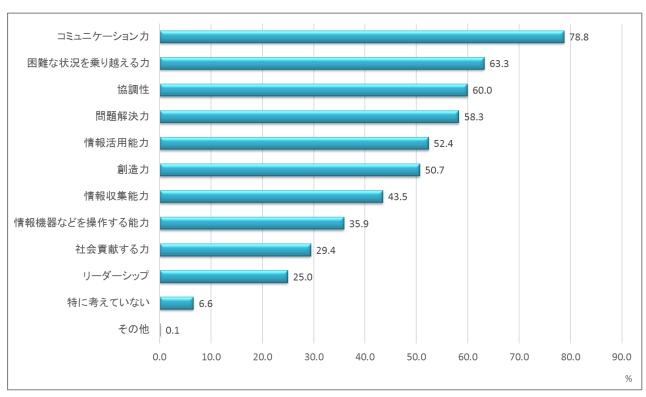


図 18.1 将来、子どもに身につけてほしいスキル

将来の情報社会に向けて身につけてほしいスキルを順番にあげると、

- ①コミュニケーション力
- ②困難な状況を乗り越える力
- ③協調性

④問題解決力

⑤情報活用能力

⑥創造力

- ⑦情報収集能力
- ⑧情報機器などを操作する能力
- 9社会貢献する力

⑩リーダーシップ

となっている。

困難な状況を乗り越える力が高い数字を示している。これは、逆境を乗り越える復元力、レジリエンスといわれるスキルである。

社会貢献する力が低い数字になっているが、将来子どもが大人になったとき、自分の強みを生かして、地域や企業の中で貢献する力なので、今後学校や家庭で高めていってほしい力である。

将来の情報社会に向けて身につけてほしいスキルと母親の学歴をクロス集計したところ、高学歴であるほどスキルと高めてほしいと考えていることが明らかになった。

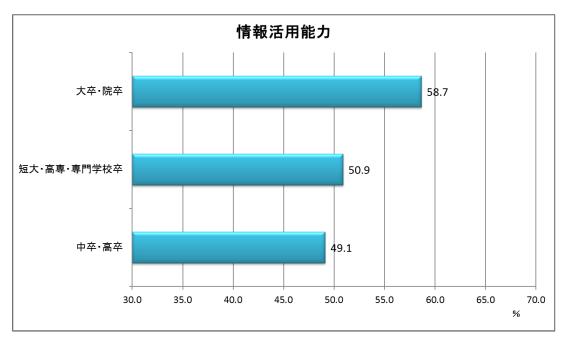


図 18.2 情報活用能力(母親の学歴別)

困難な状況を乗り越える力についても、高学歴の親ほど逆境を乗り越える力を身につけてほしいと考えている。

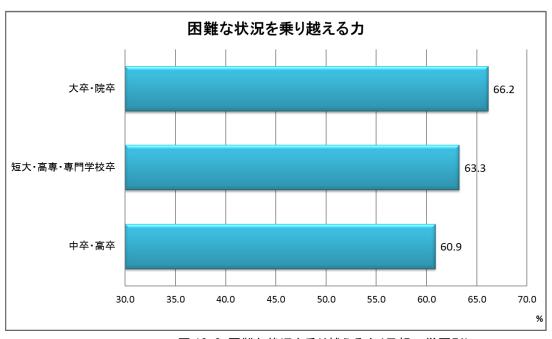


図 18.3 困難な状況を乗り越える力(母親の学歴別)

ネット上で友だちや知り合いの人と上手にコミュニケーションするうえで、コミュニケーション力は必須である。

困難な状況を乗り越える力(レジリエンス)は、ポジティブに考えること、自分が得意なことや自信のあることを生かすこと、目標を明確に持ち、目標の達成に向けて努力することなどによって高めることができるといわれている。レジリエンス力は、生きる力の育成にもつながる。

従来の情報モラル教育は、インターネット上の有害情報から子どもを守る視点から、リスク回避を主なテーマとしてきた。また、ルールやマナーを守ること、コミュニケーション力や相手を思いやる心を育てること、情報活用能力に主眼が置かれてきた。

しかし子どもたちは、社会変化に対する不安、自分の進路やキャリア形成、友だちとの人間関係の構築、ネット上のコミュニケーションなど、多くのストレスを抱えている。現在の複雑化した社会を生き抜くには、子ども自身の情報社会を生きる力、レジリエンス力を含めた生きる力の育成が求められている。

# 19. 保護者のスマートフォン利用(Q27・28)

図 19.1 で見るように、保護者がスマートフォンを利用する際に「他人を傷つける書き込みをしない」「他人のプライバシーの尊重」などマナーや権利を守り違法行為をしないよう意識していることがわかる。またパスワードの管理や、SNS の公開範囲の設定、依存しないように気を付けるなど自己管理に対しても配慮している様子がうかがえる。

しかし一方で家事や仕事の最中でもスマートフォンを使ったことがある(71.7%)、子どもとのコミュニケーションよりスマートフォンを優先したことがある(56.4%)など、自分の都合に合わせて仕事や子どもよりスマートフォンを優先してしまった経験もあると答える保護者もおり、子どもへ指導すべき立場の親が、自分自身の使い方が見本となっていないケースもあることが分かる。

ネットの誹謗中傷や保護者同士のトラブルを経験した人はごくわずかで、書き込みや他人への配慮に 注意して利用している結果、トラブルを回避できているとも考えられる。

著作権を遵守しているとの回答は89.3%と高い。しかし調査は主観的な回答であるため、全ての親が どこまでを違法行為として認識しているかは不明である。自覚なく違法に音楽や動画のダウンロードを したり、文書や画像を無断で使用したりしている可能性があることも予備知識として持っておいた方が よい。

また、今回の調査では触れていないが、匿名性を利用して違法と知りつつ法律や条令違反にあたる行為をしてしまうことは大人でもあり、保護者にもネットでの違法行為とそれにともなう罰則や影響などの正しい知識を持つことが必要とされる。

加えてネットに関する法律や条令は新しく作られたり、改正されたりするため、親は積極的に法や条例に関する情報を入手し、更新しつつ子どもに教える役割を担うことも重要な責任と言える。

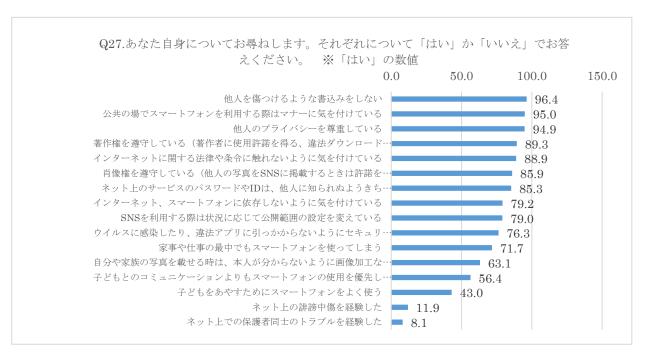


図 19.1 保護者のネット・スマートフォンの利用について

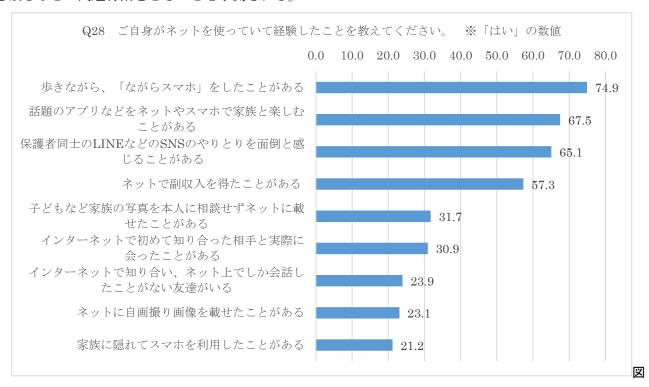
また図 19.2 のネットを利用していて実際に自分が経験したことについては、「歩きながら、ながらスマホをしたことがある」と答えた人が 74.9%とほぼ 4 人に 3 人の割合で経験があると回答。危険を考え社会的にはマナー、ルールとされている歩きながらのスマートフォン利用禁止のルールを多くの親自身が守れていない実態が分かる。

ネット上の書き込みなどには注意をしながらも、自分の都合でルールを守れない親からの指導は、子どもには通じにくいと考えられる。社会のルールとしてしっかりと親子で共に守るということを心がける必要がある。

2番目に親子で話題のアプリで楽しむ経験をしている人も 67,2%と約3分の2以上もいることから、スマートフォンの利用が必ずしも親子の断絶を生むのではなく、親子で共通の話題になることもわかる。

また図 19.1 ではネット上で保護者同士のトラブルを経験した人はわずかであったが、図 19.2 では保護者同士の LINE や SNS のやりとりを面倒と感じたことがある人が 65.1%いる。トラブルとまでは言わないが、保護者も SNS のやり取りに時間を取られたり、気遣いをしたりすることを負担と感じている。このことからも保護者同士が SNS について利用する時間帯や返信に関するルールを作ることも必要なのではないだろうか。

また家族に隠れてスマートフォンをしたことがあると回答した人は 21, 2%。今回の調査では隠れて利用する理由まで踏み入って調査をしていないが、家庭内でのルール作りを考えたとき、親が自らルールを破るなどの問題行動をとることも予測される。



19.2 保護者がネット・スマートフォンを利用していて経験したことがあるもの

# 20. 親子関係と情報モラル教育のあり方

#### 20.1 問題関心

本調査では子どもに対する情報モラル教育のあり方について多くの質問を設けているが、それぞれの保護者がどのようなやり方に重点を置いているか、どのような問題意識を抱いているかは属性によって様々である。その中で本章が注目するのは、保護者がそれぞれの子どもと結んでいる関係のあり方である。一般論として、子どもに何らかの指導をする場合のあり方は、保護者から子どもに対する一方通行的なものであるよりは子どもの反応をうかがいながら微修正をかけていくような相互交渉的なものであることが多いと思われる。したがって日頃から良好な親子関係を築いている場合には、保護者の側でも子どもが受け入れやすいよう配慮した指導をするであろうし、子どもの側でもそれを受け入れて指導の効果も上がることが期待される。逆の場合には、子どもの状況や言い分に配慮しない一方的なルール作りなどをして子どもの反発をあおるような指導になってしまうかもしれない。もちろん上記のどちらも典型的かつ極端な想定に過ぎず、現実の親子関係や育児のあり方は極めて多様なのだが、本章ではそれが情報モラル教育の面で保護者側の子どもに対するアプローチにどのような関連性を持っているか明らかにしたい。

本調査で親子関係のあり方について尋ねたのは Q20 と Q21 である。Q20 では、子どもとコミュニケーションをとる方法について、「対面」「LINE (LINE 通話を除く)」「メール」「電話 (LINE 通話を含む)」の 4 つから頻度の高い順に回答してもらった。Q21 では、既存の心理尺度である「親役割診断尺度 $^{1)}$ 」から「(1)子どもと話をするのが好きである」「(2)家庭内でよくコミュニケーションをとっている」「(3)子供と意見が異なるときはお互いが納得いくまで話し合う」「(4)子どもをほめるより叱ることの方が多い」「(5)子どもの欠点がどうしても目についてしまう」「(6)自分は子どもから頼りにされている」「(7)自分は子どもから好かれている」の 7 項目を引用し、「あてはまる」から「あてはまらない」までの 4 つの選択肢で尋ねた。以降ではこれらの質問項目、特に Q21 の項目と保護者による情報モラル教育のあり方との関連を分析する $^{2}$ 。

<sup>1)</sup> 谷井淳一・上地安昭(1993)「中・高校生の親の自己評定による親役割診断尺度作成の試み」『カウンセリング研究』, 26, 113-122.

<sup>&</sup>lt;sup>2)</sup> 本調査は親子関係を明らかにすることを目的としたものではない上、親子関係の「子」側の側面は抜け落ちていることから、Q20 と Q21 だけで親子関係のリアリティを捉えられるとは毛頭考えていない。ただこれらの限られた手がかりだけでもどの程度保護者のアプローチを左右するのか検証を試みる。

#### 20.2 Q21 に基づく親子関係のあり方と情報モラル教育の関連

#### 20.2.1 本節での検証内容

20.1 で述べた通り、Q21 に基づく親子関係と情報モラル教育のあり方との関連を検証する。Q21 の 7 項目は大まかに「コミュニケーションの充実(項目(1)~(3))」、「子どもへの否定的評価(項目(4)(5))」、「子どもからの信頼・好感(項目(6)(7))」の 3 つにまとめることができる。

「コミュニケーションの充実」は子どもへの指導やルール作りの際に、それが保護者からの一方的な押し付けになるか否かを左右すると考えて質問紙に入れた。日頃からコミュニケーションが良く取れている親子の間では、ある程度子どもの自主性が尊重され、自由を過度に制限するようなルール作りはされにくいと筆者は仮定する。

逆にコミュニケーションが不十分な親子間ではルール作りに際しても意見交換が十分になされず、一方的な禁止の多い、子どもにとっては押しつけ的なルール作りがなされる可能性が高い。同様のことは「子どもへの否定的評価」を巡っても現れるであろう。子どもに否定的な評価を持つ保護者は子どもの自主性を信じることができないために、禁止事項を多く伴う抑圧的なルール作りをしがちだと想定される。「子どもからの信頼・好感」は、(6)(7)の項目文にも表れている通りあくまで保護者の主観的な認識であり、子どもから実際に信頼や好感が寄せられている保証はない。だが仮に親子の認識にすれ違いがあったとしても、関係良好と感じている子どもに対してその自主性を損なうようなルール作りや指導をすることは通常考えにくく、禁止事項をあまり含まない穏やかなものとなるものと筆者は仮定している。

7項目が基づかされる仮定は上記の通りだが、項目の組み合わせはあくまで文言上のものであり、分析上もこのように扱ってもよいか確認の必要がある。そこで調査データにおける 7項目の相関を母親のデータを対象に行った。表 20.2.1 を見ると、項目(1)~(3)、項目(4)(5)、項目(6)(7)それぞれの組み合わせの間には高い正の相関があることが分かる。さらに、回答の一貫性を示す指標であるクロンバックの  $\alpha$  係数を求めたところ、(1)~(3)で 0.67、(4)(5)で 0.69、(6)(7)で 0.77 と、いずれも十分な一貫性があることが確認された。以上に基づき、本節ではそれぞれの組み合わせに従って変数の合成を行い、さらに合成変数の分布に応じてそれぞれを高群・低群に分ける)。これにより「コミュニケーションの充実」「子どもへの否定的評価」「子どもからの信頼・好感」それぞれの高低によって情報モラル教育に関する回答状況がどう異なるか、クロス集計による分析を行う。

表 20.2.1 Q21 各項目の相関(母親)

|                     | (1) | (2) | (3)  | (4) | (5)  | (6) | (7) |
|---------------------|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|
| (1) 子どもと話をするのが好きであ  |     |     |      |     |      |     |     |
| る                   |     |     |      |     |      |     |     |
| (2) 家庭内でよくコミュニケーショ  | .50 |     |      |     |      |     |     |
| ンをとっている             | *** | _   |      |     |      |     |     |
| (3) 子どもと意見が異なるときはお  | .34 | .34 |      |     |      |     |     |
| 互いが納得いくまで話し合う       | *** | *** | _    |     |      |     |     |
| (4) 子どもをほめるより叱ることの  | 23  | 18  | 09   |     |      |     |     |
| 方が多い                | *** | *** | ***  |     |      |     |     |
| (5) 子どもの欠点がどうしても目に  | 14  | 10  | .03  | .52 |      |     |     |
| ついてしまう              | *** | *** | n.s. | *** |      |     |     |
| (6) 自分は子どもから頼りにされて  | .39 | .46 | .26  | 18  | 10   |     |     |
| いる                  | *** | *** | ***  | *** | ***` | _   |     |
| (国) 内八はフドミュと (フェレック | .40 | .44 | .23  | 21  | 13   | .63 |     |
| (7) 自分は子どもから好かれている  | *** | *** | ***  | *** | ***  | *** |     |

※数値は Spearman の順位相関係数。記号は有意水準:\*\*\* p<.001。N=1671。

さて、親子関係との関連を見る情報モラル教育のあり方としては、Q11(フィルタリングの利用状況)、Q12(Wi-Fi フィルタリングの利用状況)、Q14(ペアレンタルコントロールの利用状況)、Q16(子どものスマートフォン利用についてのルール作りや指導)、Q18(スマートフォン利用に関する子どもへの指導について感じていること)、Q19(子どものスマートフォン利用についてしていること)の 6 問を取り上げる。Q18 を除き、実際の行動にフォーカスして質問を選択した。

# 20.2.2 フィルタリングなど機械的コントロールの利用(Q11、Q12、Q14)

#### (1) フィルタリングの利用(Q11)

Q11 (フィルタリングの利用状況) について、「コミュニケーションの充実」「子どもへの否定的評価」「子どもからの信頼・好感」それぞれの高低による回答状況の比較を行った(表 20.2.2)。有意な偏りが見られたのは「子どもからの信頼・好感」で「フィルタリングを利用している」で低群の割合が高い。ただ、これは「保護者名義で契約しているので利用していない」の割合で高群が高かったためと考えられる。他の親子関係指標との関係では有意な偏りはないものの高群の方が「利用している」の値が高いこともあり、親子関係が良好であればスマートフォンの利用規制をしなくても良い(この場合はフィルタリングを利用しない)という当初の仮定は成り立っていないことが分かる。

表 20.2.2 親子関係による Q11 の回答状況

|                   |           | を利用しているフィルタリング | るつもりはない最初から利用す | 利用していない保護者名義で契 | たが、解除し最初は利用して | い どうかわからな | らない<br>が何なのかわか<br>かっかりング | まるものはない |
|-------------------|-----------|----------------|----------------|----------------|---------------|-----------|--------------------------|---------|
| コミュニケーションの充実 n.s. | 高(N=918)  | 18.6           | 7.2            |                |               |           |                          |         |
|                   | 低(N=753)  | 16.1           | 7.0            | 39             | 4 0.9         | 5.4       | 19.3                     | 11.8    |
| 子どもへの否定的評価 n.s.   | 高(N=929)  | 18.8           | 6.1            | 41             | 4 1.1         | 5.5       | 18.3                     | 8.7     |
| 10000日足的計圖 11.5.  | 低(N=742)  | 15.8           | 8.4            | 42             | 9 0.5         | 5.1       | 15.8                     | 11.6    |
| 子どもからの信頼・好感 *     | 高(N=1013) | 16.6           | 7.1            | 45             | 1 0.6         | 4.3       | 17.4                     | 8.9     |
| 于ともからの信頼・対心・      | 低(N=658)  | 18.8           | 7.1            | 37             | 4 1.2         | 6.8       | 16.9                     | 11.7    |
| 母親全体(N=1671)      |           | 17.5           | 7.1            | 42             | 1 0.8         | 5.3       | 17.2                     | 10.0    |

<sup>※</sup>数値は%(各群で横に合算すると100%になる)。

#### (2) Wi-Fi フィルタリングの利用(Q12)

Q12 (Wi-Fi フィルタリングの利用状況) について同様の比較を行ったところ、「子どもへの否定的評価」で有意な偏りが見られた(表 20.2.3)。数値を見ると「(Wi-Fi) フィルタリングを設定していない」で低群の割合が特に高い。しかし Q11 の分析と同様、他の親子関係指標による比較を見ると当初の仮定が成り立っているとは言えない。

表 20.2.3 親子関係による Q12 の回答状況

|                   |           | を設定しているフィルタリング | いを設定していなフィルタリング             | ない<br>やり方がわから<br>がいが、 | い どうかわからな | い<br>なのかわからな<br>ルタリングが何<br>な<br>で<br>て<br>て<br>て<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の | まるものはないこの中にあては |
|-------------------|-----------|----------------|-----------------------------|-----------------------|-----------|--|----------------|
| コミュニケーションの充実 n.s. | 高(N=918)  | 15.5           | 30.6                        | 5.3                   | 7.8       | 23.3   | 17.4           |
| 11.3.             | 低(N=753)  | 11.7           | 29.4                        | 3.9                   | 8.4       | 25.9   | 20.9           |
| 子どもへの否定的評価 **     | 高(N=929)  | 14.8           | 27.2                        | 5.3                   | 9.3       | 26.1   | 17.4           |
| 120 100日足的計圖 1111 | 低(N=742)  | 12.5           | 11.7 29.4 3.9 8.4 25.9 20.9 |                       |           |  |                |
| 子どもからの信頼・好感 n.s.  | 高(N=1013) | 12.9           | 32.0                        | 4.5                   | 7.4       | 24.9   | 18.3           |
| うともからの信頼・好感 H.S.  | 低(N=658)  | 15.1           | 27.1                        | 4.9                   | 9.1       | 23.9   | 20.1           |
| 母親全体(N=1671)      |           | 13.8           | 30.0                        | 4.7                   | 8.1       | 24.5   | 19.0           |

<sup>※</sup>数値は%(各群で横に合算すると100%になる)。

# (3) ペアレンタルコントロールの利用(Q14)

Q14 (ペアレンタルコントロールの利用状況) について比較したところ、「コミュニケーションの充実」で有意な偏りが見られたが、元の仮定では解釈できない結果という点では  $Q11\cdot Q12$  の結果と変わるところがなかった(表 20.2.4)。

<sup>※</sup>記号は $\chi$ 二乗検定の有意水準: \* p<.05, n.s.有意な偏り無し。

<sup>※</sup>記号は χ 二乗検定の有意水準: \*\* p<.01, n.s.有意な偏り無し。

表 20.2.4 親子関係による Q14 の回答状況

|                   |           | 利用している | 利用していない | い のかわからな フトロールが何 | アノンタレ |
|-------------------|-----------|--------|---------|------------------|-------|
| コミュニケーションの充実 **   | 高(N=918)  | 7.2    | 32.6    | 60               | 0.2   |
| 141117 737 677 71 | 低(N=753)  | 4.4    | 28.6    | 6                | 7.1   |
| 子どもへの否定的評価 n.s.   | 高(N=929)  | 6.1    | 29.3    | 64               | 4.6   |
| 了2·00日足的計圖 11.5.  | 低(N=742)  | 5.7    | 32.6    | 6                | 1.7   |
| 子どもからの信頼・好感 n.s.  | 高(N=1013) | 6.3    | 29.0    | 64               | 4.7   |
| 子どもからの信頼・好感 n.s.  | 低(N=658)  | 5.3    | 33.4    | 6                | 1.3   |
| 母親全体(N=1671)      |           | 5.9    | 30.8    | 63               | 3.3   |

※数値は%(各群で横に合算すると100%になる)。

※記号は χ 二乗検定の有意水準: \*\* p<.01, n.s.有意な偏り無し。

#### 20.2.3 子どものスマートフォン利用についてのルール作りや指導(Q16、Q18)

# (1) 子どものスマートフォン利用について導入したルールや指導(Q16)

「コミュニケーションの充実」の高低による Q16 の回答状況を検証したところ、ほぼすべての項目で高い水準の有意な偏りが見られた(表 20.2.5)。ただ数値を見ると、「必要性は感じているが、特にルール作りや指導はしていない」以外の全項目で高群の該当割合が高い結果となった。当初の想定では「有料のサイトやアプリを利用しない」「スマートフォンのパスワードを保護者に教える」など子どもにとって束縛感が強いと思われる項目の該当割合は高群ほど低いと考えていたが、実際には全く逆の結果となった。

表 20.2.5 「コミュニケーションの充実」高低による Q16 の回答状況

|              |            | 利用時間を決めている | る。<br>課金の上限を決めてい | 利用マナーの確認 | に信じない | る回避や対処の仕方ネット上の危険に対す | を利用しない有料のサイトやアプリ | マードを保護者に教えスマートフォンのパス | 法的権利を遵守する著作権、肖像権などの |
|--------------|------------|------------|------------------|----------|-------|---------------------|------------------|----------------------|---------------------|
| コミュニケーションの充実 | 高(N=918)   | 59.0       |                  |          | _     | 15.5                |                  |                      | _                   |
| コミューケーションの允美 | 低(N=753)   | 47.7       | 4.3              | 29.4     | 12.0  | 10.2                | 33.1             | 5.8                  | 6.8                 |
|              | 全体(N=1671) | 53.9       | 6.0              | 32.8     | 13.7  | 13.1                | 36.5             | 8.1                  | 9.3                 |
| χ二乗検ス        | 官の有意水準     | ***        | **               | **       | n.s.  | **                  | **               | **                   | **                  |

|              |           | 守るための対処法自分のプライバシーを | 尊重する他人のプライバシーを | 書込みをしない他人を傷つけるような | は作らない | 話すいときは、直接会って自分の気持ちを伝えた | 要を感じていないルール作りや指導の必 | 指導はしていないが、特にルール作りや必要性は感じている |
|--------------|-----------|--------------------|----------------|-------------------|-------|------------------------|--------------------|-----------------------------|
| コミュニケーションの充実 | 高(N=918)  | 17.7               | 13.6           | 18.3              | 11.7  | 12.2                   | 2.8                | 11.0                        |
| コミュニケークョンの元英 | 低(N=753)  | 10.8               | 7.6            | 12.8              | 7.8   | 8.0                    | 4.4                | 17.5                        |
|              | 体(N=1671) | 14.5               | 10.9           | 15.8              | 9.9   | 10.3                   | 3.5                | 13.9                        |
| χ二乗検Ω        | この有意水準    | ***                | ***            | **                | **    | **                     | n.s.               | ***                         |

次に「子どもへの否定的評価」の高低との関連を見たところ、「利用マナーの確認」「有料のサイトやア プリを利用しない」「ルール作りや指導の必要を感じていない」「必要性は感じているが、特にルール作り や指導はしていない」の4項目で有意な偏りが見られた(表20.2.6)。はじめの2項目についてはいずれ も高群の該当割合が高く、他の項目もほとんど高群の方が高いこともあり、当初の仮定と親和的な結果と 考えられる。また残りの2項目については低群の方が高い該当割合であり、これもまた当初の仮定に沿っ た結果と言える。しかし有意になった項目はまちまちであり、「スマートフォンのパスワードを保護者に 教える」のような拘束性の高い項目で有意性が見られないなど、本当に当初仮定されていたようなメカニ ズムが働いた結果といってよいかは疑問である。

最後に「子どもからの信頼・好感」との関連を見ると、有意なのは「利用時間を決めている」のみで数 値も高群の方が高く、元の仮定と異なる結果となった(表 20.2.7)。

<sup>※</sup>数値は各項目の該当率(%)。有意水準:\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, n.s. 有意な偏り無し。 ※本来は「その他」の項目もあるが自由回答の中身を見なければ意味をなさないため本稿では省略。

<sup>※</sup>一部の項目で質問文の詳細な注意書きを省略した。確認の際は単純集計を参照のこと。

表 20.2.6 「子どもへの否定的評価」高低による Q16 の回答状況

|            |            | 利用時間を決めている | る。誤金の上限を決めてい | 利用マナーの確認 | に信じないれっぱい | る回避や対処の仕方ネット上の危険に対す | を利用しない有料のサイトやアプリ | るワードを保護者に教えスマートフォンのパス | 法的権利を遵守する著作権、肖像権などの |
|------------|------------|------------|--------------|----------|-----------|---------------------|------------------|-----------------------|---------------------|
| 子どもへの否定的評価 | 高(N=929)   | 53.7       | 6.0          | 35.6     | 13.6      |                     | 42.3             | 8.2                   | 10.2                |
|            | 低(N=742)   | 54.2       | 5.9          | 29.3     | 13.9      | 12.9                | 29.1             | 8.1                   | 8.1                 |
|            | 全体(N=1671) | 53.9       | 6.0          | 32.8     | 13.7      | 13.1                | 36.5             | 8.1                   | 9.3                 |
| χ二乗検       | 定の有意水準     | n.s.       | n.s.         | **       | n.s.      | n.s.                | ***              | n.s.                  | n.s.                |

|            |            | 守るための対処法自分のプライバシーを | 尊重する | 書込みをしない他人を傷つけるような | は作らない | 話すいときは、直接会って自分の気持ちを伝えた | 要を感じていないルール作りや指導の必 | 指導はしていないが、特にルール作りや必要性は感じている |
|------------|------------|--------------------|------|-------------------|-------|------------------------|--------------------|-----------------------------|
| 子どもへの否定的評価 | 高(N=929)   | 14.1               |      | 16.2              | 10.3  | 11.0                   |                    | 11.6                        |
|            | 低(N=742)   | 15.1               | 10.2 | 15.4              | 9.4   | 9.4                    | 5.4                | 16.9                        |
|            | 全体(N=1671) | 14.5               | 10.9 | 15.8              | 9.9   | 10.3                   | 3.5                | 13.9                        |
| χ二乗検Σ      | 定の有意水準     | n.s.               | n.s. | n.s.              | n.s.  | n.s.                   | ***                | **                          |

※数値は各項目の該当率 (%)。有意水準: \*\*\* p<.001, \*\* p<.01, n.s.有意な偏り無し。

表 20.2.7 「子どもからの信頼・好感」高低による Q16 の回答状況

|              |           | 利用時間を決めている | る課金の上限を決めてい | 利用マナーの確認 | に信じないれっぱい | る回避や対処の仕方ネット上の危険に対す | を利用しない有料のサイトやアプリ | る ワードを保護者に教えスマートフォンのパス | 法的権利を遵守する著作権、肖像権などの |
|--------------|-----------|------------|-------------|----------|-----------|---------------------|------------------|------------------------|---------------------|
| 子どもからの信頼・好感  | 高(N=1013) | 58.0       | 6.5         | 32.5     | 13.0      | 12.5                | 34.7             | 8.4                    | 9.4                 |
| 」ともからの信頼・好念  | 低(N=658)  | 47.7       | 5.2         | 33.3     | 14.7      | 14.0                | 39.2             | 7.8                    | 9.1                 |
| 母親全体(N=1671) |           | 53.9       | 6.0         | 32.8     | 13.7      | 13.1                | 36.5             | 8.1                    | 9.3                 |
| χ二乗検!        | 定の有意水準    | ***        | n.s.        | n.s.     | n.s.      | n.s.                | n.s.             | n.s.                   | n.s.                |

|             |            | 守るための対処法自分のプライバシーを | 尊重する他人のプライバシーを | 書込みをしない他人を傷つけるような | は作らない | 話すいときは、直接会って自分の気持ちを伝えた | 要を感じていないルー ル作りや指導の必 | 指導はしていないが、特にルール作りや必要性は感じている |
|-------------|------------|--------------------|----------------|-------------------|-------|------------------------|---------------------|-----------------------------|
| 子どもからの信頼・好感 | 高(N=1013)  | 14.0               | 10.7           | 15.4              | 8.9   | 10.5                   | 3.4                 | 14.5                        |
| 」こののうの旧模別心  | 低(N=658)   | 15.4               | 11.3           | 16.4              | 11.6  | 10.0                   | 3.8                 | 13.1                        |
|             | 全体(N=1671) | 14.5               | 10.9           | 15.8              | 9.9   | 10.3                   | 3.5                 | 13.9                        |
| χ二乗検        | 定の有意水準     | n.s.               | n.s.           | n.s.              | n.s.  | n.s.                   | n.s.                | n.s.                        |

※数値は各項目の該当率(%)。有意水準:\*\*\* p<.001, n.s.有意な偏り無し。

以上 Q16 について見た結果から考えられるのは、日頃からコミュニケーションをとれている保護者においてはルール作りや指導を不要と考えるのではなく、むしろ様々なルールを導入しているということで

ある。そもそも「ルール作りや指導の必要を感じていない」人は母親全体の3.5%とごく少数であり、ほとんどの保護者は基本的にルール作りを必要なものだと感じている。しかしそれらのルールは子どもの側で守られなければ意味を持たないものであり、それを可能にするためにはやはり親子間で十分なコミュニケーションを図らなければならないと考えられる。したがって今回の結果は、日頃から子どもとうまくコミュニケーションをとっている保護者でこそ、実際に守られているか否かはともかく、様々なルールを子どもとの間に成立させることができたことを示しているものと思われる。

# (2) スマートフォン利用に関する指導について感じていること(Q18)

「コミュニケーションの充実」の高低による比較では「指導しているが、聞いてくれない」において高群の該当割合が有意に低かった(表 20.2.8)。日頃からコミュニケーションが取れていることで子どもに指導が受け入れられていることがうかがわれる。この他「子どもは問題なくスマートフォンを使えているので、指導の必要はない」でも該当割合の有意差が見られ、こちらでは高群の方が高い結果となった。Q16の「ルール作りや指導の必要を感じていない」の結果とは一見矛盾するようだが、Q16にはルール作りが含まれるのに対して Q18 では指導のみであることによる違いと考えられる。すなわち、ルールは導入する必要があるが、それが守られている状況ならば殊更にそれ以上指導をする必要はない。Q16 と Q18 の結果を整合的に解釈するとしたらこうした説明になろう。

|                       | な指知  | 分て指  | な指   | な忙   | なて指  | く指   | て子   | はり学  | でト子  | 特          |
|-----------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------------|
|                       | い導識  | か、導  | い導   | いし   | いい導  | れ導   | もど   | な、校  | 、フど  | に          |
|                       | しが   | ら何す  | の    | <    | るし   | なし   | ` ŧ  | い家の  | 指ォも  | 感          |
|                       | た乏   | なかべ  | き    | て    | かて   | いて   | 叱が   | 庭 指  | 導ンは  | じ          |
|                       | らし   | いらき  | っ    | 指    | 確も   | い    | れ指   | で導   | のを問  | <i>t</i> = |
|                       | いい   | 始こ   | か    | 導    | 認実   | る    | な導   | 指で   | 必使題  | z          |
|                       | いた   | めと   | け    | す    | す際   | が    | いに   | 導 十  | 要えな  | ح          |
|                       | かめ   | てが   | が    | る    | るに   | ` `  | 反    | す分   | はてく  | は          |
|                       | 分、   | よ多   | つ    | 時    | 方守   | 聞    | L    | るで   | ないス  | な          |
|                       | か 何  | いす   | か    | 間    | 法ら   | い    | て    | 必あ   | いるマ  | い          |
|                       | らを   | かぎ   | め    | が    | がれ   | て    | い    | 要    | のI   |            |
| コミュニケーションの充実 高(N=918) | 10.7 | 9.7  | 3.3  | 4.0  | 18.7 | 9.6  | 1.6  | 1.4  | 15.9 | 39.4       |
| コミュニケーフョンの元夫 低(N=753) | 12.2 | 12.0 | 4.7  | 6.0  | 19.7 | 13.9 | 2.3  | 1.6  | 11.7 | 36.1       |
| 母親全体(N=1671)          | 11.4 | 10.7 | 3.9  | 4.9  | 19.2 | 11.6 | 1.9  | 1.5  | 14.0 | 37.9       |
| χニ乗検定の有意水準            | n.s. | n.s. | n.s. | n.s. | n.s. | **   | n.s. | n.s. | *    | n.s.       |

表 20.2.8 「コミュニケーションの充実」高低による Q18 の回答状況

「子どもへの否定的評価」との関連では「指導しているが、聞いてくれない」「指導しても実際に守られているか確認する方法がない」の2つが注目される(表20.2.9)。どちらも高群の該当割合が高いが、せっかく指導しても子どもが守らない/守っているかどうか分からないという状況では、そういう子どもに対して否定的な感情を募らせやすくなっても不思議ではない。子どもへの否定的感情の高さの一因は、そうした指導の行き届かなさに起因する可能性があると考えられる。また子どもが指導を守ってくれない状況は、子どもだけでなく自分自身の能力に対する疑問も招いているかもしれない。「知識が乏しいため、何を指導したらいいか分からない」「指導すべきことが多すぎて、何から始めてよいか分からない」における高群の該当率の高さは、そのような関連を示している可能性がある。

|             | 五 20. 2    | ,    |      | <b>и ж</b> . | יו ב ויייון וייין וייין |      | 40410 | •> 🗀 🗀 | ///// |      |      |
|-------------|------------|------|------|--------------|-------------------------|------|-------|--------|-------|------|------|
|             |            | か何知  | てす指  | か指           | 間忙                      | るら指  | い指    | て子     | るあ学   | 必てマ子 | い特   |
|             |            | 分を識  | よぎ導  | め導           | がし                      | 方れ導  | て導    | いど     | 必り校   | 要い「ど | に    |
|             |            | か指が  | いてす  | なの           | なく                      | 法てし  | くし    | ても     | 要、の   | はるトも | 感    |
|             |            | ら導乏  | か、ベ  | いき           | いて                      | がいて  | れて    | もが     | は家指   | なのフは | じ    |
|             |            | なしし  | 分何き  | っ            | 指                       | なるも  | ない    | 、指     | な庭導   | いでォ問 | た    |
|             |            | いたい  | かかこ  | か            | 導                       | いか実  | いる    | 叱 導    | いでで   | 、ン題  | ت    |
|             |            | らた   | ららと  | け            | す                       | 確 際  | が     | れに     | 指十    | 指をな  | ح    |
|             |            | いめ   | な始が  | が            | る                       | 認に   | `     | な反     | 導 分   | 導使く  | は    |
|             |            | い、   | いめ多  | つ            | 時                       | す守   | 聞     | いし     | すで    | のえス  | な    |
| 子どもへの否定的評価  | 高(N=929)   | 14.8 | 14.0 | 4.4          | 5.8                     | 22.7 | 13.8  | 1.9    | 1.5   | 12.8 | 31.7 |
| 于20、00日足的計画 | 低(N=742)   | 7.1  | 6.6  | 3.2          | 3.8                     | 14.7 | 8.8   | 1.9    | 1.5   | 15.5 | 45.8 |
|             | È体(N=1671) | 11.4 | 10.7 | 3.9          | 4.9                     | 19.2 | 11.6  | 1.9    | 1.5   | 14.0 | 37.9 |
| χ二乗検Ω       | アの有意水準     | ***  | ***  | n.s.         | n.s.                    | ***  | **    | n.s.   | n.s.  | n.s. | ***  |

表 20.2.9「子どもへの否定的評価」高低による Q18 の回答状況

<sup>※</sup>数値は各項目の該当率 (%)。有意水準: \*\* p<.01, \* p<.05, n.s.有意な偏り無し。

<sup>※</sup>本来は「その他」の項目もあるが自由回答の中身を見なければ意味をなさないため本稿では省略。

※数値は各項目の該当率(%)。有意水準:\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, n.s.有意な偏り無し。

「子どもからの信頼・好感」とは Q16 と異なり、「指導しているが、聞いてくれない」「指導しても実際に守られているか確認する方法がない」「指導すべきことが多すぎて、何から始めてよいか分からない」など多くの項目で該当割合に有意な差が見られた(表 20.2.10)。Q18 は子どもへの指導に関して不安を訴える内容の項目が多いが、それらについては有意なものも有意でないものも高群の該当割合が一貫して低い結果となっている。これらの結果は、子どもから信頼され好かれるような良好な関係を築いていることで指導も行き届いているという、当初の仮定に沿った解釈が可能であろう。

表 20.2.10 「子どもからの信頼・好感」高低による Q18 の回答状況

|             |           | か何知  | てす指  | か指   | 間忙   | るら指  | い指   | て子   | るあ学  | 必てマ子 | い特   |
|-------------|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|             |           | 分を識  | よぎ導  | め導   | がし   | 方れ導  | て導   | いど   | 必り校  | 要い丨ど | に    |
|             |           | か指が  | いてす  | なの   | なく   | 法てし  | くし   | ても   | 要、の  | はるトも | 感    |
|             |           | ら導乏  | か、ベ  | いき   | いて   | がいて  | れて   | もが   | は家指  | なのフは | じ    |
|             |           | なしし  | 分何き  | っ    | 指    | なるも  | ない   | 、指   | な庭導  | いでォ問 | た    |
|             |           | いたい  | かかこ  | か    | 導    | いか実  | いる   | 叱 導  | いでで  | 、ン題  | ī.   |
|             |           | らた   | ららと  | け    | す    | 確 際  | が    | れに   | 指十   | 指をな  | ے    |
|             |           | いめ   | な始が  | が    | る    | 認に   | •    | な反   | 導 分  | 導使く  | は    |
|             |           | い、   | いめ多  | つ    | 時    | す守   | 聞    | いし   | すで   | のえス  | な    |
| 子どもからの信頼・好感 | 高(N=1013) | 10.5 | 9.0  | 4.0  | 4.2  | 16.5 | 8.9  | 1.8  | 1.7  | 16.0 | 40.7 |
| 子ともからの信頼・好恐 | 低(N=658)  | 12.8 | 13.4 | 3.8  | 6.1  | 23.3 | 15.7 | 2.1  | 1.2  | 10.9 | 33.7 |
|             | 体(N=1671) | 11.4 | 10.7 | 3.9  | 4.9  | 19.2 | 11.6 | 1.9  | 1.5  | 14.0 | 37.9 |
| χ二乗検定       | の有意水準     | n.s. | **   | n.s. | n.s. | ***  | ***  | n.s. | n.s. | **   | **   |

※数値は各項目の該当率(%)。有意水準:\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, n.s.有意な偏り無し。

#### 20.2.4 子どものスマートフォン利用についてしていること(Q19)

「コミュニケーションの充実」との関連ではすべての項目に該当割合の有意差が確認された(表 20.2.11)。数値の大小も「何もしていない」を除きいずれも高群が高い。Q16 の結果と同様で普段子どもとのコミュニケーションが取れている保護者だからこそ、このように踏み込んだ介入が可能になっているのだろう。

|              |                       | チェックしている毎月の利用明細を | チェックしているサイトの閲覧履歴を | る かチェックしていいるかチェックしていようなアプリが入ってスマートフォンにどの | かチェックしているジをやり取りしているでどのようなメッセーレINEや他のSNS | る から観察していか後ろから観察している可能な時はスマート | 入れているウイルス対策ソフトをスマートフォン向けの | ているアプリを自分でも使っアプリを自分でも使っ | 何もしていない      |
|--------------|-----------------------|------------------|-------------------|--|---|-------------------------------|---------------------------|-------------------------|--------------|
| コミュニケーションの充実 | 高(N=918)              | 14.5             | 13.3              |  |   |                               |                           |                         |              |
|              | 低(N=753)<br>体(N=1671) | 7.3<br>11.3      | 9.7<br>11.7       | 15.0<br>18.9                             |   |                               | 7.0<br>9.8                |                         | 44.4<br>37.0 |
| χ二乗検定        | の有意水準                 | ***              | *                 | ***                                      | **                                      | **                            | ***                       | **                      | ***          |

表 20.2.11 「コミュニケーションの充実」高低による Q19 の回答状況

「子どもへの否定的評価」との関連でも多くの項目で該当割合の有意差が見られた(表 20.2.12)。こちらでも「何もしていない」を除くすべての項目で高群の該当割合が高い。「コミュニケーションの充実」高群と「子どもへの否定的評価」高群の該当割合が同じように高いのは変数の意味するところから考えると整合が取れないようにも見えるが、前者が子どもとの十分なコミュニケーションに裏打ちされた行動であるのに対し後者は子どもに対する不信に基づく行動であるといった形で、行為の文脈が異なるものと解釈すれば決して矛盾した結果ではない。ただ本調査だけではそうした解釈を確証できるだけのデータは得られていないため、疑似相関の可能性も留保しなければならない。

|            |           | チ毎         | チサ       | るいよス       | かジでL          | るかフ可       | 入ウス          | てア子        | 何,     |
|------------|-----------|------------|----------|------------|---------------|------------|--------------|------------|--------|
|            |           | ェ月<br>ッの   | ェイット     | るうマ<br>かなー | チをどI<br>ェやの N | 後ォ能ろンな     | れイマ<br>てルー   | いプど<br>るりも | ŧ<br>L |
|            |           | ク利         | クの       | チアト        | ッりよE          | かで時        | いスト          | をが         | τ      |
|            |           | し 用<br>て 明 | し閲<br>て覧 | ェプフッリォ     | ク取うや<br>しりな他  | ら何は<br>観をス | る 対 フ<br>策 ォ | 自利<br>分用   | い<br>な |
|            |           | い細         | い履       | クがン        | てしメの          | 歌とへ        | 火ン           | が用でし       | い      |
|            |           | るを         | る歴       | し入に        | いてッS          | してし        | フ向           | もて         |        |
|            |           |            | を        | てっど<br>いての | るいセN<br>る丨s   | ていト<br>いる  | トけ<br>をの     | 使い<br>っる   |        |
| 子どもへの否定的評価 | 高(N=918)  | 12.8       | 13.6     | 21.4       | 9.7           | 29.1       | 11.5         | 19.1       | 33.4   |
|            | 低(N=753)  | 9.3        | 9.3      | 15.6       | 7.3           | 30.6       | 7.6          | 14.7       | 41.5   |
|            | 体(N=1671) | 11.3       | 11.7     | 18.9       | 8.6           | 29.7       | 9.8          | 17.1       | 37.0   |
| χ二乗検定      | この有意水準    | *          | **       | **         | n.s.          | n.s.       | **           | *          | ***    |

表 20.2.12「子どもへの否定的評価」高低による Q19 の回答状況

※数値は各項目の該当率 (%)。有意水準: \*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<05, n.s.有意な偏り無し。

「子どもからの信頼・好感」では「子どもが利用しているアプリを自分でも使っている」で高群の該当割合が有意に高かったが、それ以外は有意な関連は見られなかった。数値の大小も項目によってまちまちであり、Q19に対して「子どもからの信頼・好感」は一貫した説明力を持つ指標とは言い難い。

表 20.2.13 「子どもからの信頼・好感」高低による Q19 の回答状況

<sup>※</sup>数値は各項目の該当率 (%)。有意水準: \*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05。

<sup>※</sup>本来は「その他」の項目もあるが自由回答の中身を見なければ意味をなさないため本稿では省略。

|             |                       | チェックしている毎月の利用明細を | チェックしているサイトの閲覧履歴を | し入に<br>てっど | チェックしている<br>をやり取りしてい<br>どのようなメッセ<br>INEや他のSN | る から観察していておいる ひょうかん のうない で何をしていて 可能な時はスマート | 入れているスマートフォン向けの | ているアプリを自分でも使っ子どもが利用している | 何もしていない |
|-------------|-----------------------|------------------|-------------------|------------|--|--|-----------------|-------------------------|---------|
|             | <del>-</del> (11 010) |                  |                   | いての        | る Is   | いる   | をの              | っる                      | 00.4    |
| 子どもからの信頼・好感 | 高(N=918)<br>低(N=753)  | 10.4<br>12.6     | 11.3<br>12.3      |            |  |  |                 |                         |         |
|             | 体(N=1671)             | 11.3             | 11.7              | 18.9       | 8.6  | 29.7                                       | 9.8             | 17.1                    | 37.0    |
| χ二乗検定       | の有意水準                 | n.s.             | n.s.              | n.s.       | n.s.   | n.s.                                       | n.s.            | *                       | n.s.    |

※数値は各項目の該当率 (%)。有意水準:\*p<.05, n.s.有意な偏り無し。

#### 20.2.5 本節からの知見

20.2.1 で述べた通り、本稿では「子どもと十分なコミュニケーションをとっている保護者は(子どもの自主性を尊重し)一方的・抑圧的なルール作りや指導をしない」「子どもに対して否定的な保護者は(子どものことが信用できないため)一方的・抑圧的なルール作りや指導を行う」「子どもから信頼され好かれていると感じる保護者は(子どもとの良好な関係を壊さないため)一方的・抑圧的なルール作りや指導をしない」との仮定の下で検証を行った。しかし Q16 と Q19 との関連を見ると、子どもと十分にコミュニケーションをとっている保護者ほど、子どもにとって抑圧となりうるものも含む多くのルール作りや指導・介入を実施していることが明らかとなった。またそうした保護者は子どもが言うことを聞いてくれないという悩みも少なかった。一方、子どもに否定的な評価をしている保護者においては、ある程度ルール作りや介入をする傾向があるものの「コミュニケーションの充実」高群の保護者ほど多くのルールを作るわけでもなければ抑圧的なルールを作るわけでもなかった。ただ子どもが自分の指導を受け付けないとの悩みは強く、そのことが子どもへの否定的評価や自らの自信喪失につながっている可能性がうかがわれた。なお「子どもからの信頼・好感」は、Q18 とはある程度説明のつく関連を有していたが、それ以外の多くの質問とは意味のある関係を見いだせなかった。

これらの結果は、ルール作りや指導は日頃からのコミュニケーションの上に築かれた信頼関係に基づいてこそ成り立つものであり、保護者から一方的に押し付けようとしても成り立ち難いものであることを示唆している。子どもと十分に話し合わないままルールを設けても、子どもが直面する課題にとって的外れなものに終わってしまうかもしれず、子ども自身も受け入れる動機を持ちづらい。「子どもとよくコミュニケーションせよ」とは何も情報モラル教育に限られたものではなく育児・教育全般に共通する鉄則だが、そのことが改めて示された調査結果だったと言えよう。今後の情報モラル教育を考える上でも、何を指導・教育するかだけでなく、どのような関係性の中でそれを行うかを重要な要素の一つをして考慮に入れていくべきだと思われる。

#### 20.3 保護者や子どもの属性による Q20・Q21 の回答状況

#### 20.3.1 本節での検証内容

本節では、傍論として  $Q20 \cdot Q21$  そのものの回答状況が保護者の属性によってどのように異なるか検証する。子どもに対する保護者の役割は保護者の性別や子どもの年齢・性別によって異なることが想定され、親子関係のあり方にも違いを及ぼすと考えられる $^3$ 。本節では特に仮説を設けず本調査内での結果を紹介する。

3) 父親と母親の間では、仮に父親が子どもに厳しいタイプであれば母親は子どもにやさしく接するなど、片方の欠点を他方が補うような役割分担があるものと一般に考えられている。また子どもの成長度合いにより、子どもが小さい頃には甘やかしていても成長するにつれて厳しくしつけていくといった変化も生じると考えられる。これらは一概には言えないことであり、本文の記述を分かりやすくするための卑近な例に過ぎない。本節では上記のような仮定は立てず、調査から得られた結果だけを紹介するものであることを再度述べておく。

# 20.3.2 子どもとのコミュニケーション(Q20、Q21の(1)~(3))

#### (1) 保護者の性別による違い

母親・父親どちらにおいても「対面」を 1 位と回答した保護者が圧倒的に多かった(図 20.3.1)。ただ LINE 以下のコミュニケーションツールの利用では、父親の利用率が母親より高い状況が見られた。保護者の職業を見ると、非正規も含む何らかの職に就いている割合は母親 48.7%に対し父親は 97.9%となっており、仕事に追われ子どもと接触する機会が母親よりも少ない中で、父親は母親よりもコミュニケーションツールを使う機会が相対的に多くなるものと思われる。

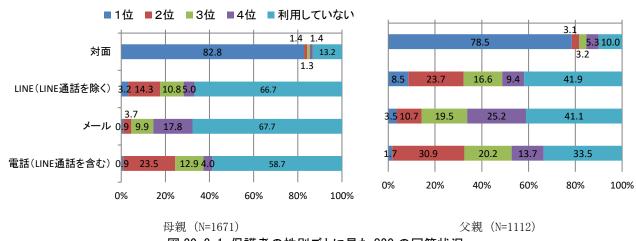


図 20.3.1 保護者の性別ごとに見た Q20 の回答状況

※母親と父親は今回別個の調査として扱うため、差の統計的検定は行っていない。

Q20 はコミュニケーションの量を表すものではないため、親子間のコミュニケーションの充実度については Q21 の「(1)子どもと話をするのが好きである」「(2)家庭内でよくコミュニケーションをとっている」「(3) 子どもと意見が異なるときはお互いが納得いくまで話し合う」を近似的な指標として扱う。これについて回答を得点化したものを男女の保護者で比較したところ、どちらの項目も母親の方が高い得点となっていた(表 20.3.1)。あくまで回答者自身による主観的な評価ではあるが、母親の方がコミュニケーションの充実度が高いことがうかがわれる。

 日親
 父親

 (N=1671)
 (N=1112)

 (1) 子どもと話をするのが好きである
 3.54
 3.34

 (2) 家庭内でよくコミュニケーションをとっている
 3.49
 3.21

 (3) 子どもと意見が異なるときはお互いが納得いくまで
 2.95
 2.87

表 20.3.1 保護者の性別ごとに見た Q21(1)~(3)の回答得点

※数値は各項目の回答について「あてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点として得点化したもの。

※母親と父親は今回別個の調査として扱うため、差の統計的検定は行っていない。

話し合う

# (2) 子どもの年層による違い

Q20 について、母親を対象に未就学児(調査時に 0 歳~5 歳)と就学児(調査時に 6 歳~12 歳)による回答状況を比較した(表 20.3.2)。どちらの年層でも「対面」が 1 位の割合が最も高い点は変わりないが、就学児よりも未就学児の母親の数値が低い。未就学児の母親はいずれの方法も「利用していない」と答えた割合が 16.1%で、就学児の母親の 5.8%より多かったことによるものである。アンケートの選択肢にない方法でコミュニケーションをとっている可能性もあるが、若い母親におけるコミュニケーション不足が心配される。結果の記載は省略するが、父親についても同様の結果が見られた。

未就学児の母親 母親全体 就学児の母親 (N=1029)(N=642)(N=1671)1位 89.9 対面 78.4 82.8 2位 1.4 1.4 \*\*\* 1.4 3位 1.3 1.3 1.3 4位 1.9 0.6 1.4 利用していない 17.1 6.9 13.2 LINE(LINE通話を除く) 2.7 1位 3.6 3.2 23.5 2位 8.6 14.3 \*\*\* 14.8 3位 8.3 10.8 4位 3.0 8.3 5.0 利用していない 76.6 50.8 66.7 メール 1位 0.7 1.3 0.9 \*\*\* 2位 2.4 5.6 3.7 14.5 3位 7.1 9.9 12.2 4位 27.0 17.8 77.7 51.7 利用していない 67.7 電話(LINE通話を含む) 1位 1.2 0.5 0.9 2位 16.4 34.7 23.5 \*\*\* 3位 6.8 22.7 12.9 4位 3.9 4.1 4.0 利用していない 71.5 38.2 58.7

表 20.3.2 子どもの年層別に見た Q20 の回答状況(母親)

※数値は%。記号は $\chi$ 二乗検定による有意水準:\*\*\* p<.001。

Q21 の項目(1)~(3)について同様に比較したところ、どの項目も有意な差が見られ、(1)(2)では未就学児の母親の平均得点が高く、(3)では就学時の母親の平均得点が高かった(表 20.3.3)。(3)だけ就学児の母親が上回ったのは、異なる意見をめぐって話し合うような状況は子どもがある程度知的に成長しなければ起こりにくいためであろう。参考として父親についても分析したが、母親と同様の結果であった(結果の記載は省略する)。

表 20.3.3 子どもの年層別に見た Q21(1)~(3)の回答得点(母親)

|                                     | 未就学児<br>の母親  | 就学児<br>の母親 | 母親全体         |
|-------------------------------------|--------------|------------|--------------|
|                                     | (N=1029<br>) | (N=642)    | (N=1671<br>) |
| (1) 子どもと話をするのが好きである *               | 3.57         | 3.52       | 3.54         |
| (2) 家庭内でよくコミュニケーションをとっている *         | 3.50         | 3.45       | 3.49         |
| (3) 子どもと意見が異なるときはお互いが納得いくまで話し合う *** | 2.89         | 3.04       | 2.95         |

※記号はt検定結果:\*\*\* p<.001, \* p<.05。

#### (3) 子どもの性別による違い

Q20 について、母親を対象に子どもの性別による回答状況を比較した(表 20.3.5)。有意な偏りが見られたのは「LINE 通話を除く)」と「通話(LINE 通話を含む)」で、どちらも女子の母親の利用率が高かった。参考までに父親を見ると、「メール」のみ男子の父親の利用率が高い形の有意な偏りが見られた(表 20.3.6)。ただ全体的には、保護者の性別と子の性別の組み合わせによる顕著な傾向性はうかがわれない。

**Q21** についての比較では、男子の母親の数値がやや高いものの有意差とはならなかった(表 **20.3.4**)。 父親においても同様の結果であり、親子の性別の組み合わせによるコミュニケーションの充実感には目立った差は見られないことが分かった。

表 20.3.4 子どもの性別ごとに見た Q21(1)~(3)の回答得点(母親)

|                                      | 男子の母親<br>(N=741) | 女子の母親<br>(N=930) | 母親全体<br>(N=1671<br>) |
|--------------------------------------|------------------|------------------|----------------------|
| (1) 子どもと話をするのが好きである n.s.             | 3.57             | 3.52             | 3.54                 |
| (2) 家庭内でよくコミュニケーションをとっている n.s.       | 3.51             | 3.48             | 3.49                 |
| (3) 子どもと意見が異なるときはお互いが納得いくまで話し合う n.s. | 2.96             | 2.95             | 2.95                 |

※記号は t 検定結果: n.s.有意差なし。父親に関する結果の記載は省略する。

表 20.3.5 子どもの性別ごとに見た Q20 の回答状況(母親)

|                 |         | 男子の母親      | 女子の母親     | 母親全体     |
|-----------------|---------|------------|-----------|----------|
|                 |         | (N=741)    | (N=930)   | (N=1671) |
| 対面              | 1位      | 84         | .9 81.2   | 82.8     |
| n.s.            | 2位      | <b>[</b>   | .5 1.3    | 1.4      |
|                 | 3位      | Į (        | .7 1.7    | 1.3      |
|                 | 4位      | (          | .8 1.8    | 1.4      |
|                 | 利用していない | 12         | .2 14.0   | 13.2     |
| LINE(LINE通話を除く) | 1位      |            | .2 4.1    | 3.2      |
| *               | 2位      | 12         | .0 16.1   | 14.3     |
|                 | 3位      | 10         | .7 🔲 10.9 | 10.8     |
|                 | 4位      | <u> </u>   | .7 🛮 5.3  | 5.0      |
|                 | 利用していない | 70         | .5 63.7   | 66.7     |
| メール             | 1位      | (          | .4 1.3    | 0.9      |
| n.s.            | 2位      |            | .0 4.2    | 3.7      |
|                 | 3位      | <u> </u>   | .5 🔲 10.3 | 9.9      |
|                 | 4位      | 17         | .1 18.4   | 17.8     |
|                 | 利用していない | 70         | .0 65.8   | 67.7     |
| 電話(LINE通話を含む)   | 1位      | (          | .9 0.9    | 0.9      |
| *               | 2位      | 22         | .4 24.3   | 23.5     |
|                 | 3位      | 10         | .7 14.7   | 12.9     |
|                 | 4位      | <b>[</b> ] | .5 4.4    | 4.0      |
|                 | 利用していない | 62         | .5 55.7   | 58.7     |

※数値は%。記号は $\chi$ 二乗検定による有意水準:\*p<.05、n.s.有意な偏り無し。

表 20.3.6 子どもの性別ごとに見た Q20 の回答状況(父親)

|                 |         | 男子の父親   | 女子の父親   | 父親全体     |
|-----------------|---------|---------|---------|----------|
|                 |         | (N=711) | (N=401) | (N=1112) |
| 対面              | 1位      | 76.5    | 82.0    | 78.5     |
| n.s.            | 2位      | 3.2     | 2.7     | 3.1      |
|                 | 3位      | 3.9     | 1.8     | 3.2      |
|                 | 4位      | 5.9     | 4.2     | 5.3      |
|                 | 利用していない | 10.4    | 9.2     | 10.0     |
| LINE(LINE通話を除く) | 1位      | 9.6     | 6.7     | 8.5      |
| n.s.            | 2位      | 23.1    | 24.7    | 23.7     |
|                 | 3位      | 16.3    | 17.0    | 16.6     |
|                 | 4位      | 10.4    | 7.5     | 9.4      |
|                 | 利用していない | 40.7    | 44.1    | 41.9     |
| メール             | 1位      | 4.4     | 2.0     | 3.5      |
| **              | 2位      | 11.8    | 8.7     | 10.7     |
|                 | 3位      | 21.4    | 16.2    | 19.5     |
|                 | 4位      | 22.9    | 29.2    | 25.2     |
|                 | 利用していない | 39.5    | 43.9    | 41.1     |
| 電話(LINE通話を含む)   | 1位      | 1.7     | 1.8     | 1.7      |
| n.s.            | 2位      | 30.5    | 31.4    | 30.9     |
|                 | 3位      | 18.7    | 22.9    | 20.2     |
|                 | 4位      | 15.8    | 10.0    | 13.7     |
|                 | 利用していない | 33.3    | 33.9    | 33.5     |

※数値は%。記号は $\alpha$ 二乗検定による有意水準:\*\* p<.01、n.s.有意な偏り無し。

# 20.3.3 子どもとの関係(Q21の(4)~(7))

#### (1) 保護者の性別による違い

Q21 の(4)~(7)について母親と父親の平均回答得点を見ると、すべての項目で母親側の数値が高かった (表 20.3.7)。子どもに否定的な接し方をしながら子どもに好かれていると考えるのはやや矛盾にも思えるが、20.2.1 で確認した通り(4)(5)の組と(6)(7)の組の間には高い負の相関があるため、(4)(5)の数値が高い人は(6)(7)の数値は低いといったように、ある程度逆転した傾向になっていることが考えられる。もっとも、各項目に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合を見ると、(4)が59.2%、(5)が72.6%、(6)が92.2%、(7)が92.1%であることから(いずれも母親側の数値。単純集計を参照)、(4)(5)に「あてはまる」と答えた人の中には結構な割合で(6)(7)にも「あてはまる」と答えた人がいることには変わりない。ただ、そうした人々が矛盾した回答をしたとも言い切れない。「叱る」「欠点が目につく」も程度の問題であり、多少そう感じることがあったとしても全体的には良好な親子関係を築いていると保護者たちは認識しているのであろう。母親・父親の差は接触機会の差に基づくものと考えられる。子どもと接触する機会の多い母親ほど、子どもからの信頼や好感を覚えることが多いとともに、子どもの細かな点が目についたり注意したりすることも多くなってしまうのではないか。

表 20.3.7 保護者の性別ごとに見た Q21(4)~(7)の回答得点

|                          | 母親       | 父親       |
|--------------------------|----------|----------|
|                          | (N=1671) | (N=1112) |
| (4) 子どもをほめるより叱ることの方が多い   | 2.69     | 2.50     |
| (5) 子どもの欠点がどうしても目についてしまう | 2.93     | 2.72     |
| (6) 自分は子どもから頼りにされている     | 3.41     | 3.08     |
| (7) 自分は子どもから好かれている       | 3.45     | 3.09     |

<sup>※</sup>母親と父親は今回別個の調査として扱うため、差の統計的検定は行っていない。

#### (2) 子どもの年層による違い

子どもの年層により Q21 の(4)~(7)の回答得点を比べたところ、(5)~(7)で有意差が確認された(表 20.3.8)。数値は、(5)では就学児が、(6)(7)では未就学児が高い結果となった。(5)の結果については、幼少であるために欠点が許容されがちな未就学児に対し、学業など様々な点で評価の機会がある就学児では保護者の側でも欠点を感じやすくなってしまうものと思われる。(6)(7)については贅言を要しないであろう。父親側を確認したところ、数字の大小は母親と同じ傾向であったが、いずれの項目でも有意差は見られなかった(表 20.3.9)。

表 20.3.8 子どもの年層別に見た Q21(4)~(7)の回答得点(母親)

|                              | 未就学児<br>の母親  | 就学児<br>の母親 | 母親全体         |
|------------------------------|--------------|------------|--------------|
|                              | (N=1029<br>) | (N=642)    | (N=1671<br>) |
| (4) 子どもをほめるより叱ることの方が多い n.s.  | 2.66         | 2.74       | 2.69         |
| (5) 子どもの欠点がどうしても目についてしまう *** | 2.83         | 3.09       | 2.93         |
| (6) 自分は子どもから頼りにされている ***     | 3.47         | 3.33       | 3.41         |
| (7) 自分は子どもから好かれている **        | 3.48         | 3.38       | 3.45         |

<sup>※</sup>数値は各項目の回答について「あてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点として得点化したもの。

表 20.3.9 子どもの年層別に見た Q21(4)~(7)の回答得点(父親)

| 文 20.0.0 1 2 000 1 /6 // 11 // 12 // 12 // 1 | ., (,, •• 🗀 | 141 7111 ( > < 450) |         |
|--|-------------|---------------------|---------|
|  | 未就学児        | 就学児                 | 父親全体    |
|  | の父親         | の父親                 |         |
|  | (N=622)     | (N=490)             | (N=1112 |
|  |             |                     | )       |
| (4) 子どもをほめるより叱ることの方が多い n.s.                  | 2.48        | 2.52                | 2.50    |

<sup>※</sup>記号は t 検定結果: \*\*\* p<.001, \*\* p<.01, n.s.有意差なし。

| (5) 子どもの欠点がどうしても目についてしまう n.s. | 2.68 | 2.77 | 2.72 |
|-------------------------------|------|------|------|
| (6) 自分は子どもから頼りにされている n.s.     | 3.11 | 3.05 | 3.08 |
| (7) 自分は子どもから好かれている n.s.       | 3.11 | 3.07 | 3.09 |

※数値は各項目の回答について「あてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点として得点化したもの。

※記号は t 検定結果: n.s.有意差なし。

#### (3) 子どもの性別による違い

子どもの性別により Q21 の(4)~(7)の回答得点を比べたところ、母親側の数値は(4)(6)(7)は男子の母親が高く、(5)は男女同一となったが、どの項目でも有意差は見られなかった(表 20.3.10)。父親側はやや異なり、数値では(4)(5)(7)で男子の父親が高く、(6)は女子の父親が高かった。また(4)では有意差が見られた(表 20.3.11)。(4)の有意差については、父親として息子には厳しく接しがちなことを示しているものと思われる。

とは言え、全体として子どもの性別による接し方・見方の違いは母親・父親とも大きくないと考えて よいであろう。

表 20.3.10 子どもの性別ごとに見た Q21(4)~(7)の回答得点(母親)

|                               | 男子の母親<br>(N=741) | 女子の母親<br>(N=930) | 母親全体<br>(N=1671<br>) |
|-------------------------------|------------------|------------------|----------------------|
| (4) 子どもをほめるより叱ることの方が多い n.s.   | 2.72             | 2.67             | 2.69                 |
| (5) 子どもの欠点がどうしても目についてしまう n.s. | 2.93             | 2.93             | 2.93                 |
| (6) 自分は子どもから頼りにされている n.s.     | 3.43             | 3.40             | 3.41                 |
| (7) 自分は子どもから好かれている n.s.       | 3.46             | 3.43             | 3.45                 |

<sup>※</sup>数値は各項目の回答について「あてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点として得点化したもの。記号は16 検定結果:18 ル.s.有意差なし。

表 20.3.11 子どもの性別ごとに見た Q21(4)~(7)の回答得点(父親)

|                               | 男子の父親<br>(N=711) | 女子の父親<br>(N=401) | 父親全体<br>(N=1112<br>) |
|-------------------------------|------------------|------------------|----------------------|
| (4) 子どもをほめるより叱ることの方が多い *      | 2.54             | 2.42             | 2.50                 |
| (5) 子どもの欠点がどうしても目についてしまう n.s. | 2.74             | 2.69             | 2.72                 |
| (6) 自分は子どもから頼りにされている n.s.     | 3.07             | 3.11             | 3.08                 |
| (7) 自分は子どもから好かれている n.s.       | 3.10             | 3.08             | 3.09                 |

<sup>※</sup>数値は各項目の回答について「あてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点として得点化したもの。記号は16 検定結果:17 n.s.有意差なし。
※父親に関する結果の記載は省略する。

#### 20.3.4 本節からの知見

本節を通じて、保護者の様々な属性による子どもとのコミュニケーションのあり方や、子どもに対する接し方・見方の違いを検討してきた。

結果からは、まず保護者の性別による差が大きいことがうかがわれた。20.3.2 で触れた通り本調査の回答者は男女で就業状況に大きな差が見られ、専業主婦の多い母親側で子どもとの接触機会が多い反面、就業率の高い父親側では接触機会が少ない状況がうかがわれた。このことは、子どもとのコミュニケーションでは、父親側でLINEなどのコミュニケーションツールの利用率の高さやコミュニケーションの充実度の相対的低さとして表れた。また子どもに対する接し方・見方でも、父親は母親に比べて否定的な接し方・見方の度合いが低い反面、子どもからの信頼や好感を覚えることも少なかった。

子どもの年層も様々な面で違いを生んでいた。就学児の方が LINE などのコミュニケーションツールの

利用率が高い結果が見られたほか、子どもに対する接し方・見方では、保護者は未就学児からは「信頼されている」「好かれている」という感じを強く受けるのに対し、就学児に対しては欠点を意識する度合いが強い状況が見られた。本調査は1時点限りの調査であるためこれを経年的な変化と断じることはできないが、子どもの成長につれて保護者の子どもへの捉え方・感じ方が変わっていると解釈しても決して不当ではないだろう。

本稿では結果記述が煩雑になることを防ぐためあえて傍論としたが、親子関係が情報モラル教育のあり 方を左右する際には、親子関係のそのまた背景にある保護者の性別や子どもの年層といった要素を加味し ながら解釈することが、より正確な状況把握にとって重要なものとなるであろう。

# 21. 情報モラルの社会的格差 — 格差化する家庭養育の陥穽

# 21.1 拡大する教育格差

この章では、本調査において対象とされた保護者たちの情報モラルが、近年の日本で注目されるようになった社会的格差とどのような関係にあるのかについて検討を加えることにしたい。家庭養育の環境をめぐって格差が拡大するなかで、情報教育における保護者のモラルもけっして無縁ではありえないからである。

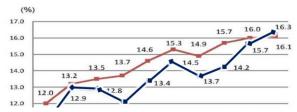
近年、子どもの相対的貧困率が上昇してきていることは、これまでもつとに指摘されてきたところである。とりわけ 2000 年以降はその上昇傾向が激しくなっており、養育家庭の経済的困難の広がりが子どもの教育格差も招いているといわれている(図 1)。

たとえば、保護者の所得や学歴といった家庭環境と、小6と中3が受ける全国一斉学力テストの得点の関係を調べた研究によると、前者が上がるにつれて後者も上がるという関連が見出せる(図2)。昨今では、小学校高学年から学習塾へ通いはじめる者も多く、それが学習時間にも影響を与えることになる。しかし、その通塾費用は大きな家計負担となるため、結果的に家庭の経済状況によって学習時間に格差が生じてしまうのである。

事実、この調査では学校外での学習時間と得点との関係も調べているが、大方の予想どおり両者にも明白な関連が見出せる。ところが、じつはこの調査研究のもっとも衝撃的な知見は、学習時間よりも家庭環境の影響力のほうが大きいという事実を明らかにしたことにある。たとえば、もっとも恵まれない家庭区分に入る生徒たちは、毎日3時間以上の学習をしても、もっとも恵まれた家庭区分で、学習時間がゼロの生徒のテストの平均点に達することができていない(図3)。子どもの成績に影響を与えるのは学習時間だけではないからである。

もちろん、これは平均値での話なのでは個人差はある。しかし一般論としていえば、家庭環境が学力に及ぼす影響は、生徒自身の学習努力より大きい。学力を左右するのは教科学習の多寡だけではなく、幼少期からの様々な体験によって培われる非認知能力もまた学力に大きな影響を与えている。この調査研究が明らかにしたのは、その家庭環境に大きな影を落としている社会的格

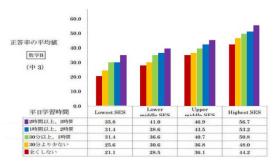
【図1】相対的貧困率の推移 (ウェブサイト「貧困統計ホームページ」から転載)



【図2】家庭の社会経済的背景と子どもの学力の関係 「全国学力・学習状況調査の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」 (お茶の水女子大学、2014年、研究代表者 耳喉気明)



【図3】家庭の社会経済的背景と子どもの学力の関係 「全国学力・学習状況調査の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」 (お来の水タナ大学、2014年、研究代表者 耳喉変明)



差を個人的な努力で乗り越えるには、目の前に大きな壁が存在しているという事実である。

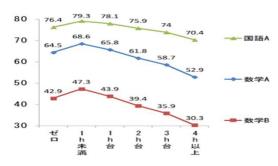
このような養育家庭の格差は、日々の生活のなかで子どもたちが接している情報環境についても当てはまる。たとえば、インターネットの利用時間と全国一斉学力テストの得点の関係を調べた調査結果によれば、4時間以上の利用から1時間未満の利用まで、ネット利用時間が減るにつれて得点の平均値は上昇していく傾向にある。これはおそらく一般的な常識と違わないだろう。ネット利用時間が増えれば勉強時間は減ると推測されるからである(図4)。

ところが、ネット利用時間がゼロになると、その傾向が逆転し、学力テストの平均点は逆に下がってしまう。1時間未満とゼロでは、おそらくその内実が違うからである。たとえ1時間未満であっても多少は

利用しているという子どもたちは、ネットを利用できる環境にいることが前提である。しかし、ゼロの子どもたちの中には、もちろんネットを利用できる環境があってもあえて使わないという者もいるだろうが、そもそもネットの利用環境それ自体を持ち合わせていないという者も含まれている。そして、後者の経済的に厳しい状況に置かれている層が、全体の平均点を押し下げているものと推察される。

この事実が意味しているところは、いわゆるデジタル・デバイドとは利用できるデジタル機器それ自体の有無をめぐる格差の問題としてだけでは

【図4】インターネット利用時間と学力の関係 (文部科学省「全国学力・学習状況調査(2013) ウェブサイト「三谷宏治の学びの源泉」から転載)



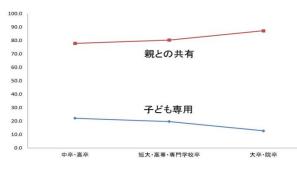
なく、そこに投影されている養育環境の格差の問題でもありうるということである。この養育環境の格差 こそが、子どもの学力に大きな投影を与えているのである。したがって、それとまったく同様のことが、 じつはその情報機器の利用をめぐるモラル教育の面についてもいえる。以降では、その詳細な検討をおこ なっていきたい。

## 21.2 情報モラルの格差

人びとの学歴と年収との間には、一般的に順相関の関係が成立しやすい。本調査においてもその傾向が 表われており、保護者の学歴と年収との間には強い相関が見出せる。すなわち、学歴が上昇するにつれて 年収も増えていく傾向にある(図5)。しかし、それがストレートに情報機器の利用形態とリンクしている わけではない点には留意しておかなければならない。

たとえば、保護者の学歴と子どものスマートフォンの利用率 との関係を調べてみると、親の学歴が上昇するにつれて、子ども 専用のスマートフォンを持たせている家庭は減少し、親のスマー トフォンを共有で使わせている家庭が増えていく(図6)。他方 で、保護者の年収と子どものスマートフォンの利用率との間に は、有意味な相関を見出すことができない。親の年収と学歴は相 関するが、子どもの情報機器の利用形態に大きな影響を及ぼして いるのは、年収よりもむしろ学歴である。

【図6】 学歴別にみたスマートフォンの所有形態(母親)



本調査



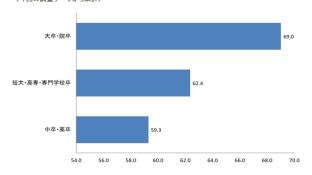
【図5】学歴と年収の関係(女性親)

共有かを問わず、子どもがスマートフォンを利用して いる家庭だけが対象として抽出されているため、本章 の前項で指摘したような、そもそもネット環境をもち えないほど極貧の家庭は調査対象に含まれていない。 そのため、保護者の年収による利用率の差異はここに 表われていない。しかし、それなりに恵まれた家庭環 境の層においてすら、保護者の学歴によって子どもの ネット機器の利用形態に違いが見られるという事実は、 まさに機器の利用可能性の問題としてだけではなく、

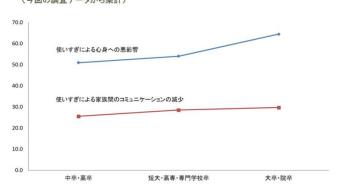
利用時におけるモラル教育の問題として、養育環境の格差が存在していることを物語っている。

事実、ネットの利用に関して子どものプライバシー保護のために配慮している親は、親の学歴が上昇 するにつれて増える傾向にあり、その相関度は相当に強い(図7)。また、ネットの使い過ぎによる子ども の心身への悪影響や、家族間のコミュニケーションの減少を心配する親も、プライバシー保護ほど強い相 関ではないものの、親の学歴が上昇するにつれて増える傾向にある(図8)。

【図7】 プライバシー保護のための配慮【自分や家族の写真を載せる時は、 本人が分からないように画像加工などの工夫をしている](母親) (今回の調査データから集計)



【図8】 スマートフォンの利用で心配すること(母親) (今回の調査データから集計)

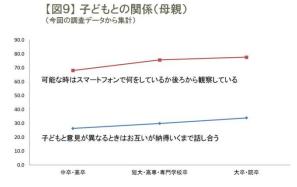


保護者の態度にこのような学歴差が見受けられるのは、それに情報機器にかかわる問題だからというわけではない。前項で指摘したように、デジタル・デバイドとは利用できるデジタル機器それ自体をめぐる格差の問題だけではなく、そこに投影されている養育環境の格差の問題でもありうるからである。事実、可能な時はスマートフォンで子どもが何をしているか後ろから観察しているという親も、また子どもと意見が異なるときはお互いが納得いくまで話し合うという親も、その学歴が上昇するにつれて増えていく傾向にある(図 9)。

このように、デジタル・デバイドの背後に存在しているのは、ネット機器を利用できるか否かといった 前項で指摘したような経済的格差の問題だけでなく、そのネット機器をどのように使わせるべきかをめぐ る親の養育態度の格差の問題でもあり、それは普段からの親子関係のあり方の投影でもあるともいえる。

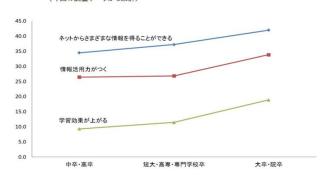
したがって、このような親の養育態度は、子どものネット 利用をめぐってアンビバレントの感情をもたらす背景と もなっている。

たとえば、子どものネット利用を肯定的に捉え、そこから様々な情報を得ることができると考える親も、また情報活用力が身に付くと考える親も、さらには学習効果が上がると考える親も、親の学歴が上昇するにつれて増えていく(図 10)。ここからは、子どものネット利用に関して、一方では懸念を抱きつつも、他方では期待をかけてもいる様子がうかがえる。実際、せっかくスマートフォンを使わせるのなら、そこで教育用アプリケーションを積極

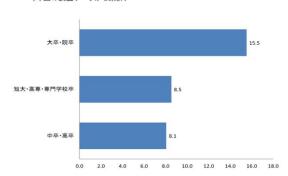


的に使わせたいと考える親の数も、その学歴との間に強い相関を示しているのである(図11)。

【図10】スマートフォンの利用に期待すること(母親) (今回の調査データから集計)

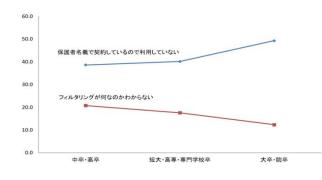


【図11】教育用アプリを利用させたい(母親) (今回の調査データから集計)



ところが、子どものネット利用に関してアンビバレントの感情を抱き、このように慎重な態度を見せる 高学歴の親の態度にも、ひとつの陥穽が見受けられる。先述したように、保護者の学歴が上昇していくに つれて、子どもにスマートフォンを利用させるにあたって子ども専用ではなく親との共有という利用形態 が増えていくため、スマートフォンのフィルタリングを利用していないという親は、親の学歴が上昇して いくにつれて逆に増加していくのである(図 12)。

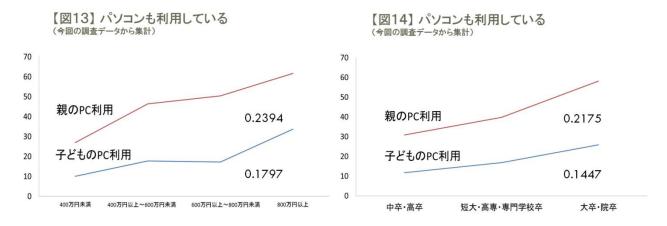
【図12】スマートフォンのフィルタリング導入(母親)



このような陥穽は、じつはフィルタリングの面だけに留まらない。保護者の学歴が上昇するにつれて、子どもの学力醸成に非常に気を遣う親が増えてくるにもかかわらず、その気配りが学習効果という目先の対応だけに陥っており、もっと多様な諸側面から子どもの好奇心や関心を喚起させうるような養育態度にはなっていないからである。子どもの情報機器の利用形態からは、そのことがうかがえる。この点について最後に触れておきたい。

## 21.3 モラル意識の陥穽

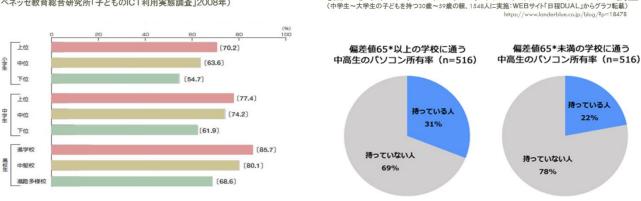
親と子のいずれについても、パソコンを利用している割合は、親の年収が増えるにつれて上昇していく (図 13)。当然ながら、同じ傾向は親の学歴にも見られる (図 14)。すなわち、学歴が上がるにつれてパソコン利用率も上昇していく。しかし、それぞれの相関係数を求めてみると、学歴と利用率の相関よりも 年収と利用率の相関のほうが強いことが分かる。これは何を物語っているのだろうか。



これまでの各種調査によれば、家庭でのパソコン利用率と子どもの学力は順相関していることが知られている(図 15・図 16)。もっとも、親の学歴や年収とパソコンの利用率も順相関しているため、これはじつは家庭の養育環境が子どもの学力に影響を与えているのであって、パソコン利用率との関係は擬似的なものにすぎないと解釈することもできる。しかし、そう切って捨てることを許さない問題もここには含まれていると推察される。

【図16】 ウィンドウズ・デジタルライフスタイル・コンソーシアム調査

【図15】家庭でのパソコン利用率(小中成績別・高校偏差値別) (ベネッセ教育総合研究所「子どものICT利用実態調査」2008年)



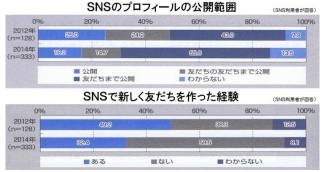
ネットの発達は、子どもたちの生活世界を広げてきたといわれる。たしかにネットを介した SNS の広がりは、多種多様な人びとが時間と空間の制約を超えてつながり合うことを容易にした。だからこそ、出会い系サイトに規制がかかる一方で、SNS 上で良からぬ大人と知り合って被害に遭ってしまう子どもの増加が大きな社会問題となってきたのである。

しかし、その一方で、SNS は、時間と空間の制約を超えて、仲間内でのつねにつながり続けることをも容易にした。LINE 等のようにそもそもそれを目的としたコミュニケーションアプリも開発され、多くの若者たちに利用されている。そして現在、少なくとも若年層での使用形態を見たとき、外部へと人間関係を広げていくツールとしてよりも、むしろ閉じた人間関係を維持するためのツールとして、SNS が駆使される傾向が強まっている。

たとえば、SNS では自分のプロフィールを一般公開にすることなく、友だち同士のなかで押さえておく子どもが現在は増えており、その結果として、SNS上で新しく友だちを作った経験をもつ子どもの数は減ってきている(図 17)。また、会ったことのない人とネットをつうじて親しくなったことがある子どもの数も、近年は減少する傾向にある(図 18)。ここからは、インターネットが人間関係を広げていくツールではなくなりつつある様子がうかがえる。

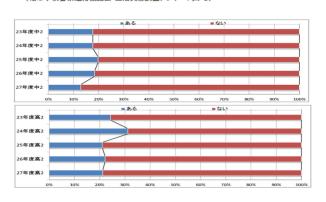
このような傾向は、インターネットへの接続機器としてパソコンも利用する若者と、スマートフォンしか利用しない若者を比較したとき、後者のほうがより激しくなっている。すなわち、パソコンも利用する 層とスマートフォンしか利用しない層とのデジタ

【図17】既存の人間関係を補完する手段としてのSNS (NTF)コモモバル社会研究所「子どものケータイ利用に関する調査」)



ル・デバイドには、じつは人間関係の広さをめぐる デバイドという側面も見受けられるのである。

【図18】 会ったことのない人とネットで親しくなったこと (柏市学校警察連絡協議会「生活零態調査アンケート」から)



ここには人間関係だけに留まらない問題があることにも留意しなければならない。それは、各自の好奇心や関心の広さとも相関しているからである。たとえば、何か調べものをしようと試みるとき、パソコンも利用している層の若者たちは、グーグルやヤフーなどの検索エンジンを駆使してその眼差しを世界へと広げていく。しかし、スマートフォンしか利用していない若者たちは、調べものの場合ですらインスタグラムだけで済ませてしまおうとする傾向が強い。それで事足りると感じているからである。

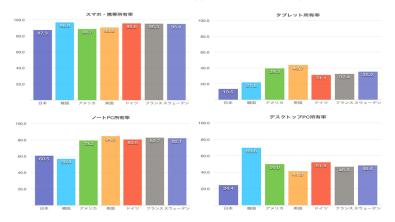
これは、利用する機器に由来する相違というよりも、彼ら自身のインセンティブに由来する相違である。それが利用する機器の違いに投影されているのであって、けっして逆ではない。この点に留意するならば、先ほど指摘した子どものパソコン利用率と彼らの学力との相関関係は、じつは彼らのインセンティブの違いが投影されたものと解釈することもできる。子どもたちにパソコンを持たせたからといって彼らの学力が向上するわけではない。パソコンも利用したくなるようなインセンティブを彼等に持たせることこそ、彼らの学力を向上させることにつながっていくのである。

しかるに、親の年収とパソコン利用率の関係と、親の学歴とパソコン利用率の関係を比較したとき、後

者のほうが相関度が低いという事実は、経済的に恵まれた家庭環境であるにもかかわらず、直接的な勉学態度に留まらない好奇心や関心の醸成にも気を配ってもらっている子どもたちが、じつはそれほど多くは存在していないことを示唆しているといえる。

他の先進諸国と比較したとき、日本の若者のネット環境はけっして劣っていない。 たとえば、スマートフォンの利用率は、他の諸国とそれほど違わない(図 19)。しか

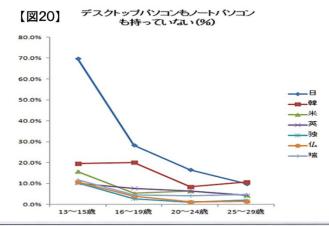
【図19】内閣府「平成25年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」 (13~29歳・WEB調査:WEBサイト「永江一石のITマーケティング日記」からグラフ転載) https://www.landerblue.co.jp/blog/%p=18478

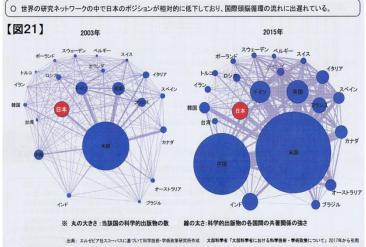


し、ことパソコン利用率に限ってみると、日本の若者だけが段違いに低いことが分かる (図 20)。これまで指摘してきたように、これが若者たちのインセンティブの相違を反映しているのだとしたら、いま私たちが取り組むべき課題は彼らの眼差しをいかに広い世界へと拓かせていくかにあるといえるだろう。

事実、世界の研究ネットワークの中で、 日本のポジションはこのところ相対的に低下 しつつあり、国際的な頭脳循環の流れに対し ても出遅れてしまっている(図 21)。日本が 今後も科学立国の道を歩んでいきたいのであ れば、これはゆゆしき事態である。若者たち を安全圏へと囲い込み、彼らの眼差しを狭い 人間関係の中に閉じさせるのではなく、む 長しを外へと開かせることが必要である。これ から日本の将来を担っていく若者たちに対し て私たちが採るべきなのは、言うまでもな からの家庭での養育環境と、それを育む社会 的な支援体制の整備いかんにかかっている。

# <補足資料>





# スクリーニング調査(本調査母親に限った集計)

| 7(7) Date (   mate: 5//mc/M )/c//cl/       |                   |                  |                 |  |
|--|-------------------|------------------|-----------------|--|
| SQ1 現在、あなたと同居しているご自身のお子さまはいますか。            | 6歳未満<br>(N-1,030) | 6~12歳<br>(N-643) | 全体<br>(N=1.671) |  |
|  | (N=1,029)         | ,                | (N=1,671)       |  |
| l/3  | 100.0             |                  |                 |  |
| いない  | 0.0               | 0.0              | 0.0             |  |
| SQ2 同居しているお子さまの人数をお答えください。                 | 6歳未満              | 6~12歳            | 全体              |  |
|  | (N=1,029)         | (N=642)          | (N=1,671)       |  |
| 1人   | 53.6              | 38.6             | 47.9            |  |
| 2人   | 34.2              | 47.2             | 39.2            |  |
| 3人   | 10.2              | 12.8             | 11.2            |  |
| 4人以上                                       | 1.9               |                  | 1.7             |  |
| SQ3 同居しているなかで、一番小さいお子さまの年齢(学齢)をお答えください。    | 6歳未満              | 6~12歳            | 全体              |  |
|  | (N=1,029)         | (N=642)          | (N=1,671)       |  |
| 0歳   | 13.0              | 0.0              | 8.0             |  |
| 1歳   | 20.6              | 0.0              | 12.7            |  |
| 2歳   | 23.4              | 0.0              | 14.4            |  |
| 3歳   | 18.6              | 0.0              | 11.4            |  |
| 4歳   | 12.2              | 0.0              | 7.5             |  |
| 5歳   | 12.2              | 0.0              | 7.5             |  |
| 6歳   | 0.0               | 18.9             |                 |  |
| 7歳   | 0.0               | 15.7             | 6.0             |  |
| 8歳   | 0.0               | 13.4             | 5.2             |  |
| 9歳   | 0.0               | 12.9             | 5.0             |  |
| 10歳  | 0.0               | 13.2             | 5.1             |  |
| 11歳  | 0.0               | 10.8             | 4.1             |  |
|  | 0.0               | 15.1             | 5.8             |  |
| 中学生以上                                      | 0.0               | 0.0              | 0.0             |  |
| SQ4 一番小さいお子さまが使っている情報機器を次の中からお選びください。(いくつで | 6歳未満              | 6~12歳            | 全体              |  |
| も)※あなたの所有する情報機器で操作させる程度でも構いません。(写真撮影・動画    | (N=1,029)         | (N=642)          | (N=1,671)       |  |
| 視聴など)                                      |                   |                  |                 |  |
| 1 スマートフォン                                  | 100.0             | 100.0            | 100.0           |  |
| 2 電話やネットのつながらないスマートフォン                     | 8.4               | 5.8              | 7.4             |  |
| 3 携帯電話(キッズ携帯含む)                            | 2.1               | 16.0             | 7.5             |  |
| 4 タブレット端末                                  | 26.5              | 34.6             |                 |  |
| 5 ネットのつながらないタブレット端末                        | 2.1               |                  |                 |  |
| 6 パソコン                                     | 10.4              | 29.3             | 17.7            |  |
|  | 9.6               | 53.3             | 26.4            |  |
| 8 据置き型ゲーム機                                 | 8.3               | 38.3             | 19.8            |  |
| 9 音楽プレイヤー                                  | 3.0               | 6.1              | 4.2             |  |
| 10 その他( )                                  | 0.1               | 0.0              | 0.1             |  |
| 11 情報機器は使っていない                             | 0.0               | 0.0              | 0.0             |  |
| TT ITTEMPORATION V                         | 0.0               | 0.0              | 0.0             |  |

#### 本調査(母親集計) Q1 あなたはお子さまにスマートフォンをどういう形で使わせていますか。 6~12歳 6歳未満 全体 (N=1,029)(N=642)(N=1,671)1 子ども専用 18.61 8.4 35.1 2 親との共有 91.6 65.0 81.39 Q2 お子さまにスマートフォンを使わせている理由を、次の中からお選びください。(いくつで 6歳未満 6~12歳 全体 (N=225)も) ※Q1=1限定 (N=86)(N=311)1 時代に乗り遅れないようにするため 8.9 2 子どもに情報機器を使いこなせるようになってほしいから 10.5 12.0 11.6 3 将来情報関連の仕事についてほしいから 3.5 0.9 1.6 4 子どもがスマートフォンに熱中してくれた方が子育てが楽だから 17.4 0.9 5.5 16.3 9.3 5 便利なアプリがあったから 6.7 9.7 6 教育用アプリを使わせたいから 18.6 6.2 持っている子どもが多く、自分の子どもが肩身の狭い思いをしないように 11.6 16.9 15.4 8 子どもとの連絡に便利だから 32.6 73.3 62.1 9 子どもが使いたがったから 37.9 44.2 35.6 7.1 10 その他( 4.7 8.0 11 特に理由はない 7.0 4.0 4.8 全体 O3 お子さまにスマートフォンを使わせている理由を、次の中からお選びください。(いくつで 6歳未満 6~12歳 も) ※Q1=2限定 (N=943)(N=417)(N=1,360)1 時代に乗り遅れないようにするため 7.4 4.3 2 子どもに情報機器を使いこなせるようになってほしいから 5.0 12.2 7.2 0.5 3 将来情報関連の仕事についてほしいから 0.1 1.4 4 子どもがスマートフォンに熱中してくれた方が子育てが楽だから 5.8 16.4 21.1 5 便利なアプリがあったから 25.5 21.8 24.3 6 教育用アプリを使わせたいから 15.7 16.3 15.9 7 使っている子どもが多く、自分の子どもが肩身の狭い思いをしないように 2.8 7.0 4.0 8 子どもが使いたがったから 63.6 75.5 67.3 9 その他( 7.1 7.4 8.2 10 特に理由はない 9.8 8.8 Q4 お子さまがスマートフォンでほぼ毎日利用しているサイトやアプリの利用状況を、次の中 6歳未満 6~12歳 全体 (N=1,029)(N=642)(N=1,671)からお選びください。(いくつでも) 1 LINEでのコミュニケーション 29.9 16.5 2 Twitter、Facebook、Instagramを見る 2.5 6.5 4.1 3 Twitter、Facebook、Instagramに書き込む 1.2 2.5 1.7 4 YouTube、ニコニコ動画などで動画を見る 67.6 58.4 64.1 5 YouTube、ニコニコ動画などに動画を投稿する 1.7 1.6 1.6 6 ニコニコ生放送、ツイキャスなどでライブ動画を見る 0.9 1.0 1.1 ニコニコ生放送、ツイキャスなどにライブ配信する 0.3 0.2 0.2 8 ゲームをする 29.5 64.3 42.9 9 ニュースを読む 1.0 5.9 2.9 0.9 4.2 2.2 10 電子書籍、電子コミックを読む 11 SNOW, Camere 360 などで写真を撮影・加工する 7.1 11.7 8.9 12 学習アプリを利用する 13.8 15.1 14.3 13 モッピー、げん玉などのお小遣い稼ぎアプリを利用する 1.0 0.8 0.9 14 各種クーポンを入手する 0.9 1.7 1.2 15 その他( 10.4 8.7 9.8 16 子どもがどんなサイトやアプリを使っているか分からない 4.4 1.6 3.3

| Q5 お子さまの現在のスマートフォン利用について心配していることを次の中からお選びくださ | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
|--|-----------|---------|-----------|
| い。 (いくつでも)                                   | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
| 1 有害サイト・アプリ(ポルノ、犯罪、暴力、自殺、家出、薬物、              | 20.5      | F2 0    | 20.1      |
| 違法バイトなどに関するもの) の利用・閲覧                        | 30.5      | 53.0    | 39.1      |
| 2 架空請求・不当請求の被害にあう                            | 27.1      | 40.5    | 32.3      |
| 3 ネットで知りあった人と実際に会って被害にあう                     | 17.7      | 28.4    | 21.8      |
| 4 ネット上で誹謗中傷などの被害にあう                          | 13.6      | 28.0    | 19.2      |
| 5 「ながらスマホ」で事故にあう                             | 15.7      | 23.8    | 18.8      |
| 6 いたずらや悪ふざけの画像・動画を投稿してしまう                    | 12.9      | 21.2    | 16.1      |
| 7 自分から不用意にプライバシー情報を公開してしまう                   | 19.1      | 31.3    | 23.8      |
| 8 他人にプライバシー情報をさらされる                          | 12.1      | 23.4    | 16.4      |
| 9 著作権・肖像権侵害などの違法行為(違法ダウンロードなど)               | 8.3       | 13.1    | 10.1      |
| 10 使いすぎによる成績の低下                              | 17.8      | 39.4    | 26.1      |
| 11 使いすぎによる心身への悪影響                            | 56.6      | 54.5    | 55.8      |
| 12 使いすぎによる家族間のコミュニケーションの減少                   | 28.1      | 27.4    | 27.8      |
| 13 使いすぎによる高額請求(架空/不当請求ではない)                  | 14.4      | 22.9    | 17.7      |
| 14 ネット上の情報をなんでも信じてしまう                        | 11.7      | 24.1    | 16.5      |
| 15 その他( )                                    | 3.8       | 1.4     | 2.9       |
| 16 今のところ心配していることはない                          | 18.2      | 11.4    | 15.6      |
| Q6 お子さまのネット活用で期待されるメリットは何だと思いますか。あてはまるものを次の中 | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
| からお選びください。(いくつでも)                            | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
| 1 ネットを通じていろいろな人と知り合うことができ、ネットワークが広がる         | 5.8       | 5.0     | 5.5       |
| 2 友だちづくりが容易にできる                              | 3.6       | 5.9     | 4.5       |
| 3 友だちとの関係が良くなる                               | 5.6       | 9.7     | 7.2       |
| 4 悩みを相談できる相手ができる                             | 3.8       | 2.2     | 3.2       |
| 5 ネット上で同じ趣味の友だちと知り合うようになる                    | 4.2       | 4.8     | 4.4       |
| 6 家族との連絡が便利になる                               | 28.9      | 47.4    | 36.0      |
| 7 家族と本音で話ができるようになる                           | 2.2       | 3.1     | 2.6       |
| 8 ネットからさまざまな情報を得ることができる                      | 34.5      | 42.5    | 37.6      |
| 9 情報活用力がつく                                   | 26.7      | 31.6    | 28.6      |
| 10 学習効果が上がる                                  | 12.7      | 12.8    | 12.8      |
| 11 自分の気持ちを積極的に表現できるようになる                     | 4.4       | 4.8     | 4.6       |
| 12 その他( )                                    | 1.9       | 0.9     | 1.6       |
| 13 メリットは特にない                                 | 29.5      | 16.2    | 24.4      |

| Q7 お子さまがスマートフォンを使い始めてから次のような変化はありましたか。あてはまるもの | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
|---|-----------|---------|-----------|
| をお選びください。(いくつでも)                              | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
| 1 分からないことをすぐにネットで調べる習慣がついた                    | 8.7       | 33.0    | 18.0      |
| 2 ネットの情報に頼りきりになり自分で考えることをしなくなった               | 3.7       | 6.2     | 4.7       |
| 3 学習用サイトやアプリを利用することで勉強がはかどるようになった             | 4.6       | 6.5     | 5.3       |
| 4 娯楽目的に利用するばかりで勉強しなくなった                       | 4.0       | 13.2    | 7.5       |
| 5 様々な情報に触れることで知識が増えた                          | 14.2      | 19.0    | 16.0      |
| 6 様々な情報に触れることで視野が広がった                         | 7.8       | 10.1    | 8.7       |
| 7 見る情報が偏りがちになった                               | 4.9       | 7.3     | 5.8       |
| 8 知識やものの考え方が狭くなった                             | 1.3       | 1.3     | 1.3       |
| 9 自ら情報発信することで自己表現に積極的になった                     | 1.3       | 1.4     | 1.3       |
| 10 ネットを通じて新たな友だち関係が生まれた                       | 1.0       | 2.3     | 1.5       |
| 11 既存の友だちとの関係がさらに深まった                         | 1.6       | 7.6     | 3.9       |
| 12 ネットにのめり込みすぎて既存の友だちと疎遠になった                  | 0.4       | 0.6     | 0.5       |
| 13 子どもの人間関係が見えにくくなった                          | 1.1       | 1.7     | 1.3       |
| 14 家族間のコミュニケーションが増えた                          | 2.7       | 9.8     | 5.5       |
| 15 家族間のコミュニケーションが減った                          | 4.7       | 4.7     | 4.7       |
| 16 楽しそうにしていることが多くなった                          | 18.4      | 15.6    | 17.3      |
| 17 使いすぎで健康が損なわれた(視力の悪化、運動不足など)                | 2.6       | 10.1    | 5.5       |
| 18 気持ちの落ち込みなど精神的に疲れるようになった                    | 0.4       | 0.9     | 0.6       |
| 19 SNSで友達に気を使いすぎて疲れるようになった                    | 1.0       | 0.6     | 0.8       |
| 20 睡眠時間の減少、昼夜逆転など生活習慣が乱れるようになった               | 3.2       | 6.2     | 4.4       |
| 21 その他( )                                     | 1.7       | 1.4     | 1.6       |
| 22 特に変化はない                                    | 49.0      | 26.0    | 40.2      |
| Q8 あなたが使用している情報機器はどれですか。あてはまるものをお選びください。 (いくつ | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
| でも)   | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
| 1 スマートフォン                                     | 98.4      | 97.2    | 97.9      |
| 2 携帯電話  | 3.6       | 6.7     | 4.8       |
| 3 タブレット端末                                     | 23.1      | 29.8    | 25.7      |
| 4 パソコン  | 33.9      | 54.5    | 41.8      |
| 5 携帯ゲーム機                                      | 10.2      | 15.6    | 12.3      |
| 6 据置き型ゲーム機                                    | 9.0       | 15.0    | 11.3      |
| 7 音楽プレイヤー                                     | 7.2       | 10.4    | 8.4       |
| 8 その他( )                                      | 0.0       | 0.0     | 0.0       |

| Q9 あなたがスマートフォンでほぼ毎日利用しているサイトやアプリの利 | 田状況を 次の中か                               | 6歳未満         | 6~12歳        | 全体              |
|------------------------------------|---|--------------|--------------|-----------------|
| らお選びください。(いくつでも) ※ <b>Q8=1限定</b>   | JULYWEY WOLL                            | (N=1,012)    | (N=624)      | ェル<br>(N=1,636) |
| 1 LINEでのコミュニケーション                  |   | 84.7         | 82.9         | 84.0            |
| 2 Twitter、Facebook、Instagramを見る    |   | 58.1         | 38.3         | 50.6            |
| 3 Twitter、Facebook、Instagramに書き込む  |   | 15.3         | 10.4         | 13.5            |
| 4 YouTube、ニコニコ動画などで動画を見る           |   | 32.5         | 28.0         | 30.8            |
| 5 YouTube、ニコニコ動画などに動画を投稿する         |   | 1.4          | 1.3          | 1.3             |
| 6 ニコニコ生放送、ツイキャスなどでライブ動画を見る         | •••••                                   |              | 1.4          |                 |
|                                    |   | 1.7          |              | 1.6             |
| 7 ニコニコ生放送、ツイキャスなどにライブ配信する          | *************************************** | 0.5          | 0.3          | 0.4             |
| 8 ゲームをする                           |   | 35.8         | 48.6         | 40.7            |
| 9 ニュースを読む                          |   | 54.5         | 65.2         | 58.6            |
| 10 子育てサイトを見る                       |   | 27.9         | 10.3         | 21.2            |
| 11 電子書籍、電子コミックを読む                  | •••••                                   | 11.1         | 14.4         | 12.4            |
| 12 SNOW,Camere360などで写真を撮影・加工する     |   | 7.4          | 6.3          | 7.0             |
| 13 学習アプリを利用する                      |   | 2.3          | 2.6          | 2.4             |
| 14 モッピー、げん玉などのお小遣い稼ぎアプリを利用する       |   | 25.2         | 20.8         | 23.5            |
| 15 メルカリ、minneなどで副収入を得る             |   | 16.7         | 9.6          | 14.0            |
| 16 各種クーポンを入手する                     |   | 15.9         | 20.7         | 17.7            |
| 17 その他( )                          |   | 1.0          | 0.8          | 0.9             |
| Q10 お子さまがスマートフォンを安全かつ適切に活用する力をつける  | ために次のことはどの程                             | 6歳未満         | 6~12歳        | 全体              |
| 度有効だと思われますか。それぞれについて選択肢の中から1つずつお   | 選びください。                                 | (N=1,029)    | (N=642)      | (N=1,671)       |
|                                    |   |              |              |                 |
| (1) 親による子どもへのインターネットリテラシー教育        | 有効だ側                                    | 79.7         | 85.2         | 81.8            |
|                                    | 有効ではない側                                 | 20.3         | 14.8         | 18.2            |
| (2) 学校による情報モラル・情報活用教育              | 有効だ側                                    | 80.4         | 84.1         | 81.8            |
|                                    | 有効ではない側                                 | 19.6         | 15.9         | 18.2            |
| (3) 地域の有志・ボランティアによる情報モラル・情報活用教育    | <br>有効だ側                                | 58.2         | 54.4         | 56.7            |
|                                    | 有効ではない側                                 | 41.8         | 45.6         | 43.3            |
| (4) ネット事業者やアプリの提供事業者による出前授業や教育用    | <br>有効だ側                                | 66.0         | 67.4         | 66.5            |
| アプリの配信、リーフレット、HPでの情報提供             | 有効ではない側                                 | 34.0         | 32.6         | 33.5            |
|                                    | <br>有効だ側                                | 91.2         | 91.0         | 91.1            |
| (3)                                | 有効ではない側                                 | 8.9          | 9.0          | 8.9             |
| (6) 上級生からのアドバイス                    | 有効だ側                                    | 57.7         | 59.8         | 58.5            |
| (0) 1,010                          | 有効ではない側                                 | 42.3         | 40.2         | 41.5            |
| (7) フィルタリングやペアレンタルコントロールの利用        | 有効だ側                                    | 73.8         | 80.8         | 76.5            |
| (// 5 1/0/35 ) (                   | 有効ではない側                                 | 26.2         | 19.2         | 23.5            |
| (8) 保護者のネット利用に関する知識の向上             | 有効だ側                                    | 86.0         | 90.8         | 87.9            |
|                                    | 有効ではない側                                 | 14.0         | 9.2          | 12.2            |
| (9) 保護者に対する情報モラル・情報活用教育            | 有効だ側                                    | 79.5         | 87.2         | 82.5            |
| (3) 休暖日に対する情報とグル・情報石角教育            | 有効ではない側                                 | 20.5         |              | 17.5            |
| (10) 保護者間での子どものネット利用に関する情報の共有      | 有効だ側                                    | 81.9         | 12.8<br>83.0 | 17.5<br>82.3    |
| (10) 水豆田町(9)(09个川本町市に対する間報の光行      | 有効ではない側                                 | 18.1         | 17.0         | 17.7            |
| /11\ フフィディフにトス桂却エニ!! めばお洋田に関すて改交   |   |              |              |                 |
| (11) マスメディアによる情報モラルや情報活用に関する啓発     | 有効だ側                                    | 72.7<br>27.3 | 71.5         | 72.2            |
| /(12) 推世雨託服士会社の房に美物の御庁 / フォカルギリーギ  | 有効ではない側                                 |              | 28.5         | 27.8            |
| ` '                                | 有効だ側                                    | 78.5         | 81.9         | 79.8            |
| スの説明など)                            | 有効ではない側                                 | 21.5         | 18.1         | 20.2            |
| ` /                                | 有効だ側                                    | 80.8         | 82.7         | 81.5            |
| 入を義務付ける法令の制定                       | 有効ではない側                                 | 19.2         | 17.3         | 18.5            |
| ` ,                                | 有効だ側                                    | 66.4         | 64.7         | 65.7            |
| 免許制など)                             | 有効ではない側                                 | 33.6         | 35.4         | 34.3            |
| (15) 行政・企業などによる相談窓口の拡充             | 有効だ側                                    | 54.6         | 57.9         | 55.9            |
|                                    | 有効ではない側                                 | 45.4         | 42.1         | 44.1            |

| Q11 お子さまが使うスマートフォンでフィルタリングを利用していますか。次の中からあてはまる  | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
|---|-----------|---------|-----------|
| ものをお選びください。(1つだけ)                               | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
| 1 フィルタリングを利用している                                | 12.4      | 25.6    | 17.5      |
| 2 最初から利用するつもりはない                                | 7.7       | 6.2     | 7.1       |
| 3 保護者名義で契約しているので利用していない                         | 40.5      | 44.6    | 42.1      |
| 4 最初は利用していたが、解除した                               | 0.3       | 1.7     | 0.8       |
| 5 利用しているかどうかわからない                               | 5.0       | 5.9     | 5.3       |
| 6 フィルタリングが何なのかわからない                             | 21.3      | 10.6    | 17.2      |
| 7 この中にあてはまるものはない                                | 12.8      | 5.5     | 10.0      |
| Q12 お子さま用のスマートフォンに対して、家庭内のWi-Fiでフィルタリングを設定しています | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
| か。次の中からあてはまるものをお選びください。(1つだけ)                   | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
| 1 フィルタリングを設定している                                | 11.0      | 18.2    | 13.8      |
| 2 フィルタリングを設定していない                               | 29.5      | 30.8    | 30.0      |
| 3 設定したいが、やり方がわからない                              | 3.3       | 6.9     | 4.7       |
| 4 設定しているかどうかわからない                               | 7.3       | 9.4     | 8.1       |
| 5 Wi-Fiのフィルタリングが何なのかわからない                       | 26.8      | 20.7    | 24.5      |
| 6 この中にあてはまるものはない                                | 22.1      | 14.0    | 19.0      |
| Q13 フィルタリングについて、あなたの考えにあてはまるものをお選びください。 (いくつでも) | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
|   | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
| 1 ネットは危険なので18歳になるまでフィルタリングは外さない                 | 15.5      | 14.3    | 15.0      |
| 2 子どもを信頼しているのでフィルタリングは必要ない                      | 3.0       | 7.0     | 4.6       |
| 3 フィルタリングをいつ外せばよいのか悩ましい                         | 8.8       | 8.6     | 8.7       |
| 4 フィルタリングをかけていても危険は多い                           | 41.9      | 48.4    | 44.4      |
| 5 フィルタリングをかけていると自分で情報を取捨選択する能力が育たないのではないかと思う    | 4.2       | 4.4     | 4.3       |
| 6 フィルタリングをかけていれば安心だと思う                          | 12.8      | 14.3    | 13.4      |
| 7 フィルタリングをかけていれば迷惑メールも来ないと思う                    | 7.8       | 5.6     | 6.9       |
| 8 フィルタリングをかけていればウイルスにも感染しないと思う                  | 5.8       | 3.6     | 5.0       |
| 9 その他( )  | 1.6       | 1.9     | 1.7       |
| 10 特に考えていることはない                                 | 32.1      | 18.7    | 26.9      |
| Q14 お子さまが使うスマートフォンでペアレンタルコントロールの機能を利用していますか。次   | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
| の中からあてはまるものをお選びください。(1つだけ)                      | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
| 1 利用している  | 5.2       | 7.2     | 5.9       |
| 2 利用していない                                       | 28.7      | 34.1    | 30.8      |
| 3 ペアレンタルコントロールが何なのかわからない                        | 66.2      | 58.7    | 63.3      |
| Q15 お子さまの使っているスマートフォンの名義は誰ですか。                  | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
| ※Q11=3の場合、選択肢2を非表示                              | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
| 1 親   | 97.0      | 96.1    | 96.7      |
| 2 子供  | 1.0       | 2.7     | 1.6       |
| 3 その他( )  | 2.0       | 1.3     | 1.7       |

| Q16 スマートフォンの利用についてお子さまにはどのようにルール作りや指導をしていますか。<br>あてはまるものをお選びください。(いくつでも)  | 6歳未満<br>(N=1,029) | 6~12歳<br>(N=642) | 全体<br>(N=1,671) |
|---|-------------------|------------------|-----------------|
| 1 利用時間を決めている  | 52.5              | 56.2             | 53.9            |
| 2 課金の上限を決めている   | 4.9               | 7.8              | 6.0             |
| 3 利用マナーの確認(食事中は使用しない、歩きスマホをしない、公共の場ではマナーモードにすることなど)                       | 23.5              | 47.7             | 32.8            |
| 4 ネットの情報をむやみに信じない   | 7.9               | 23.1             | 13.7            |
| 5 ネット上の危険(有害情報、詐欺、誹謗中傷、いじめなど)に対する回避や対処の仕<br>方                             | 8.0               | 21.3             | 13.1            |
| 6 有料のサイトやアプリを利用しない  | 22.2              | 59.4             | 36.5            |
| 7 スマートフォンのパスワードを保護者に教える   | 4.0               | 14.8             | 8.1             |
| 8 著作権、肖像権などの法的権利を遵守する(違法ダウンロードをしない、使用許諾を得るなど)                             | 6.4               | 13.9             | 9.3             |
| 9 自分のプライバシーを守るための対処法 (SNSの設定、むやみに自分の情報を公にしない、登録の必要なサイトは保護者の許可を得てから利用するなど) | 8.0               | 25.1             | 14.5            |
| 10 他人のプライバシーを尊重する(他人の情報や写真を断わりなくSNSなどに載せないなど)                             | 6.8               | 17.5             | 10.9            |
| 11 他人を傷つけるような書込みをしない  | 9.5               | 25.9             | 15.8            |
| 12 ネット上だけの友だちは作らない  | 6.1               | 16.0             | 9.9             |
| 13 自分の気持ちを伝えたいときは、直接会って話す   | 8.7               | 12.9             | 10.3            |
| 14 その他( )   | 3.2               | 3.4              | 3.3             |
| 15 ルール作りや指導の必要を感じていない   | 4.9               | 1.4              | 3.5             |
| 16 必要性は感じているが、特にルール作りや指導はしていない  | 19.7              | 4.7              | 13.9            |
| Q17 スマートフォンの使い方のことでお子さまに指導するのは主に誰の役割ですか。(1つだけ) ※ <b>Q16=1~14限定</b>        | 6歳未満<br>(N=776)   | 6~12歳<br>(N=603) | 全体<br>(N=1,379) |
| 1 ご自身が主に指導している  | 71.3              | 66.3             | 69.1            |
| 2 配偶者/パートナーが主に指導している  | 10.8              | 10.8             | 10.8            |
| 3 ご自身と配偶者/パートナーが同じくらい指導している   | 17.5              | 22.9             | 19.9            |
| 4 他の家族が主に指導している (具体的に: )  | 0.4               | 0.0              | 0.2             |

| らお選びください。(いくつでも)   | じていることを次の中か   | 6歳未満<br>(N=1,029)   | 6~12歳<br>(N=642)   | 全体<br>(N=1,671)  |
|--|---|---|--|--|
| 1 知識が乏しいため、何を指導したらいいかわからない                               |   | 9,2   | 14.8   | 11.4   |
| 1  |   | 10.3  | 11.4   | 10.7   |
| 3 指導のきっかけがつかめない  |   | 3.6   | 4.4  | 3.9  |
| 3   14号のとうががかっかめない                                       |   | 4.7   | 5.3  | 4.9  |
| 1  |   | 14.5  | 26.6   |  |
| 3 指導しての美原にするれているが推議する方法がない<br>  6 指導をしているが、聞いてくれない       |   | 10.2  | 13.7   | 19.2   |
| 百号をしているが、聞いてれない  |   | 2.1   | 13.7   | 11.6   |
| プロンが相等に及していても、叱れない<br>  8 学校の指導で十分であり、家庭で指導する必要はない       |   |   |  | 1.9  |
|  | \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \                                       | 1.6   | 1.4  | 1.5  |
| 9 子どもは問題なくスマートフォンを使えているので、指導の必要はな                        | (6)   | 10.2  | 20.1   | 14.0   |
| 10 その他(  |   | 3.2   | 3.0  | 3.1  |
| 11 特に感じたことはない  | ++++++++++++++++++++++++++++++++++++++                                      | 45.5  | 25.9   | 37.9   |
| Q19 お子さまのスマートフォン利用に関して、次のようなことをしていまいくつでもお選びください。 (いくつでも) | t 9 か。めてはまるものを  <br>  | 6歳未満<br>(N=1,029)   | 6~12歳<br>(N=642)   | 全体<br>(N=1,671)  |
|  |   | , ,   | ` ′  |  |
| 1 毎月の利用明細をチェックしている                                       |   | 8.2   | 16.2   |  |
| 2 サイトの閲覧履歴をチェックしている                                      |   | 7.9   | 17.8   | 11.7   |
| 3 スマートフォンにどのようなアプリが入っているかチェックしている                        | 7.7   | 11.8  | 30.2   | 18.9   |
| 4 LINEや他のSNSでどのようなメッセージをやり取りしているかチェック                    | /し(いる<br>   | 3.8   | 16.4   | 8.6  |
| 5 可能な時はスマートフォンで何をしているか後ろから観察している                         |   | 28.5  | 31.8   | 29.7   |
| 6 スマートフォン向けのウイルス対策ソフトを入れている                              |   | 7.6   | 13.2   | 9.8  |
| 7 子どもが利用しているアプリを自分でも使っている                                |   | 17.2  | 17.0   | 17.1   |
| 8 その他( )   |   | 1.2   | 2.0  | 1.5  |
| 9 何もしていない  | WT 75 4 - 1 1 - 1 1 1 1   | 43.8  | 26.0   | 37.0   |
| Q20 あなたがお子さまとコミュニケーションを取る頻度の高いものから                       | 順番をつけてくたさい。   | 6歳未満<br>(N=1,029)   | 6~12歳<br>(N=642)   | 全体<br>(N=1,671)  |
| (1) 対面   | 1位  | 78.4  | 89.9   | 82.8   |
|  | 2位  | 1.4   | 1.4  |  |
|  | 3位  |   | 1.7  | 1.4  |
|  |   | 1.3   | 1.3  | 1.4<br>1.3   |
|  | 4位  | 1.3<br>1.9  |  |  |
|  | 1   | -   | 1.3  | 1.3  |
| <br>   | 4位<br>利用していない<br>1位   | 1.9   | 1.3<br>0.6   | 1.3<br>1.4   |
| (2) LINE(LINE通話を除く)                                      | 利用していない   | 1.9<br>17.1   | 1.3<br>0.6<br>6.9  | 1.3<br>1.4<br>13.2   |
| (2) LINE(LINE通話を除く)                                      | 利用していない   | 1.9<br>17.1<br>3.6  | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7   | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3  |
| (2) LINE(LINE通話を除く)                                      | 利用していない<br>1位<br>2位<br>3位   | 1.9<br>17.1<br>3.6<br>8.6<br>8.3  | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7<br>23.5   | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3<br>10.8  |
| (2) LINE(LINE通話を除く)                                      | 利用していない<br>1位<br>2位<br>3位<br>4位   | 1.9<br>17.1<br>3.6<br>8.6<br>8.3<br>3.0   | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7<br>23.5<br>14.8<br>8.3  | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3<br>10.8<br>5.0   |
|  | 利用していない<br>1位<br>2位<br>3位<br>4位<br>利用していない                                  | 1.9<br>17.1<br>3.6<br>8.6<br>8.3  | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7<br>23.5<br>14.8<br>8.3<br>50.8  | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3<br>10.8<br>5.0<br>66.7   |
| (2) LINE(LINE通話を除く) (3) メール                              | 利用していない<br>1位<br>2位<br>3位<br>4位<br>利用していない                                  | 1.9<br>17.1<br>3.6<br>8.6<br>8.3<br>3.0<br>76.6   | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7<br>23.5<br>14.8<br>8.3<br>50.8  | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3<br>10.8<br>5.0<br>66.7   |
|  | 利用していない<br>1位<br>2位<br>3位<br>4位<br>利用していない<br>1位<br>2位                      | 1.9<br>17.1<br>3.6<br>8.6<br>8.3<br>3.0<br>76.6<br>0.7<br>2.4                                       | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7<br>23.5<br>14.8<br>8.3<br>50.8<br>1.3<br>5.6  | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3<br>10.8<br>5.0<br>66.7<br>0.9<br>3.7                                       |
|  | 利用していない 1位 2位 3位 4位 利用していない 1位 2位 3d  | 1.9<br>17.1<br>3.6<br>8.6<br>8.3<br>3.0<br>76.6<br>0.7<br>2.4<br>7.1                                | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7<br>23.5<br>14.8<br>8.3<br>50.8<br>1.3<br>5.6<br>14.5                                | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3<br>10.8<br>5.0<br>66.7<br>0.9<br>3.7<br>9.9                                |
|  | 利用していない 1位 2位 3位 4位 利用していない 1位 2位 3位 4位                                     | 1.9<br>17.1<br>3.6<br>8.6<br>8.3<br>3.0<br>76.6<br>0.7<br>2.4<br>7.1                                | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7<br>23.5<br>14.8<br>8.3<br>50.8<br>1.3<br>5.6<br>14.5<br>27.0                        | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3<br>10.8<br>5.0<br>66.7<br>0.9<br>3.7<br>9.9                                |
| (3) メール  | 利用していない 1位 2位 3位 4位 利用していない 1位 2位 3位 4位 利用していない 1位 4位 利用していない 1付 4位 利用していない | 1.9<br>17.1<br>3.6<br>8.6<br>8.3<br>3.0<br>76.6<br>0.7<br>2.4<br>7.1<br>12.2<br>77.7                | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7<br>23.5<br>14.8<br>8.3<br>50.8<br>1.3<br>5.6<br>14.5<br>27.0<br>51.7                | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3<br>10.8<br>5.0<br>66.7<br>0.9<br>3.7<br>9.9<br>17.8<br>67.7                |
|  | 利用していない 1位 2位 3位 4位 利用していない 1位 2位 3位 4位 利用していない 1位 1位 1位 1位 1位 1位           | 1.9<br>17.1<br>3.6<br>8.6<br>8.3<br>3.0<br>76.6<br>0.7<br>2.4<br>7.1<br>12.2<br>77.7                | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7<br>23.5<br>14.8<br>8.3<br>50.8<br>1.3<br>5.6<br>14.5<br>27.0<br>51.7                | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3<br>10.8<br>5.0<br>66.7<br>0.9<br>3.7<br>9.9<br>17.8<br>67.7<br>0.9         |
| (3) メール  | 利用していない 1位 2位 3位 4位 利用していない 1位 2位 3位 4位 1位 2位 3位 4位 利用していない 1位 2位 3位 4位     | 1.9<br>17.1<br>3.6<br>8.6<br>8.3<br>3.0<br>76.6<br>0.7<br>2.4<br>7.1<br>12.2<br>77.7<br>1.2<br>16.4 | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7<br>23.5<br>14.8<br>8.3<br>50.8<br>1.3<br>5.6<br>14.5<br>27.0<br>51.7<br>0.5<br>34.7 | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3<br>10.8<br>5.0<br>66.7<br>0.9<br>3.7<br>9.9<br>17.8<br>67.7<br>0.9<br>23.5 |
| (3) メール  | 利用していない 1位 2位 3位 4位 利用していない 1位 2位 3位 4位 利用していない 1位 1位 1位 1位 1位 1位           | 1.9<br>17.1<br>3.6<br>8.6<br>8.3<br>3.0<br>76.6<br>0.7<br>2.4<br>7.1<br>12.2<br>77.7                | 1.3<br>0.6<br>6.9<br>2.7<br>23.5<br>14.8<br>8.3<br>50.8<br>1.3<br>5.6<br>14.5<br>27.0<br>51.7                | 1.3<br>1.4<br>13.2<br>3.2<br>14.3<br>10.8<br>5.0<br>66.7<br>0.9<br>3.7<br>9.9<br>17.8<br>67.7<br>0.9         |

| Q21 お子さまとの関係についてどのようにお考えですか。次のそれぞれについてはまるかお選びください。(1つずつ) | どの程度あて  | 6歳未満<br>(N=1,029) | 6~12歳<br>(N=642) | 全体<br>(N=1,671) |
|--|---------|-------------------|------------------|-----------------|
| (1) 子どもと話をするのが好きである あてはま                                 | る側      | 93.5              | 91.9             | 92.9            |
| あてはま   | らない側    | 6.5               | 8.1              | 7.1             |
| (2) 家庭内でよくコミュニケーションをとっている あてはま                           | る側      | 94.0              | 93.3             | 93.7            |
| あてはま   | らない側    | 6.0               | 6.7              | 6.3             |
| (3) 子どもと意見が異なるときはお互いが納得いくまで話し合う あてはま                     | <br>る側  | 70.7              | 78.2             | 73.6            |
| あてはま   | らない側    | 29.3              | 21.8             | 26.4            |
| (4) 子どもをほめるより叱ることの方が多い あてはま                              | る側      | 57.8              | 61.5             | 59.2            |
| あてはま   | らない側    | 42.2              | 38.5             | 40.8            |
| (5) 子どもの欠点がどうしても目についてしまう あてはま                            | る側      | 67.3              | 81.0             | 72.6            |
| あてはま   | らない側    | 32.7              | 19.0             | 27.4            |
| (6) 自分は子どもから頼りにされている あてはま                                | <br>る側  | 93.8              | 89.7             | 92.2            |
| あてはま   | らない側    | 6.2               | 10.3             | 7.8             |
| (7) 自分は子どもから好かれている あてはま                                  | る側      | 92.7              | 91.1             | 92.1            |
| あてはま   |         | 7.3               | 8.9              | 7.9             |
| Q22 お子さまがスマートフォンを利用する中で、次のような経験をされたことが                   | ありますか。あ | 6歳未満              | 6~12歳            | 全体              |
| なたが把握している限りで結構ですので、あてはまるものをお選びください。(い                    | くつでも)   | (N=1,029)         | (N=642)          | (N=1,671)       |
|  |         |                   |                  |                 |
| 1 有害サイト・アプリ(ポルノ、犯罪、暴力、自殺、家出、薬物、違法バイトな                    | どに関するも  | 5.3               | 7.0              |                 |
| 2 架空請求・不当請求を受ける  |         | 5.4               | 4.7              | 5.2             |
| 3 使いすぎによる高額請求を受ける(架空請求・不当請求ではない)                         |         | 3.2               | 3.3              | 3.2             |
| 4 ネット上で言い争いや誹謗中傷などにあう                                    |         | 2.0               | 2.8              | 2.3             |
| 5 いたずらや悪ふざけの画像・動画を投稿する                                   |         | 1.2               | 1.7              | 1.4             |
| 6 自分から不用意にプライバシー情報を公開してしまう                               |         | 1.9               | 2.5              | 2.1             |
| 7 他人にプライバシー情報をさらされる                                      |         | 0.9               | 1.3              | 1.0             |
| 8 違法にアップロードされた動画や音楽をダウンロードした                             |         | 1.0               | 0.8              | 0.9             |
| 9 知らない人からメールやメッセージがきた                                    |         | 7.2               | 11.8             | 9.0             |
| 10 ネットの書き込みの削除ができなかった                                    |         | 0.3               | 0.2              | 0.2             |
| 11 上記の被害にあったことはない  |         | 72.2              | 70.3             | 71.5            |
| 12 把握していない   |         | 11.0              | 4.2              | 8.4             |
| Q23 スマートフォンに関して、お子さまの相談に一人で対処できない時どのよう                   | 5にしています | 6歳未満              | 6~12歳            | 全体              |
| か。次の中からあてはまるものをお選びください。(いくつでも)                           |         | (N=1,029)         | (N=642)          | (N=1,671)       |
| 1 配偶者/パートナーに相談する   |         | 52.1              | 57.9             | 54.3            |
| 2 友人・知人に尋ねる  |         | 25.0              | 29.4             | 26.7            |
| 3 ネット上の記事を見る   |         | 15.2              | 19.2             | 16.7            |
| 4 ネット掲示板やQ&Aサイトで尋ねる                                      |         | 6.7               | 7.2              | 6.9             |
| 5 機器メーカーやネット事業者の相談窓口で相談する                                |         | 3.1               | 5.0              | 3.8             |
| 6 ネットのトラブルに詳しい専門家に相談する                                   |         | 3.7               | 4.7              | 4.1             |
| 7 自治体の相談窓口で相談する  |         | 4.3               | 3.3              | 3.9             |
| 8 学校で相談する  |         | 4.0               | 6.5              | 5.0             |
| 9 警察で相談する  |         | 6.6               | 4.1              | 5.6             |
| 10 その他( )  |         | 2.1               | 2.0              | 2.1             |
| 11 分からなくても情報を得ようとはしない                                    |         | 3.2               | 1.3              | 2.5             |
| 12 独力で対処できているため、情報を得る必要はない                               | •       | 24.3              | 15.6             | 21.0            |

| Q24 家庭での指導・教育についてどのようにお考えですか。次のそれぞれについてあてはまる |             | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
|--|-------------|-----------|---------|-----------|
| ものをお選びください。 (1つずつ)                           |             | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
| (1) 子どもがスマートフォンを利用する中でトラブルを抱えているとした          | あてはまる系      | 89.2      | 91.3    | 90.0      |
| ら、それは保護者の責任である                               | あてはまらない系    | 10.8      | 8.7     | 10.0      |
| (2) 自分の配偶者/パートナーの、子どもへの情報機器の使わせ              | あてはまる系      | 51.5      | 44.9    | 49.0      |
| 方に不安がある                                      | あてはまらない系    | 48.5      | 55.2    | 51.1      |
| (3) 私は情報モラルに関する知識がある                         | あてはまる系      | 57.1      | 61.7    | 58.9      |
|  | あてはまらない系    | 42.9      | 38.3    | 41.1      |
| (4) 私は情報活用に関する知識がある                          | あてはまる系      | 43.2      | 44.4    | 43.7      |
|  | あてはまらない系    | 56.8      | 55.6    | 56.3      |
| (5) ごく小さい時から子供がスマートフォンを使うことに不安がある            | あてはまる系      | 81.0      | 82.2    | 81.5      |
|  | あてはまらない系    | 19.0      | 17.8    | 18.5      |
| Q25 子どもは未来の情報社会の担い手として期待されていますが、             | あなたは具体的にどうい | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
| うことを期待していますか。次の中からあてはまるものをお選びください。           | (いくつでも)     | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
|  |             |           |         |           |
| 1 新しい技術の開発                                   |             | 37.6      | 43.3    | 39.8      |
| 2 新しい製品の開発                                   |             | 27.8      | 27.3    | 27.6      |
| 3 新しいサービスの開発                                 |             | 32.3      | 34.9    | 33.3      |
| 4 情報の有効活用                                    |             | 32.8      | 43.8    | 37.0      |
| 5 その他( )                                     |             | 0.2       | 0.2     | 0.2       |
| 6 特に期待していない                                  |             | 29.5      | 23.1    | 27.1      |
| Q26 将来の情報社会に向けて、お子さまにはどのようなスキルを身(            | こつけてほしいですか。 | 6歳未満      | 6~12歳   | 全体        |
| 次の中からあてはまるものをお選びください。(いくつでも)                 |             | (N=1,029) | (N=642) | (N=1,671) |
| 1 情報活用能力                                     |             | 49.1      | 57.8    | 52.4      |
| 2 情報機器などを操作する能力                              |             | 32.7      | 41.1    | 35.9      |
| 3 情報収集能力                                     |             | 41.8      | 46.3    | 43.5      |
| 4 コミュニケーション力                                 |             | 77.8      | 80.5    | 78.8      |
| 5 協調性  |             | 58.5      | 62.3    | 60.0      |
| 6 リーダーシップ                                    |             | 22.8      | 28.4    | 25.0      |
| 7 社会貢献する力                                    |             | 27.7      | 32.2    | 29.4      |
| 8 問題解決力                                      |             | 53.6      | 65.7    | 58.3      |
| 9 創造力  |             | 49.7      | 52.3    | 50.7      |
| 10 困難な状況を乗り越える力                              |             | 59.6      | 69.2    | 63.3      |
| 11 その他( )                                    |             | 0.2       | 0.0     | 0.1       |
| 12 特に考えていない                                  |             | 8.1       | 4.2     | 6.6       |

| Q27 あなた自身についてお尋ねします。それぞれについて「はい」か「いいえ」でお答えください。 ※「 <b>はい」の数値</b> | 6歳未満<br>(N=1,029) | 6~12歳<br>(N=642) | 全体<br>(N=1,671) |
|--|-------------------|------------------|-----------------|
| 1 著作権を遵守している(著作者に使用許諾を得る、違法ダウンロードをしないなど)                         | 87.8              | 91.7             | 89.3            |
| 2 肖像権を遵守している(他人の写真をSNSに掲載するときは許諾を得る、子どもの写真をアップしないなど)             | 83.5              | 89.9             | 85.9            |
| 3 他人のプライバシーを尊重している   | 94.1              | 96.3             | 94.9            |
| 4 他人を傷つけるような書込みをしない  | 95.1              | 98.3             | 96.4            |
| 5 ネット上での保護者同士のトラブルを経験した  | 8.0               | 8.3              | 8.1             |
| 6 ネット上の誹謗中傷を経験した   | 13.7              | 8.9              | 11.9            |
| 7 家事や仕事の最中でもスマートフォンを使ってしまう                                       | 75.7              | 65.3             | 71.7            |
| 8 子どもとのコミュニケーションよりもスマートフォンの使用を優先したことがある                          | 61.2              | 48.8             | 56.4            |
| 9 子どもをあやすためにスマートフォンをよく使う   | 54.9              | 23.8             | 43.0            |
| 10 ネット上のサービスのパスワードやIDは、他人に知られぬようきちんと管理している                       | 84.0              | 87.5             | 85.3            |
| 11 自分や家族の写真を載せる時は、本人が分からないように画像加工などの工夫をして<br>いる                  | 59.7              | 68.7             | 63.1            |
| 12 SNSを利用する際は状況に応じて公開範囲の設定を変えている                                 | 79.5              | 78.2             | 79.0            |
| 13 インターネットに関する法律や条令に触れないように気を付けている                               | 87.3              | 91.4             | 88.9            |
| 14 ウイルスに感染したり、違法アプリに引っかからないようにセキュリティには気を付けている                    | 72.0              | 83.2             | 76.3            |
| 15 公共の場でスマートフォンを利用する際はマナーに気を付けている                                | 94.9              | 95.3             | 95.0            |
| 16 インターネット、スマートフォンに依存しないように気を付けている                               | 76.5              | 83.5             | 79.2            |
| Q28 ご自身がネットを使っていて経験したことを教えてください。 ※「はい」の数値                        | 6歳未満<br>(N=1,029) | 6~12歳<br>(N=642) | 全体<br>(N=1,671) |
| 1 ネットに自画撮り画像を載せたことがある  | 29.0              | 13.7             | 23.1            |
| 2 子どもなど家族の写真を本人に相談せずネットに載せたことがある                                 | 36.5              | 24.0             | 31.7            |
| 3 話題のアプリなどをネットやスマホで家族と楽しむことがある                                   | 68.1              | 66.5             | 67.5            |
| 4 インターネットで知り合い、ネット上でしか会話したことがない友達がいる                             | 26.7              | 19.5             | 23.9            |
| 5 インターネットで初めて知り合った相手と実際に会ったことがある                                 | 36.2              | 22.6             | 30.9            |
| 6 歩きながら、「ながらスマホ」をしたことがある   | 78.5              | 69.2             | 74.9            |
| 7 ネットで副収入を得たことがある  | 60.2              | 52.8             | 57.3            |
| 8 保護者同士のLINEなどのSNSのやりとりを面倒と感じることがあ                               | 63.0              | 68.4             | 65.1            |
| 9 家族に隠れてスマホを利用したことがある  | 23.4              | 17.6             | 21.2            |

| Q29 あなたのご家庭の世帯年収を次の中からお選びください。(1つだけ)      | 6歳未満              | 6~12歳    | 全体        |
|---|-------------------|----------|-----------|
|   | (N=1,029)         | (N=642)  | (N=1,671) |
| 1 200万円未満                                 | 5.3               | 5.3      | 5.3       |
| 2 200万円以上~400万円未満                         | 24.2              | 12.6     | 19.8      |
| 3 400万円以上~600万円未満                         | 29.8              | 27.9     | 29.1      |
| 4 600万円以上~800万円未満                         | 15.9              | 20.6     | 17.7      |
| 5 800万円以上~1,000万円未満                       | 5.1               | 9.0      | 6.6       |
| 6 1,000万円以上~1,200万円未満                     | 3.2               | 5.6      | 4.1       |
| 7 1,200万円以上~1,400万円未満                     | 0.9               | 2.0      | 1.3       |
| 8 1,400万円以上                               | 0.4               | 0.9      | 0.6       |
| 9 わからない/答えたくない                            | 15.2              | 16.0     | 15.5      |
| Q30 あなたの最終学歴を次の中からお選びください。学生の方は現在在学中の学歴をお | 6歳未満              | 6~12歳    | 全体        |
| 答えください。(1つだけ)                             | (N=1,029)         | (N=642)  | (N=1,671) |
| 1 中学卒                                     | 4.2               | 3.4      | 3.9       |
| 2 高校卒                                     | 30.2              | 28.7     | 29.6      |
| 3 短大·高専·専門学校卒                             | 36.6              | 43.5     | 39.3      |
| 4 大学卒                                     | 28.1              | 23.1     | 26.2      |
| 5 大学院卒                                    | 0.9               | 1.4      | 1.1       |
| Q31 あなたの現在の働き方を次の中からお選びください。(1つだけ)        | 6歳未満              | 6~12歳    | 全体        |
|   | (N=1,029)         | (N=642)  | (N=1,671) |
| 1 雇用者(フルタイム)                              | 16.2              | 17.1     | 16.6      |
| 2 雇用者 (パートタイム・アルバイト)                      | 22.3              | 43.2     | 30.3      |
| 3 自営業·自由業                                 | 1.5               | 2.5      | 1.9       |
| 4 専業主婦・主夫                                 | 58.6              | 35.8     | 49.9      |
| 5 学生                                      | 0.2               | 0.0      | 0.1       |
| 6 無職                                      | 0.8               | 0.9      | 0.8       |
| 7 その他( )                                  | 0.5               | 0.5      | 0.5       |
| Q32 配偶者/パートナーの有無をお答えください。                 | 6歳未満              | 6~12歳    | 全体        |
|   | (N=1,029)         | (N=642)  | (N=1,671) |
| あり  | 93.9              | 90.3     | 92.5      |
| なし  | 6.1               | 9.7      | 7.5       |
| Q33 一番小さいお子さまの性別をお答えください。                 | 6歳未満              | 6~12歳    | 全体        |
|   | (NI 1 020)        | (N=642)  | (N=1,671) |
|   | (N=1,029)         | (11-0-2) | , ,       |
| 男性  | (N=1,029)<br>44.7 | 43.8     | 44.3      |

教育現場のICT安全安心対策事業 実施報告書 0歳児からのIT機器利用と保護者の情報モラル報告書

発行・著作 一般社団法人日本教育情報化振興会 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル 8 階 TEL 03-5575-5365 FAX 03-5575-5366 http://www.japet.or.jp/

禁無断転載

